

令和5年度

教 育 要 項

教養教育

奈良県立医科大学
医学部 医学科

学籍番号

氏名

目 次

理念・ポリシー	3
奈良県立医科大学医学部医学科授業科目履修要領	6
奈良県立医科大学 カリキュラム図	17
令和5年度 教養教育 授業時間割表	18
授業科目紹介 (教養教育)	
基礎物理学Ⅰ	20
基礎物理学Ⅱ	22
基礎物理学Ⅲ	24
基礎物理学演習	26
基礎物理学実験	28
分析化学	30
有機化学	32
生体分子化学	34
医用材料化学	36
基礎化学実験	38
生命科学概論	40
分子生物学	43
基礎生物学	45
基礎生物学実験	49
数学Ⅰ	51
数学Ⅱ	54
数学Ⅰ演習	58
生物統計学	62
医療情報学	64
スポーツ実践Ⅰ	66
スポーツ実践Ⅱ	68
健康科学	70
English for Medical Purposes	72
医療に関わる倫理学Ⅰ	77
医療に関わる倫理学Ⅱ	79
哲学	81
アジア文化論	83
西洋文化論	86
異文化論	89
教育実践論	91

臨床心理学	95
社会福祉と医療法規	101
市民と法	103
医学研究入門	105
奈良学	107
次世代医療人育成論	109
行動科学 I	111
早期医療体験実習	114
医学・医療入門講義	115
デジタル医用工学	116
臨床手技実習入門 I	118
コンソーシアム実習	119
緊急医師確保枠学生地域医療特別実習 1	120
地域基盤型医療教育コース	122
研究医養成コース	123
奈良県立医科大学 卒業時アウトカム	125
出席確認端末 (Early Bird) について	128
試験に関する諸注意	129
奈良県立医科大学医学部公欠規程	130
奈良県立医科大学医学部医学科における成績評価異議申立てに関する要領	134
暴風警報発表時における授業の措置について	135
地震発生等災害時における授業の措置について	136
健康管理	137
令和 5 年度 医学科 学事計画【教養】	139

奈良県立医科大学の「建学の精神」

最高の医学と最善の医療をもって地域の安心と社会の発展に貢献します。

奈良県立医科大学の理念

本学は、医学、看護学およびこれらの関連領域で活躍できる人材を育成するとともに、国際的に通用する高度の研究と医療を通じて、医学および看護学の発展を図り、地域社会さらには広く人類の福祉に寄与することを理念とする。

奈良県立医科大学教育分野の理念と方針

理念 豊かな人間性に基づいた高い倫理観と旺盛な科学的探究心を備え、患者・医療関係者、地域や海外の人々と温かい心で積極的に交流し、生涯にわたり最善の医療提供を実践し続けようとする強い意志を持った医療人の育成を目指します。

- 方針**
1. 良き医療人育成プログラムの実践
 2. 教員の教育能力開発と教育の質保証
 3. 教育全般に関する外部有識者評価と学生参加の推進
 4. 学習環境と教育環境の充実

医学科教育目標

奈良県立医科大学は、将来、研究・医療・保健活動を通じて地域社会に貢献し、より広く人類の福祉と医学の発展に寄与できる人材を育成するため、医学・医療に関する基本的な知識、技術、態度・習慣を体得し、独創性と豊かな人間性を涵養し、あわせて生涯学習の基礎をつくることを教育の目標とする。

アドミッションポリシー

<アドミッションポリシー(入学者受入れの方針)>

理念を踏まえ、地域の医療と世界の医学・医療の発展を担い、人類の健康と福祉に貢献できる人材を育成するために、次のような資質を持った人を求めています。

<医学部医学科が求める学生像>

1 医師となる自覚が強く、人を思いやる心をもつ、人間性豊かな人

医師に求められる旺盛な科学的探求心、自然および人間・社会についての幅広い知識と向学心、自ら問題を解決しようとする主体性を持った人を求めます。加えて、豊かな人間性、高い倫理観ならびに社会性を有する人を求めます。

2 患者の立場に立って判断し、患者が安心して受診できる医師となれる人

医師には医学的知識とともに、良好な患者・医師関係を築くことができる十分なコミュニケーション能力、他職種と連携しチーム医療をリードできる能力が必要です。医師として自己研鑽ができ、自己の理念を持っているとともに、協調性に優れた人を求めます。

3 将来性豊かで、奈良県だけでなく日本、世界の医学界をリードできる人

地域医療に貢献するとともに、国際的にも活躍できる医師・研究者を育成します。入学後、世界の医学界でも活躍できる意欲と能力を高め、積極的に地域社会および国際社会に貢献できる人を求めます。

<入学者選抜の基本方針>

高等学校等で学習する全ての教科が医学科教育の土台になるため、いずれの入試においても、大学入学共通テストで、高等学校教育段階においてめざす基礎学力を確認します。

【一般選抜(前期日程及び後期日程)】

本個別学力検査では、医学科の学修に十分対応できる知識とそれを利活用した思考力、判断力及び表現力を確認します。さらに、面接を行い、本学のアドミッションポリシー、カリキュラムポリシー、ディプロマポリシーに係る資質を確認します。

【学校推薦型選抜】

緊急医師確保枠をはじめ、地域における高度な医療を推進し発展させることを目指す地域枠への入学を希望する者を対象に行います。個別学力検査、面接等で将来、地域医療・医学に貢献しようとする志し及び本学のアドミッションポリシー、カリキュラムポリシー、ディプロマポリシーに係る資質を確認します。

カリキュラムポリシー

1. 倫理観とプロフェッショナリズムの育成、コミュニケーション教育

教養教育では、自律心の向上と倫理学教育に重点を置く。プロフェッショナリズム、コミュニケーション教育に資するため、早期から、高齢者や乳幼児、障害者の施設を見学する機会を持ち、現場で人間的触れ合いを通じて知識だけでなく実践的な医療倫理的素養を培うカリキュラムを配置する。

2. 医学、医療とこれらに関連する領域の知識、技能、態度の習得

医学の基盤となる知識を早期から段階的に積み上げていく教育カリキュラムを配置する。

- ① 教養教育では語学や自然科学の基本を習得し、生命科学を学ぶための基盤を作り上げるカリキュラムを配置する。
- ② 基礎医学では、医学の根幹となる解剖学、生理学、生化学を学び、さらに、発展的な基礎医学知識を獲得できるように段階的なカリキュラムを配置する。
- ③ 臨床医学では、広範な知識と基本的臨床技能を習得できるようなカリキュラムを配置する。知識、技能、態度が共用試験（CBT、Pre-CC OSCE）による全国共通試験でも確認された後に、Student Doctorとして臨床実習に参加させる。
- ④ 臨床実習では、診療参加の実態を確保し、医療面接と診療技法を中心に実践的な教育を行う。また、臨床実習の終了時点でPost-CC OSCEを実施し、得られた臨床技能、態度の確認を行う。

3. 国際的な視野と科学的探究心の育成

すべての学生に、研究マインドを涵養するべく、リサーチ・クラークシップを実施する。関心の高い学生には、早期から生命科学系の研究に参加できるように、6年一貫の「研究医養成コース」を設けている。海外での実習の機会も設ける。

4. 医療を通じた地域社会への貢献

医療システムについての理解を深めることはもちろんであるが、大学内のみならず、奈良県を中心に地域社会、地域医療と関わりを持つ実体験を通じて、奈良の医療を良くしたいという意欲を高める体験型の教育を行っていく。このための6年一貫の「地域基盤型医療教育コース」を設ける。

ディプロマポリシー

所定の期間在学し、カリキュラムポリシーに沿って設定した授業科目を履修し、履修規程で定められた卒業に必要な単位と時間数を修得することが学位授与の要件である。卒業時には以下の能力が求められる。

1. 生命の尊厳と患者の権利を擁護できる高い倫理観とプロフェッショナリズムを身につけている。
2. 医学とそれに関連する領域の正しい知識を身につけている。
3. 医療を適切に実践できる知識、技能、態度を身につけている。
4. 良好な医療コミュニケーション能力を身につけている。
5. 医学、医療、保健を通じて地域社会へ貢献する意欲と能力を身につけている。
6. 国際的な視野と科学的探究心を身につけている。

奈良県立医科大学医学部医学科授業科目履修要領

(目的)

第1条 この要領は、奈良県立医科大学学則（平成19年4月1日。以下「学則」という。）第8条の規定により、奈良県立医科大学医学部医学科の授業科目（以下「科目」という。）の名称、履修方法等に関し必要な事項を定めるものとする。

(教育課程の区分)

第2条 教育課程を次のとおりとする。

- 一 教養教育 第1年次第1学期から第3学期まで
- 二 基礎医学教育
 - ア 基礎医学Ⅰ 第2年次第1学期から第3学期まで
 - イ 基礎医学Ⅱ 第3年次第1学期から第2学期まで
- 三 臨床医学教育
 - ア 臨床医学Ⅰ 第3年次第3学期から第4年次第2学期まで
 - イ 臨床医学Ⅱ 第4年次第3学期から第5年次第1学期まで
 - ウ 臨床医学Ⅲ 第5年次第2学期から第6年次第3学期まで

(科目等)

第3条 開設する科目、単位数、時間数及び履修年次は、教養教育授業科目表（別表1）、専門教育授業科目表（別表2-1、2-2、3）、臨床実習授業科目表（別表4）及び6年一貫教育授業科目表（別表5）のとおりにする。なお、6年一貫教育授業科目に「良き医療人育成プログラム」、「地域基盤型医療教育プログラム」、「臨床マインド育成プログラム」、「研究マインド育成プログラム」、「臨床英語強化プログラム」及び「地域基盤型医療教育コース」、「研究医養成コース」を設置する。

(履修条件・進級・卒業)

第4条 科目の履修、進級及び卒業の条件は次のとおりとする。なお、進級が認められなかった者については、未修得科目に加えてマイプログラム^{※1}を修得しなければ、進級することができない。ただし、卒業が認められなかった者については、この限りでない。

また、「地域基盤型医療教育コース」及び「研究医養成コース」を履修した者については、別に定めるとおりとする。

※1 マイプログラムとは、自己学習力の向上や個人が関心のある分野での成長促進等を目的として、学生ごとのキャリアデザインに沿った教育を実践するプログラムのことをいう。

一 教養教育

教養教育科目（別表1）及び6年一貫教育科目（別表5）を修得しなければ、基礎医学Ⅰに進級することができない。なお、教養教育において、必修科目38単位及び選択科目9単位以上を修得しなければならない。また、選択科目については、履修登録を指定期間内に行わなければならない。

二 基礎医学教育

ア 基礎医学Ⅰ

専門教育科目（別表2-1）及び6年一貫教育科目（別表5）を修得しなければ基礎医学Ⅱに進級することができない。

イ 基礎医学Ⅱ

専門教育科目（別表2-2）及び6年一貫教育科目（別表5）を修得し、基礎医学知識到達度評価試験（BNAT: Basic science kNowledge Achievement Test）を受験しなければ臨床医学Ⅰに進級することができない。

三 臨床医学教育

ア 臨床医学Ⅰ

専門教育科目（別表3）及び6年一貫教育科目（別表5）を修得し、CBT及び臨床実習前OSCE（以下「Pre-CC OSCE」という。）に合格しなければ臨床医学Ⅱに進級することができない。

イ 臨床医学Ⅱ

ローテーション型臨床実習（別表4）、6年一貫教育科目（別表5）及び臨床TBLを修得しなければ進級することができない。なお、臨床実習を長期間に渡って履修できない場合は、臨床教育部長の判断によりCBT及びPre-CC OSCEを課すこととする。

ウ 臨床医学Ⅲ

5年次臨床医学知識到達度評価試験（CNAT: Clinical science kNowledge Achievement Test）を受験し、選択型臨床実習（別表4）及び6年一貫教育科目（別表5）を修得し、臨床実習後OSCE（以下「Post-CC OSCE」という。）及び卒業試験（統合問題形式の筆記試験）に合格しなければ卒業することができない。なお、卒業できなかった学生は、6年次の第1学期から再履修し、Post-CC OSCE及び卒業試験に合格しなければ、卒業することができない。

（単位の計算方法）

第5条 科目の単位数は、1単位45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、学習方法に応じ、次の基準により、計算するものとする。

- 一 講義については、15時間をもって1単位とする。ただし、科目の内容によっては30時間をもって1単位とすることができる。
- 二 演習については、30時間をもって1単位とする。ただし、科目の内容によっては15時間をもって1単位とすることができる。
- 三 実習、実技及び実験については、45時間をもって1単位とする。ただし、科目の内容によっては30時間をもって1単位とすることができる。

(単位又は授業科目修得の認定)

第6条 授業科目の単位又は修得の認定は試験等により、教室主任又は科目責任者が行う。

(試験)

第7条 定期試験は、期日を定めて行う。

一 定期試験の期間は、あらかじめ公示する。

二 定期試験以外に担当教員が必要と認めたときは、臨時試験を行うことがある。

2 試験は筆答及び口頭又はそのいずれかをもって行う。

3 各科目について、授業時間数の3分の2以上出席^{*2}し、かつ担当教員の承認を得なければ当該科目の定期試験を受けることができない。ただし、公欠を認められた期間は、上記の授業時間数には含めないものとする。補講等が実施された場合は当該期間数に含めるものとする。「奈良県立医科大学医学部公欠規程」参照。

4 疾病その他やむを得ない事由のため、所定の期日に定期試験を受けることができない者は、担当教員の承認を得るとともに、別に定める試験欠席届を学長に提出しなければならない。

欠席届を提出した者については、担当教員が別に期日と方法を定めて追試験を行う。

5 授業科目の単位又は修得の認定についての評価方法は、別に教育要項で定める。

6 成績は、100点法によって表示し、60点以上をもって合格とする。60点未満の者については、原則として再試験を1回行い、合否を判定する。ただし、再試験の成績表示は、60点を上限とする。

7 試験において不正行為を行った者については、当該科目及び関連科目の試験を無効とし、進級又は卒業を停止する。不正行為が悪質であると判断された場合は、学則第41条による懲戒処分を行う。

(成績認定、進級判定)

第8条 成績認定及び進級判定は、教養教育協議会、基礎医学教育協議会、臨床医学教育協議会又は教務委員会から提出された成績資料に基づき、成績認定会議で審議を行う。

2 成績認定会議は、医学科長、教養教育部長、基礎教育部長、臨床教育部長及び教育開発センター専任教員をもって組織する。

3 成績認定及び進級判定の結果は、医学科長が医学部長に報告のうえ学長に報告し、学長が決定するものとし、その結果は、教授会議において報告するものとする。

(卒業認定)

第9条 卒業時の成績認定、授業科目の修了の認定及び卒業の認定は、教授会議で審議を行い、その結果を受けて卒業判定会議で審議を行う。

2 卒業判定会議は、医学科長、教養教育部長、基礎教育部長、臨床教育部長及び教育開発センター専任教員をもって組織する。

3 卒業時の成績認定、授業科目の修了の認定及び卒業の認定の結果は、医学科長が医学部長に報告のうえ学長に報告し、学長が認定するものとし、その結果は、教授会議において報告するものとする。

(雑則)

第10条 この要領に定めるもののほか、科目の履修に関し必要な事項は別に定める。

附 則

(施行期日)

- 1 この要領は、令和4年12月1日から施行する。

(経過措置)

- 2 第4条1項三号イ及びウに規定する5年次臨床医学知識到達度評価試験は、令和2年12月1日以降に臨床実習Ⅰを履修した者に対して適用し、同日前に臨床実習Ⅰを履修した者については、なお従前の例による。
- 3 第4条1項の進級が認められなかった者に関する規定は、統合臨床講義については、令和3年12月1日以降に履修した者に対して適用し、同日前に統合臨床講義を履修した者については、なお従前の例による。
- 4 第2条1項三号ア、イ及びウ並びに第7条6項の再試験の成績表示に関する規定は、臨床医学教育については、令和4年12月1日以降に履修した者に対して適用し、同日前に臨床医学教育を履修した者については、なお従前の例による。
- 5 第2条1項三号イ及びウ並びに第4条1項三号イ及びウの臨床医学Ⅱ及びⅢの履修内容等に関する規定は、令和4年12月1日以降に臨床医学Ⅱを履修した者に対して適用し、同日前に履修した者については、なお従前の例による。

※2 3分の2以上出席の考え方について

学則第41条に規定されているとおり、授業に出席することは学生の本分であり、出席不良者（正当の理由がなくて出席常でないもの）は退学、停学、又はけん責（文書注意）のいずれかの懲戒の対象となる。よって、授業時間数の3分の2を出席すれば、それ以上出席しなくてもよいというものではない。

履修要領第7条第3項に定めている「3分の2以上出席」の趣旨は、例えば、傷病によりやむを得ず欠席した場合等を考慮し、定期試験を受けることができる出席数の下限を定めているものである。

学則（抜粋）

第41条 学長は、学生がこの学則及びこの学則に基く規程並びに学長の指示及び命令にそむき、学生の本分に反する行為があったとき、これに対し懲戒処分として、けん責、停学又は退学の処分をすることができる。ただし、退学の処分は次の各号の一に該当する者のみに行うことができる。

- 一 性行不良で改善の見込がないと認められる者
- 二 学力劣等で成業の見込がないと認められる者
- 三 正当の理由がなくて出席常でない者
- 四 学校の秩序を乱し、その他学生としての本分に反した者

別表1 教養教育 医学科授業科目表

種類	授業科目	選択・必修		授業時間数			単位数	備考	
		前期	後期	時間/週	年間週数	計			
1	基礎物理学Ⅰ	◎		2	15	30	2		
	基礎物理学Ⅱ		△	2	15	30	2		
	基礎物理学Ⅲ		△	2	15	30	2		
	基礎物理学演習	◎		2	15	30	1		
	基礎物理学実験		◎	4	12	48	1		
2	分析化学	◎		2	15	30	2		
	有機化学	◎		2	15	30	2		
	生体分子化学		△	2	15	30	2		
	医用材料化学		△	2	15	30	2		
	基礎化学実験		◎	4	12	48	1		
3	生命科学概論	◎	◎	2	30	60	4		
	分子生物学		△	2	15	30	2		
	基礎生物学		△	2	15	30	2		
	基礎生物学実験	◎		4	12	48	1		
4	数学Ⅰ	◎	◎	2	30	60	4		
	数学Ⅱ		△	2	15	30	2		
	数学Ⅰ演習	△		2	15	30	1		
5	生物統計学	◎		2	15	30	2		
	医療情報学		△	2	8	16	1		
6	スポーツ実践Ⅰ	◎		2	15	30	1		
	スポーツ実践Ⅱ		◎	2	15	30	1		
	健康科学	△		2	15	30	2		
7	English for Medical Purposes	◎	◎	4	30	120	4		
8	医療に関わる倫理学Ⅰ	◎		2	15	30	2	3)	医看合同(注
	医療に関わる倫理学Ⅱ		△	2	15	30	2	3)	医看合同(注
	哲学	△		2	15	30	2	3)	医看合同(注
9	アジア文化論 (注1)	◎		2	15	30	1	3)	医看合同(注
	西洋文化論 (注2)		◎	2	15	30	1	3)	医看合同(注
	異文化論	△		2	15	30	2	3)	医看合同(注
10	教育実践論	◎		2	15	30	2	3)	医看合同(注
	臨床心理学		◎	2	15	30	2	3)	医看合同(注
	社会福祉と医療法規		◎	2	15	30	2	3)	医看合同(注
	行動科学Ⅰ		◎	2	15	30	2		
	市民と法		△	2	15	30	2		
11	医学研究入門	△		2	15	30	2		

◎…必修科目、△…選択科目

(注1) 「アジア文化論」：中国文化、韓国文化、インドネシア文化
(注2) 「西洋文化論」：ドイツ文化、フランス文化、英語圏文化、
(注3) 医学看護学合同教育科目：医学科および看護学科共通科目

別表2-1 基礎医学Ⅰ 専門教育授業科目表

授業科目	授業時間数		計
	講義	実習	
解剖学Ⅰ	45	48 (内解剖実習36)	180
解剖学Ⅱ	45	42 (内解剖実習27)	
発生・再生医学	27	-	27
生理学Ⅰ	48	90	186
生理学Ⅱ	48		
生化学	75	45	120
計	288	225	513

別表2-2 基礎医学Ⅱ 専門教育授業科目表

授業科目	授業時間数		計	
	講義	実習		
病理学	42	6	48	
病原体・感染防御医学	45	12	57	
微生物感染症学	30	21	51	
免疫学	45	12	57	
薬理学	27	33	60	
衛生学・公衆衛生学Ⅰ	63	0	63	
	疫学・予防医学	61	-	61
	公衆衛生学	2	-	2
計	252	84	336	

別表3 臨床医学Ⅰ 専門教育授業科目表

授業科目	担当講座	授業時間数
循環器疾患	循環器内科学	26
肝・胆・膵疾患	消化器内科学	17
呼吸器疾患	呼吸器内科学	26
消化管・乳腺疾患	消化器・総合外科学	29
腎疾患・尿路系疾患	泌尿器科学	29
画像診断・IVR	放射線診断・IVR学	7
精神・行動疾患	精神医学	24
血液疾患	呼吸器内科学	24
神経疾患	脳神経内科学／脳神経外科学	34
移植・再生医学	胸部・心臓血管外科学	17
眼疾患	眼科学	14
運動器疾患	整形外科	16
皮膚疾患	皮膚科学	10
膠原病・アレルギー疾患	腎臓内科学	10
耳鼻咽喉疾患	耳鼻咽喉・頭頸部外科学	14
東洋医学	教育開発センター	7
臨床腫瘍学・放射線治療学	放射線腫瘍医学	26
周産期医学	産婦人科学	19
小児疾患	小児科学	12
法医学	法医学	24
社会フィールド系実習		30
外傷・救急医学	救急医学	18
衛生学・公衆衛生学Ⅱ	公衆衛生学	27
社会フィールド系実習		30
感染症	感染症センター	17
内分泌代謝栄養疾患	糖尿病・内分泌内科学	25
総合診療	総合医療学	10
婦人疾患	産婦人科学	12
麻酔・疼痛管理	麻酔科学	17
口腔疾患	口腔外科学	14
在宅医療学	総合医療学	4
病理学実習	病理診断学	22
計		611

※ 統合臨床講義とは、基礎医学及び社会医学を臓器別・疾患別単位で関連づけ、統合し実施する授業形態のことをいう。

別表4 臨床実習授業科目表

授業科目	分類	診療科	授業時間数(週)
ローテーション型臨床実習	内科	循環器内科	1
		腎臓内科	1
		呼吸器・アレルギー内科	1
		消化器・代謝内科、中央内視鏡・超音波部	1
		糖尿病・内分泌内科	1
		脳神経内科、脳卒中センター	1
	外科	消化器外科・小児外科・乳腺外科	1
		心臓血管外科・呼吸器外科、先天性心疾患センター	1
		脳神経外科	1
		整形外科、四肢外傷センター	1
	専門性の高い診療科	歯科口腔外科	1
		眼科	1
		皮膚科、形成外科	1
		泌尿器科、透析部	1
		耳鼻咽喉・頭頸部外科、めまいセンター	1
		放射線・核医学科、総合画像診断センター、IVRセンター	1
		放射線治療科	1
		麻酔科、ペインセンター、中央手術部、緩和ケアセンター	1
		救急科	1
		リハビリテーション科	1
		腫瘍内科	1
		感染症センター（感染制御内科）	1
		輸血部（血液内科）	1
		中央臨床検査部／病理診断科	1
合計			24
選択型臨床実習	必修	産婦人科	4
		小児科、NICU	4
		精神科	4
		総合診療科	4
		内科から1診療科	4
		外科から1診療科	4
	選択	選択実習 4週×5ターム	20
合計			44

別表5 6年一貫教育授業科目表

《A 良き医療人育成プログラム》

No.	授 業 科 目	区分	教養教育	基礎医学Ⅰ	基礎医学Ⅱ	臨床医学Ⅰ	臨床医学Ⅱ	臨床医学Ⅲ	授業時間数
1	奈良学 (※注1)	必修	◎						30
2	次世代医療人育成論	必修	◎						30
3	ロールモデルを探す	必修		◎					9
4	VOP講座	必修		◎					9
5	基礎医学ⅠTBL	必修		◎					30
6	基礎医学ⅡTBL	必修			◎				30
7	臨床医学TBL	必修					◎		8
8	私のキャリアパスⅠ	必修			◎				12
9	私のキャリアパスⅡ	必修					◎		7
10	キャリアパス・メンター実習 (※注2)	必修						◎	16
11	行動科学Ⅰ (※注3)	必修	◎						30
12	行動科学Ⅱ	必修				◎			9
13	医療安全学Ⅰ (基礎編)	必修			◎				10
14	医療安全学Ⅱ (臨床編)	必修					◎		18
15	医師・患者関係学Ⅰ	必修				◎			6
16	医師・患者関係学Ⅱ	必修					◎		6
17	医師・患者関係学Ⅲ	必修						◎	3
18	実践的医療倫理Ⅰ	必修				◎			9
19	実践的医療倫理Ⅱ	必修						◎	3
20	多職種連携講座	必修					◎		3
21	Never do harm!	必修					◎		15
合 計									293

(注1) 《B 地域基盤型医療教育プログラム》NO.1と同一授業科目

(注2) 《C 臨床マインド育成プログラム》NO.8と同一授業科目

(注3) 教養教育授業科目の必修科目 (別表1参照)

《B 地域基盤型医療教育プログラム》

No.	授 業 科 目	区分	教養教育	基礎医学Ⅰ	基礎医学Ⅱ	臨床医学Ⅰ	臨床医学Ⅱ	臨床医学Ⅲ	授業時間数
1	奈良学 (※注4)	必修	◎						30
2	地域医療実習1	必修			◎				24
3	地域医療実習2	必修						◎	30
4	早期医療体験実習 (※注5)	必修	◎						24
5	緊急医師確保枠学生 地域医療特別実習1 (※注6)	必修	◎	◎	◎	◎			30
6	緊急医師確保枠学生 地域医療特別実習2 (※注7)	必修					◎	◎	10
7	コンソーシアム実習〈地域医療概論〉 (早稲田大・奈良医大連携講座) (※注8)	必修							◎ 夏季休暇中
合 計									178

(注4) 《A 良き医療人育成プログラム》NO.1と同一授業科目

(注5) 《C 臨床マインド育成プログラム》NO.3と同一授業科目

(注6) 1～4年の緊急医師確保入学試験枠の学生が履修

(注7) 5～6年の緊急医師確保入学試験枠の学生が履修

(注8) 夏季休暇中に行う集中講義 ※緊急医師確保入学試験枠の学生は、履修が必修

《C 臨床マインド育成プログラム》

No.	授 業 科 目	区分	教養教育	基礎医学Ⅰ	基礎医学Ⅱ	臨床医学Ⅰ	臨床医学Ⅱ	臨床医学Ⅲ	授業時間数
1	医学・医療入門講義	必修	◎						30
2	デジタル医用工学 (※注9)	必修	◎						8
3	早期医療体験実習 (※注10)	必修	◎						24
4	臨床手技実習入門Ⅰ	必修	◎						22
5	臨床手技実習入門Ⅱ	必修		◎					30
6	臨床手技実習入門Ⅲ	必修			◎				30
7	臨床手技実習	必修				◎			41
8	キャリアパス・メンター実習 (※注11)	必修						◎	16
9	救急車同乗実習	自由		□					—
合 計									201

(注9) 《D 研究マインド育成プログラム》NO.1と同一授業科目

(注10) 《B 地域基盤型医療教育プログラム》NO.4と同一授業科目

(注11) 《A 良き医療人育成プログラム》NO.10と同一授業科目

《D 研究マインド育成プログラム》

No.	授 業 科 目	区分	教養教育	基礎医学Ⅰ	基礎医学Ⅱ	臨床医学Ⅰ	臨床医学Ⅱ	臨床医学Ⅲ	授業時間数
1	デジタル医用工学 (※注12)	必修	◎						8
2	医学研究入門	選択	○						30
3	リサーチ・クラークシップ	必修		◎					252
4	研究医特別メンター実習 (※注13)	必修		◎	◎	◎			—
5	コンソーシアム実習 (先端医療工学と生命科学) (早稲田大・奈良医大連携講座) (※注14)	必修							30
◎ 夏季休暇中									
合 計									320

(注12) 《C 臨床マインド育成プログラム》NO.2と同一授業科目

(注13) 研究医養成コースの学生は、基礎医学Ⅰ～臨床医学Ⅰでの履修が必修

(注14) 夏季休暇中に行う集中講義 ※研究医養成コースの学生は、履修が必修

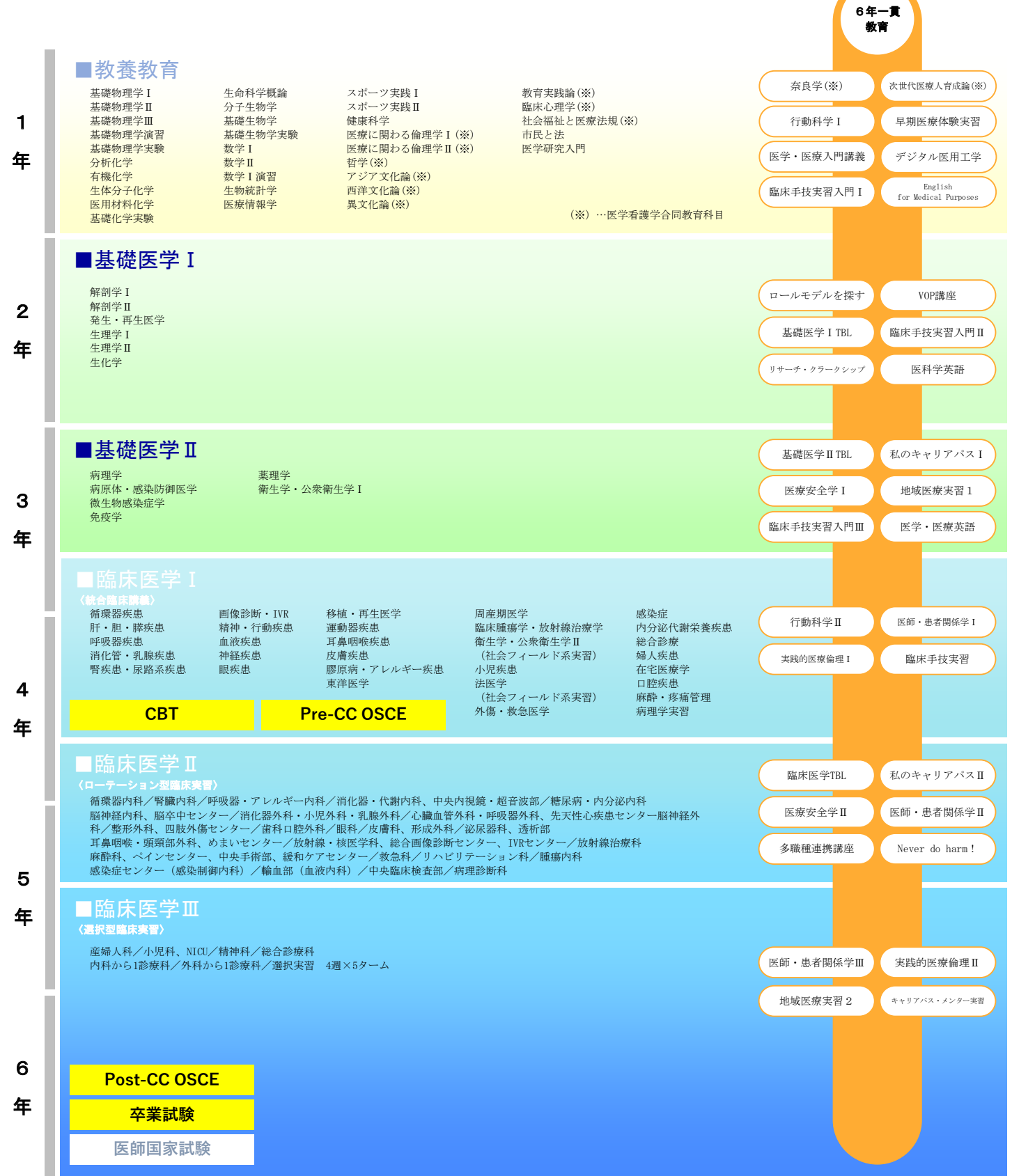
《E 臨床英語強化プログラム》

No.	授 業 科 目	区分	教養教育	基礎医学Ⅰ	基礎医学Ⅱ	臨床医学Ⅰ	臨床医学Ⅱ	臨床医学Ⅲ	授業時間数
1	English for Medical Purposes (※注15)	必修	◎						120
2	医科学英語	必修		◎					15
3	医学・医療英語	必修			◎				6
合 計									141

(注15) 教養教育授業科目の必修科目 (別表1参照)

No.	授 業 科 目	区分	教養教育 前期	基礎医学 I 前期	基礎医学 II 前期	臨床医学 I 前期	臨床医学 II 前期	臨床医学 III 前期	授業 時間数
4	Advanced English 1a: English for IELTS and TOEFL (speaking, reading)	自由	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>					—
5	Advanced English 1b: English for IELTS and TOEFL (writing, listening)	自由	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>					—
6	Remedial English	自由	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>					—
7	English for Medical Research Purposes	自由		<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	—
8	Advanced medical Vocabulary	自由		<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	—
9	Global Health issues	自由		<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	—
10	Advanced Clinical English I	自由			<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	—
11	Medical Ethics and the Law	自由			<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	—

奈良県立医科大学 カリキュラム図



ディプロマポリシー

- ① 生命の尊厳と患者の権利を擁護できる高い倫理観とプロフェッショナリズムを身につけている。
- ② 医学とそれに関連する領域の正しい知識を身につけている。
- ③ 医療を適切に実践できる知識、技能、態度を身につけている。
- ④ 良好な医療コミュニケーション能力を身につけている。
- ⑤ 医学、医療、保健を通じて地域社会へ貢献する意欲と能力を身につけている。
- ⑥ 国際的な視野と科学的探究心を身につけている。

令和5年度 教養教育 時間割表

【前期】

	月					火					水					木					金				
	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
Aクラス	有機化学	生物統計学A	生物統計学B	医学・医療入門講義 ※1		基礎物理学I	基礎物理学A 演習A	基礎物理学A	基礎生物学実験A	基礎生物学実験A	分析化学	English for Medical Purposes	数学I A	数学I 演習A		教育実践論A 医看	スポーツ実践I A	スポーツ実践I A	医療倫理に関わるI A	医学研究入門 ※1	アシア文化論 3クラス 医看	English for Medical Purposes	生命科学概論	哲学 医看	健康科学 ※2
Bクラス						基礎物理学I	基礎物理学B 演習B	基礎物理学B	基礎生物学実験B	基礎生物学実験B		English for Medical Purposes	基礎生物学実験B	基礎生物学実験B		医療倫理に関わるI B	スポーツ実践I B	スポーツ実践I B							

(※1) 補講候補日 (※2) Advanced Clinical English (希望者対象：16時40～18時10分)

前期授業期間：4月5日(水)～7月21日(金) 健康診断：5月8日(月)
 前期試験期間：7月24日(月)～8月2日(水)
 退・再試験期間(医看合同)：8月3日(木)、4日(金) 退・再試験期間(集中講義)：9月4日(月)～8日(金)
 次世代医療人育成講義(集中講義)：9月4日(月)～8日(金)

【後期】

	月					火					水					木					金				
	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
Aクラス	臨床心理学A 医看	行動科学I	基礎生物学 2クラス	分子生物学		臨床心理学C	臨床心理学B	臨床心理学A	臨床心理学C	臨床心理学B	臨床心理学A	臨床心理学C	臨床心理学B	臨床心理学A	臨床心理学C	臨床心理学B	臨床心理学A	臨床心理学C	臨床心理学B	臨床心理学A	臨床心理学C	臨床心理学B	臨床心理学A	臨床心理学C	臨床心理学B
Bクラス																									

(※3) 10月2日(月)から11月6日(月)まで開講
 (※4) 11月13日(月)から1月15日(月)まで開講
 (※5) 補講候補日 (※6) Advanced Clinical English (希望者対象：16時40～18時10分)

後期授業期間：9月15日(金)～12月22日(金)、1月4日(木)～15日(月) 後期試験期間：1月16日(火)～26日(金) AM
 退・再試験期間：2月5日(月)～9日(金) 奈良学(集中講義)：1月29日(月)～2月2日(金)
 休講日：【大学共通試験準備】1月12日(金)、【医推入試準備】1月26日(金) PM、【前期入試準備】2月22日(木)、【後期入試】3月11日(月)

1限目	9：00～10：30	2限目	10：40～12：10	3限目	13：00～14：30	4限目	14：40～16：10	5限目	16：20～17：50
-----	------------	-----	-------------	-----	-------------	-----	-------------	-----	-------------

□ 必必修科目
 □ 選択科目
 医看…医学看護学合同教育科目

授業科目紹介

(教養教育科目)

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	教養教育	2	必修
担当教員			
藤本 雅文			
添付ファイル			

全担当教員	藤本雅文			
概要	力学および波動に関わる自然現象を知る。このとき、自然は複雑であるが、複雑さの中に単純な法則が潜んでいることを認識する。また、このような法則が物理的な模型によって議論できることを理解し、その模型を自由に考察できる能力を養う。			
目標	<p>I 倫理観とプロフェッショナルリズム 物理現象の学習は医療者を目指す上で一つの礎となる。医学、医療の発展に貢献することを念頭に、力学、波動を学習し研鑽していくことができる。</p> <p>II 医学とそれに関する領域の知識 力学の法則と波動現象について、医学との密接な関わりを説明することが出来る。</p> <p>III 医療の実践 -</p> <p>IV チームマネジメントとコミュニケーション技能 指定された様式に従いノートを作成し、この学習をもとに、レポート、答案の作成、相互添削、説明が行える。</p> <p>V 医学、医療、保健、社会への貢献 -</p> <p>VI 国際的視野と科学的探究 現代物理学の研究で明らかになってきた新しい知見を理解し、説明できる。</p>			
評価方法	<p>■ 受講態度 (15%) 《 I 》</p> <p>■ ノート、小テスト、レポート (15%) 《 II, IV, VI 》</p> <p>■ 定期試験 (70%) 《 II, IV, VI 》</p> <p>《 》内は評価するアウトカムのコンピテンス番号を記載</p>			
授業計画	授業内容	授業形態	担当者	
【 I 】内は授業時に関係するモデル・コア・カリキュラムの番号を記載	第1回	2023年4月11日 (火) 運動の法則：質点の運動	講義	藤本
	第2回	2023年4月18日 (火) 運動の法則：慣性の法則	講義	藤本
	第3回	2023年4月25日 (火) 運動の法則：運動方程式	講義	藤本
	第4回	2023年5月2日 (火) 運動の法則：作用反作用の法則、束縛力	講義	藤本
	第5回	2023年5月9日 (火) 運動の法則：摩擦力	講義	藤本
	第6回	2023年5月16日 (火) 運動の法則：慣性力	講義	藤本
	第7回	2023年5月23日 (火) 力学的エネルギーと角運動量：仕事とエネルギー、力学的エネルギーの保存則	講義	藤本
	第8回	2023年5月30日 (火) 力学的エネルギーと角運動量：保存力とポテンシャルエネルギー、力のモーメントと角運動量	講義	藤本
	第9回	2023年6月6日 (火) 力学的エネルギーと角運動量：中心力と角運動量の保存則、ケプラーの法則と万有引力	講義	藤本

	第10回	2023年6月13日 (火) 多質点、剛体および弾性体の力学：重心の運動方程式	講義	藤本
	第11回	2023年6月20日 (火) 多質点、剛体および弾性体の力学：剛体のつりあい、剛体の回転	講義	藤本
	第12回	2023年6月27日 (火) 多質点、剛体および弾性体の力学：剛体の運動	講義	藤本
	第13回	2023年7月4日 (火) 多質点、剛体および弾性体の力学：弾性体	講義	藤本
	第14回	2023年7月11日 (火) 振動と波動：単振動の合成、強制振動と共鳴	講義	藤本
	第15回	2023年7月18日 (火) 振動と波動：波動	講義	藤本
授業外学修（事前学修・事後学修）	教務システムに毎週の講義資料を掲示し、これを用いた復習を行うものとする。（この自宅学習をふまえた小テストを次週の演習で行う。）			
テキスト	プリントを配布			
参考書	第5版「物理学基礎」 原康夫 著、学術図書 "GENERAL PHYSICS", Sternheim and Kane, John Wiley and Sons			
学生へのメッセージ等	講義を聞いているだけでは、十分な成果は得られなません。配布されるプリントを参照しながら、自分のノートを作っていくて下さい。 地味な作業になるかもしれませんが、様々な分野の基礎となる概念を多く含む学習になるはずです。 中学、高校の復習から始めますので、高校での選択・不選択に関わらず、積極的に参加してください。			

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	教養教育	2	選択
担当教員			
高木 拓明			
添付ファイル			

全担当教員	高木 拓明		
概要	電磁気学に関わる自然現象を知り、その背後に存在する普遍的な物理法則を、微分方程式を用いて理解する。医学や医療を学ぶ上でも重要となる、電気・電子回路や放射線、波動などの応用物理を身につける。		
目標	<p>I 倫理観とプロフェッショナルリズム 医学生として将来、医学・医療の発展に貢献するための基礎の1つとなる、電磁気学に関する知見を学習し研鑽することができる。</p> <p>II 医学とそれに関する領域の知識 電磁気学と医学の関わりについて説明できる。</p> <p>III 医療の実践 -</p> <p>IV チームマネジメントとコミュニケーション技能 レポートを規定に従って適切に作成し、必要に応じてその内容を発表できる。</p> <p>V 医学、医療、保健、社会への貢献 電磁気学に基づいた医学・医療の研究と開発が社会に貢献していることを理解できる。</p> <p>VI 国際的視野と科学的探究 <input type="checkbox"/> 医学的発見の基礎となる電磁気学の理論と方法論を理解し、説明できる。 <input type="checkbox"/> 科学的研究で明らかになった新しい知見を明確に理解し、説明できる。</p>		
評価方法	<p>■ 受講態度 (5%) 《I》</p> <p>■ 小テストとレポート (30%) 《II, IV, V, VI》</p> <p>■ 定期試験 (65%) 《II, V, VI》</p> <p>《》内は評価するアウトカムのコンピテンス番号を記載</p>		
授業計画	授業内容	授業形態	担当者
【I】内は授業時に関係するモデル・コア・カリキュラムの番号を記載	第1回 電気・電子回路 (1) : 直流電気回路の物理	講義	高木
	第2回 電気・電子回路 (2) : 交流電気回路の物理	講義	高木
	第3回 電気・電子回路 (3) : ダイオードとトランジスタの物理	講義	高木
	第4回 医療応用 (1) : 体温計の物理	講義	高木
	第5回 医療応用 (2) : 音波の物理	講義	高木
	第6回 医療応用 (3) : 放射線の物理	講義	高木
	第7回 医療応用 (4) : レンズとレーザーの物理	講義	高木
	第8回 電磁気学 (1) : 近接作用と静電場の物理 (1)	講義	高木
	第9回 電磁気学 (2) : 近接作用と静電場の物理 (2)	講義	高木
	第10回 電磁気学 (3) : 電流の磁気作用と静磁場の物理 (1)	講義	高木

	第11回 電磁気学 (4) : 電流の磁気作用と静磁場の物理 (2)	講義	高木
	第12回 電磁気学 (5) : 時間変化する電場と磁場の物理 (1)	講義	高木
	第13回 電磁気学 (6) : 時間変化する電場と磁場の物理 (2)	講義	高木
	第14回 電磁気学 (7) : 電磁波と電磁場の物理	講義	高木
	第15回 医療応用 (5) : AIと医療診断	講義	高木
授業外学修 (事前学修・事後学修)	遠隔授業の場合、授業内容を解説した動画をStream上に事前にアップロードするので、予習、復習に活用すること。		
テキスト	授業資料を電子ファイルで毎回配布する。		
参考書	物理の考え方2「電磁気学の考え方」 砂川重信 著, 岩波書店 新版「医・生物学系のための電気・電子回路」 堀川宗之 著, コロナ社 「やっかいな放射線と向き合って暮らしていくための基礎知識」 田崎晴明 著, 朝日出版社		
学生へのメッセージ等	電気・電子回路の物理と電磁気学を骨子として、関連する科学史も含めた講義を行います。放射線や波動なども取り上げて、医学や医療との関連も具体的に紹介します。基礎物理学実験とも一部連動した講義にしますので、能動的に取り組んで理解を深めて下さい。		

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	教養教育	2	選択
担当教員			
藤本 雅文			
添付ファイル			

全担当教員	藤本雅文		
概要	熱現象の理解という観点から重要になるエントロピーの概念を知り、熱現象を応用するにあたり重要になる自由エネルギーの考え方を理解する。		
目標	<p>I 倫理観とプロフェッショナリズム 熱現象の研究は、これまで多くの医学者が関わってきた分野である。このことを学ぶとともに、医学、医療の発展に貢献する使命感を持ち、熱現象を学習し研鑽していくことができる。</p> <p>II 医学とそれに関する領域の知識 熱現象の研究と医学の密接な関わりを説明することが出来る。</p> <p>III 医療の実践 -</p> <p>IV チームマネジメントとコミュニケーション技能 指定された処方に従い、計算、作図、表を用いて、レポートを作成できる。</p> <p>V 医学、医療、保健、社会への貢献 -</p> <p>VI 国際的視野と科学的探究 現代物理学の研究で明らかになってきた新しい知見とそれを応用した装置を理解し、説明できる。</p>		
評価方法	<p>■ 受講態度 (10%) 《 I 》</p> <p>■ レポート (45%) 《 II, IV, VI 》</p> <p>■ 定期試験 (45%) 《 II, IV, VI 》</p> <p>《 》内は評価するアウトカムのコンピテン্স番号を記載</p>		
授業計画	授業内容	授業形態	担当者
【 I 】内は授業時に関係するモデル・コア・カリキュラムの番号を記載	第1回 2023年9月15日 (金) 熱力学とはどのような分野であるのか	講義	藤本
	第2回 2023年9月22日 (金) 高校の物理の復習 1	講義	藤本
	第3回 2023年9月29日 (金) 高校の物理の復習 2	講義	藤本
	第4回 2023年10月6日 (金) 熱平衡状態	講義	藤本
	第5回 2023年10月20日 (金) 熱と仕事とエネルギー	講義	藤本
	第6回 2023年10月27日 (金) 完全微分と不完全微分	講義	藤本
	第7回 2023年11月10日 (金) 熱力学の第一法則とその定式化	講義	藤本
	第8回 2023年11月17日 (金) カルノーサイクルと熱力学の第二法則	講義	藤本
	第9回 2023年11月24日 (金) エントロピーと熱力学第二法則の定式化	講義	藤本
	第10回 2023年12月1日 (金) 自由エネルギー	講義	藤本

	第11回	2023年12月8日（金） 熱力学の応用	講義	藤本
	第12回	2023年12月15日（金） 量子力学の考え方	講義	藤本
	第13回	2023年12月22日（金） ボルツマンの原理	講義	藤本
	第14回	2024年1月5日（金） マクスウェル・ボルツマンの分布	講義	藤本
	第15回	2024年1月12日（金） まとめとさらなる学習について	講義	藤本
授業外学修（事前学修・事後学修）	教務システムに資料を掲示し、これを用いた予習復習を適時指示する。			
テキスト	プリントを配布			
参考書	物理学の考え方3「熱・統計力学の考え方」 砂川重信 著、岩波書店 "Fundamentals of statistical and thermal physics", F. Reif, McGraw-Hill Inc.			
学生へのメッセージ等	<p>高校の物理（化学）の復習から議論を始める予定です。 高校物理の学習経験のあるなしにかかわらず、意欲のある人はふるって参加して下さい。 温度計の発明は熱現象の研究の起源の一つとなりますが、これは医者が深く関わった出来事であったことが知られております。以後も医者立場からこの分野に貢献した人物は少なくありません。 結果として、赤外線サーモグラフィ、エアコンの原理などが、医療現場はもとより我々の生活を大きく変えたということも強調しておきます。 数式を用いた議論だけでなく、科学的な事柄、エピソードなども含めてお話しします。</p>			

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	教養教育	1	必修
担当教員			
藤本 雅文			
添付ファイル			

全担当教員	藤本雅文、高木拓明、北出智巳		
概要	基礎物理学の学習を念頭に置いて、講義内容に即した演習問題を考察する。同時に、物理学と密接に関連した数学的手法を知る。数学的手法の有用性を理解し、それらを自由に使用する能力を涵養する。		
目標	<p>I 倫理観とプロフェッショナルリズム 医学、医療の発展に貢献することを念頭に、様々な物理現象を数式、表、作図を用いて学習し研鑽することができる。</p> <p>II 医学とそれに関する領域の知識 力学の法則と波動現象、様々な物理現象の演習を通して、物理学と医学との密接な関わりを説明することができる。</p> <p>III 医療の実践 -</p> <p>IV チームマネジメントとコミュニケーション技能 指定された様式に従いノートを作成し、この学習をもとに、レポート、答案の作成、相互添削、説明が行える。</p> <p>V 医学、医療、保健、社会への貢献 -</p> <p>VI 国際的視野と科学的探究 現代物理学の研究で明らかになってきた新しい知見を理解し、説明できる。</p>		
評価方法	<p>■ 受講態度 (20%) 《 I 》</p> <p>■ ノート、小テスト、レポート (50%) 《 II, IV, VI 》</p> <p>■ 定期試験 (30%) 《 II, IV, VI 》</p> <p>《 》内は評価するアウトカムのコンピテン্স番号を記載</p>		
授業計画	授業内容	授業形態	担当者
【I】内は授業時に関係するモデル・コア・カリキュラムの番号を記載	第1回 2023年4月11日 (火) 微分と不定積分	演習	高木/藤本/北出
	第2回 2023年4月18日 (火) ベクトル	演習	高木/藤本/北出
	第3回 2023年4月25日 (火) 定積分	演習	高木/藤本/北出
	第4回 2023年5月2日 (火) 変数分離形の微分方程式	演習	高木/藤本/北出
	第5回 2023年5月9日 (火) 定係数の2階線形微分方程式	演習	高木/藤本/北出
	第6回 2023年5月16日 (火) 座標変換	演習	高木/藤本/北出
	第7回 2023年5月23日 (火) 線積分	演習	高木/藤本/北出
	第8回 2023年5月30日 (火) 偏微分	演習	高木/藤本/北出
	第9回 2023年6月6日 (火) 平面極座標	演習	高木/藤本/北出
	第10回 2023年6月13日 (火) 相対座標	演習	高木/藤本/北出

	第11回	2023年6月20日（火） 体積積分（球対称）	演習	高木/藤本/北出
	第12回	2023年6月27日（火） 体積積分（軸対称）	演習	高木/藤本/北出
	第13回	2023年7月4日（火） 表面積分（球対称）	演習	高木/藤本/北出
	第14回	2023年7月11日（火） フーリエ級数	演習	高木/藤本/北出
	第15回	2023年7月18日（火） 偏微分方程式	演習	高木/藤本/北出
授業外学修（事前学修・事後学修）	教務システムに掲示した講義資料を参照して、復習を行うことを前提とする。本演習では、この学習をふまえた小テストを行う。			
テキスト	プリントを配布			
参考書	第5版「物理学基礎」 原康夫 著、学術図書 "GENERAL PHYSICS", Sternheim and Kane, John Wiley and Sons			
学生へのメッセージ等	演習を見ているだけでは、十分な成果は得られません。示された演習問題を自分のノートに計算し、作図、表等も用いて解いていって下さい。最後の定期試験だけでなく、演習では普段の学習をノート、小テスト、レポートの形で評価していきます。 努力賞あり、敢闘賞ありの科目になります。			

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	教養教育	1	必修
担当教員			
藤本 雅文			
添付ファイル			

全担当教員	藤本 雅文、高木 拓明、中村 元彦、常田 琢、釣 優香		
概要	物理現象についての実験、観測を行い、力学、波動、熱などに関する物理法則を知る。同時に、基本的な測定機器の取り扱いや測定結果の解析法を理解する。		
目標	<p>I 倫理観とプロフェッショナルリズム</p> <p><input type="checkbox"/> 医学、医療の発展に貢献することを念頭に、様々な物理現象の実験、観測を行い、学習、研鑽することができる。</p> <p><input type="checkbox"/> 実験、観測を行うにあたってのルール、規則を理解し、それを遵守、実践することができる。</p> <p>II 医学とそれに関する領域の知識</p> <p>様々な物理現象について、医学との密接な関わりを説明することができる。</p> <p>III 医療の実践</p> <p>—</p> <p>IV チームマネジメントとコミュニケーション技能</p> <p><input type="checkbox"/> 実験チームを作り、そのメンバーとして役割を果たすことができる。</p> <p><input type="checkbox"/> 指定された様式に従いノートを作成し、これをもとに、プレゼンテーション、レポート作成ができる。</p> <p>V 医学、医療、保健、社会への貢献</p> <p>—</p> <p>VI 国際的視野と科学的探究</p> <p>現代物理学の研究で明らかになってきた新しい知見とそれを応用した装置を理解し、説明できる。</p>		
評価方法	<p>■ 受講態度（20%）《 I 》</p> <p>■ ノート、プレゼンテーション、レポート（50%）《 II, IV, VI 》</p> <p>■ 中間テスト（30%）《 I, II, IV, VI 》</p> <p>《 》内は評価するアウトカムのコンピテン番号を記載</p>		
授業計画	授業内容	授業形態	担当者
【I】内は授業時に関係するモデル・コア・カリキュラムの番号を記載	実験 A マイクロコンピュータ：中心極限定理と誤差の法則	実験	上記より4名の教官
	実験 B ヤング率の測定：最小二乗法を用いた測定値の解析	実験	上記より4名の教官
	実験 C 光の吸収と吸収スペクトル	実験	上記より4名の教官
	実験 D マイケルソン干渉計、光の回折と干渉	実験	上記より4名の教官
	実験 E 空気中の音速測定、音の振動数	実験	上記より4名の教官
	実験 F 超音波	実験	上記より4名の教官
	実験 G 空気の比熱比の測定、冷却法による液体の比熱測定	実験	上記より4名の教官
	実験 H 金属および半導体の電気抵抗	実験	上記より4名の教官
	実験 I 合金の熱解析	実験	上記より4名の教官
	実験 J	実験	上記より4名の教官

	自然放射能の計測		
	実験 K 電子の比電荷測定、電子線の回折	実験	上記より 4 名の教官
	実験 L プランク・ヘルツの実験、プランク定数の測定	実験	上記より 4 名の教官
	実験 M オシロスコープ	実験	上記より 4 名の教官
	実験 N トランジスタの特性、ホール効果	実験	上記より 4 名の教官
	注 各自が行うテーマ、3、4名の班に分かれて行うテーマがある。週ごとにテーマを指定し、試験を含め10週の授業を行う。		
授業外学修（事前学修・事後学修）	教務システムに提示された資料を参照し、これを用いた予習をノートに行うものとする。		
テキスト	資料を教務システムに掲示		
参考書	第4版「物理学基礎」 原康夫 著、学術図書		
学生へのメッセージ等	<p>基本的な測定機器の取り扱い、データの記録及び解析、レポートの作成などは、物理を専門とするしないにかかわらず重要なことである。本実験科目では先ずこれらの作業を重視します。実際に自分自身で操作してみる、計算してみる、まとめる、説明するといったことに積極的に取り組む姿勢はもとより、場合によっては、くり返し行う（やり直す）粘り強さも要求されます。</p> <p>物理の研究に起源を持つ装置が様々な医療現場で使われる時代になってきております；次に、このことを強調しておきます。学習を通して、医療現場に直結する実験テーマが多くあることがわかるはずです。限られた回数になりますが、多くのことを学習して行ってください。</p>		

講義科目名称： 分析化学

授業コード： I181060

英文科目名称： Analytical Chemistry

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	教養教育	2	必修
担当教員			
酒井 宏水			
添付ファイル			

全担当教員	酒井 宏水、山崎 正晴		
概要	ライフサイエンス全般の研究の手段として、さらには診断のための必要情報を得る手段として、様々な分析化学の技術が用いられている。本講義では、物質を構成する原子、分子の構造と性質について物理化学の基本概念についての知識を習得するとともに、主要な機器分析法についてその測定原理や、操作手法などについて知識を習得する。		
目標	<p>I 倫理観とプロフェッショナリズム 医学生としての自覚をもって授業に臨み、医学、医療の発展に貢献する使命感と責任感を持つことができる。</p> <p>II 医学とそれに関する領域の知識 分析化学と医学（診断・検査・分析）の関わりについて説明できる。</p> <p>III 医療の実践 -</p> <p>IV チームマネジメントとコミュニケーション技能 -</p> <p>V 医学、医療、保健、社会への貢献 医学・医療の研究に分析化学が関与し、社会に貢献していることを理解できる。</p> <p>VI 国際的視野と科学的探究 <input type="checkbox"/> 国際的視野で分析化学の発展を考えることができる。 <input type="checkbox"/> 医学的発見の基礎となる分析手法の理論と方法論を理解し、説明できる。</p>		
評価方法	<p>■ 受講態度 (5%) 《I》</p> <p>■ ミニツッペーパー提出 (10%) 《I, II, V, VI》</p> <p>■ 定期試験 (85%) の総合評価 《II, V, VI》</p> <p>《》内は評価するアウトカムのコンピテンス番号を記載</p>		
授業計画	授業内容	授業形態	担当者
【I】内は授業時に関係するモデル・コア・カリキュラムの番号を記載	第1回 2023年4月12日（水） ライフサイエンスに必要な分析化学（1）	講義	酒井
	第2回 2023年4月19日（水） ライフサイエンスに必要な分析化学（2）	講義	酒井
	第3回 2023年4月26日（水） 酸塩基平衡と生命との関わり	講義	酒井
	第4回 2023年5月10日（水） 分光光度法（紫外可視、蛍光、燐光）	講義	酒井
	第5回 2023年5月17日（水） 分光光度法（赤外線）	講義	酒井
	第6回 2023年5月24日（水） ESR法、NMR法	講義	酒井
	第7回 2023年5月31日（水） 光学顕微鏡、電子顕微鏡	講義	酒井
	第8回 2023年6月7日（水） 原子吸光分析、プラズマ発光分光分析、電気化学的測定法	講義	酒井
	第9回 2023年6月14日（水） ガスクロマトグラフィー、液体クロマトグラフィー	講義	酒井
	第10回 2023年6月21日（水）	講義	酒井

	電気泳動、核酸分析		
	第11回 2023年6月28日（水） 酵素活性測定法、酵素結合免疫測定法	講義	酒井
	第12回 2023年7月5日（水） 質量分析法	講義	酒井
	第13回 2023年7月12日（水） 臨床検査における分析化学の役割	講義	山崎正晴（中央臨床検査部）・酒井
	第14回 2023年7月19日（水） 同位体分析法	講義	酒井
	第15回 2023年7月24日（月） 補講として試験期間中に実施 分析化学の総括	講義	酒井
授業外学修（事前学修・事後学修）			
テキスト	教科書 「生命科学のための分析化学」（化学同人） プリント配布		
参考書	なし		
学生へのメッセージ等	医学を極めれば極めるほど、化学の重要性に気づきます。		

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	教養教育	2	必修
担当教員			
松平 崇			
添付ファイル			

全担当教員	松平 崇		
概要	ヒトの体は炭素骨格を基本とした有機化合物で構成されている。生体内の反応のほとんどすべては有機化学反応であり、有機化学の原理に従って進行する。従って、生体内で進行する複雑な反応を根本から理解するためには、有機化学の知識が不可欠である。本科目では、医学専門教育に関連する種々の学問の基礎となる、有機化学の基本的な考え方を習得する。		
目標	<p>I 倫理観とプロフェッショナリズム 医学生としてふさわしい行動を示すことができる。</p> <p>II 医学とそれに関する領域の知識 有機化学の基本的な考え方を習得し、生体分子の性質や反応との関連を理解できる。</p> <p>III 医療の実践 —</p> <p>IV チームマネジメントとコミュニケーション技能 —</p> <p>V 医学、医療、保健、社会への貢献 化学の発展が医薬品の研究と開発に重要な役割を果たしていることを理解できる。</p> <p>VI 国際的視野と科学的探究 基本的な化学反応のメカニズムを理解できる。</p>		
評価方法	<p>■ 受講態度 (10%) 《I》</p> <p>■ 小テスト (10%) 《II, V, VI》</p> <p>■ 定期試験 (80%) 《II, V, VI》</p> <p>《》内は評価するアウトカムのコンピテンンス番号を記載</p>		
授業計画	授業内容	授業形態	担当者
I内は授業時に関係するモデル・コア・カリキュラムの番号を記載	第1回 ガイダンス (なぜ有機化学が必要なのか) 原子の構造 (ヒトの体を構成する主な元素、電子配置と原子軌道)	講義	松平
	第2回 有機化合物の分子軌道 (共有結合の本質、炭素の混成軌道と分子の形の関係)	講義	松平
	第3回 有機酸と有機塩基 (酸と塩基の強さの指標(pKa)、置換基効果)	講義	松平
	第4回 有機化合物のIUPAC命名法 (系統名から構造式を導く)	講義	松平
	第5回 鏡像異性体とジアステレオマー (立体配置の表し方、立体異性体の性質の違い)	講義	松平
	第6回 有機化合物のコンホメーション変化 (ブタン、シクロヘキサン、生体分子のコンホメーション)	講義	松平
	第7回 有機化学反応の機構 (反応機構の表し方、ラジカル反応、求核置換反応)	講義	松平
	第8回	講義	松平

	生体を構成するカルボニル化合物 (脂肪、脂肪酸の一般的な性質と加水分解反応)		
第9回	触媒作用 (触媒作用の機構、求核性と求電子性)	講義	松平
第10回	カルボン酸エステルの化学反応 (リボソームにおけるタンパク質合成、環状エステルの化学) アルデヒド・ケトンが生成する酸化還元反応 (ヒドリド還元、生体内(in vivo)と試験管内(in vitro)での化学反応)	講義	松平
第11回	単糖の構造と水溶液中での化学平衡 (糖の鎖状構造と環状構造、アルデヒド・ケトンと主要な官能基との化学反応)	講義	松平
第12回	糖質の化学 (単糖と多糖の種類と構造、単糖の化学平衡、糖に特有の化学反応) アミノ酸の化学 (アミノ酸の化学構造と性質による分類)	講義	松平
第13回	タンパク質の化学 (アミド結合・ペプチド結合の性質と化学合成)	講義	松平
第14回	核酸の化学 (DNAとRNAの構造と化学的性質の違い、核酸の化学反応と突然変異)	講義	松平
第15回	有機合成化学 (炭素-炭素結合を形成する反応が化学工業分野や医薬品開発にもたらした恩恵とは?)	講義	松平
授業外学修(事前学修・事後学修)			
テキスト	教科書：基礎生命化学－分子から見た私たち－(かきく書房) 他に、プリントを配布する。		
参考書	ボルハルト・ショアー 現代有機化学(上、下巻)(化学同人) 生体分子の化学(化学同人) 化合物命名法(東京化学同人)		
学生へのメッセージ等	医学を学び、細胞、組織、臓器などを扱うようになると、ヒトの体は原子、分子、イオンで構成されているという自明の事実は忘れ去られてしまいがちです。生体が示す複雑な挙動の本質を理解するためには、分子レベルで構造と性質との関係を探求する必要があります。有機化学の講義は、そのための知識や思考を身につける助けとなるでしょう。		

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	教養教育	2	選択
担当教員			
山本 惠三			
添付ファイル			

全担当教員	山本惠三		
概要	生体内の反応を理解するためには、生体を構成する分子の化学的性質や反応性を理解することが重要である。本講義では、特にタンパク質と糖に焦点を当て、化学的構造、反応性、速度論的解釈、研究手法等を理解することを目的とする。		
目標	<p>I 倫理観とプロフェッショナリズム <input type="checkbox"/> 医学生としてふさわしい行動を示すことができる。 <input type="checkbox"/> 生涯にわたる医学研究の基礎を身につけることができる。</p> <p>II 医学とそれに関する領域の知識 生体分子と医学とのかかわりについて説明できる。</p> <p>III 医療の実践 文献を検索し、医学研究について理解することができる。</p> <p>IV チームマネジメントとコミュニケーション技能 協力して研究発表を構築したうえで発表することができる。</p> <p>V 医学、医療、保健、社会への貢献 生体分子がどのように機能しているかを理解できる。</p> <p>VI 国際的視野と科学的探究 リサーチマインドを持ち、医学研究についてアプローチすることができる。</p>		
評価方法	<p>■ 受講態度 (10%) 《I》 ■ 小テスト (10%) 《II、III、V、VI》 ■ 発表 (20%) 《I、II、III、IV、V、VI》 ■ 定期試験 (60%) 《II、V、VI》</p> <p>《》内は評価するアウトカムのコンピテンシ番号を記載</p>		
授業計画	授業内容	授業形態	担当者
<p>【I】内は授業時に関係するモデル・コア・カリキュラムの番号を記載</p>	第1回 2023年9月20日 (水) 講義内容の概説 生体分子化学では、どのように講義を進めるのかについて説明します。また、自主研究発表の内容について説明します。	講義	山本
	第2回 2023年9月27日 (水) 生体分子の立体化学 生体分子は高度にホモキラルであるため、enantiomerの化学についての理解を深めます。	講義	山本
	第3回 2023年10月4日 (水) タンパク質の化学的構造 1 タンパク質の1～4次構造について、化学的な視点からの理解を深めます。	講義	山本
	第4回 2023年10月11日 (水) タンパク質の化学的構造 2 タンパク質の構造を安定化する相互作用について理解します。	講義	山本
	第5回 2023年10月18日 (水) 糖の構造と化学反応 糖の絶対構造がどのようにして決定されてきたかを理解し、その中で使用された化学反応について学習します。	講義	山本
	第6回 2023年10月25日 (水) 化学反応と酵素反応の速度論 1 化学反応における1次、2次反応と反応速度定数の求め方を理解したうえで、酵素反応が化学反応とどのように異なるのかを速度論的に理解します。	講義	山本
	第7回 2023年11月1日 (水) 化学反応と酵素反応の速度論 2 酵素反応の現代的解釈について説明します。また、阻害剤が存在する場合の酵素反応の速度論について説明します。	講義	山本
	第8回 2023年11月8日 (水) リガンドの結合に対する物理化学的解釈 1	講義	山本

	タンパク質にリガンドが結合する場合の物理化学的性質について説明します。		
第9回	2023年11月15日（水） リガンドの結合に対する物理化学的解釈 2，モレキュラークラウディング リガンドの結合部位の数と結合数との関係式を求めます。 細胞内はどのような状態になっているかについて、化学的に解釈します。	講義	山本
第10回	2023年11月23日（木） 生体分子を見る方法 1 細胞を見る手法について概説します。	講義	山本
第11回	2023年11月29日（水） 生体分子を見る方法 2 タンパク質を見る手法について概説します。	講義	山本
第12回	2023年12月6日（水） 機能を持つタンパク質を得る方法 タンパク質研究法の変遷について説明します。	講義	山本
第13回	2023年12月13日（水） 自主研究発表 1 生体分子研究に関するトピックスについて調べ、発表してもらいます。	演習	山本
第14回	2023年12月20日（水） 自主研究発表 2 生体分子研究に関するトピックスについて調べ、発表してもらいます。	演習	山本
第15回	2024年1月15日（月） 演習 演習を行うことにより、講義内容について理解を深めてもらいます。	演習	山本
授業外学修（事前学修・事後学修）			
テキスト	教科書 プリントを配布します。		
参考書	参考書 有坂 文雄 蛋白質科学入門（裳華房） ボルハルト、ショアー 現代有機化学（化学同人） 大西 正健 酵素反応速度論入門（学会出版センター） Lehninger Principles of Biochemistry（W. H. Freeman and Company）		
学生へのメッセージ等	生体分子を化学的に理解することは、将来基礎医学を学ぶ基礎となるとともに、医学研究を行うための基礎となります。		

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	教養教育	2	選択
担当教員			
酒井 宏水			
添付ファイル			

全担当教員	酒井 宏水、武村 潤一		
概要	医用材料・人工臓器、ドラッグデリバリーシステムに使われている高機能材料、汎用性材料、さらに研究開発が進められている材料について、化学の視点から構造、物性、生体適合性、安全性に関する知識を習得する。医用材料・人工臓器の実物を目で見、手で触り、特徴を実感する。また、先進医療技術の課題についての理解を深める。		
目標	<p>I 倫理観とプロフェッショナリズム 医学生としての自覚をもって授業に臨み、医学、医療の発展に貢献する使命感と責任感を持つことができる。</p> <p>II 医学とそれに関する領域の知識 様々な医用材料が治療に使用されることについて化学的に説明することができる。</p> <p>III 医療の実践 -</p> <p>IV チームマネジメントとコミュニケーション技能 -</p> <p>V 医学、医療、保健、社会への貢献 医学・医療に医用材料が関与し、社会に貢献していること、またその課題を理解し、説明することができる。</p> <p>VI 国際的視野と科学的探究 医用材料の開発動向や課題を理解し、将来あるべき医療技術の研究開発を考え、リサーチマインドを持つことができる。</p>		
評価方法	<p>■受講態度(5%)《I》</p> <p>■ミニッツペーパー(10%)《I, II, V, VI》</p> <p>■定期試験(90%)《I, II, V, VI》</p> <p>《》内は評価するアウトカムのコンピテンス番号を記載</p>		
授業計画	授業内容	授業形態	担当者
【I】内は授業時に関係するモデル・コア・カリキュラムの番号を記載	第1回 2023年9月19日(火) 講義の概要 医用材料(無機材料)	講義	酒井
	第2回 2023年9月26日(火) 医用材料 (高分子材料)	講義	酒井
	第3回 2023年10月3日(火) 医用材料 (生体高分子材料)	講義	酒井
	第4回 2023年10月10日(火) 医用材料として用いられる高分子の合成と基本物性	講義	酒井
	第5回 2023年10月17日(火) 人工臓器として用いられる医用材料 (人工骨、人工関節、人工歯根など)	講義	酒井
	第6回 2023年10月24日(火) 人工臓器として用いられる医用材料 (人工心臓、人工血管、人工透析など) 臓器移植-人工臓器-再生医療	講義	酒井
	第7回 2023年10月31日(火) 人工臓器として用いられる医用材料 (アフエレシス、人工膵臓、インターフェース材料など)	講義	酒井
	第8回 2023年11月7日(火) 臨床外科手術現場における医用材料の使用法の実例	講義	武村(心臓血管外科)・酒井
	第9回 2023年11月14日(火) 医用材料に求められる生体適合性 (生体側の変化、材料側の変化)	講義	酒井

	第10回	2023年11月21日（火） 医用材料の滅菌操作法、ウイルス不活化・除去法	講義	酒井
	第11回	2023年11月28日（火） ドラッグデリバリーシステム(DDS)に使用される材料	講義	酒井
	第12回	2023年12月5日（火） リポソーム（1）疎水性相互作用とリポソームの形成、機能	講義	酒井
	第13回	2023年12月12日（火） リポソーム（2）ドラッグデリバリーシステムへの応用	講義	酒井
	第14回	2023年12月19日（火） 献血-輸血システムの課題、血液成分の役割とその代替物材料	講義	酒井
	第15回	2024年1月9日（火） 医用材料化学の総括	講義	酒井
授業外学修（事前学修・事後学修）				
テキスト	プリント配布			
参考書	堀内孝、村林俊 著 「医用材料工学」 コロナ社 橋田充 監修 「図解で学ぶDDS」 じほう			
学生へのメッセージ等	先進的医療技術を深く理解するには化学が不可欠です。医工連携の学際研究が新しい医用材料を誕生させます。			

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	教養教育	1	必修
担当教員			
山本 恵三			
添付ファイル			

全担当教員	山本 恵三、松平 崇、久禮 智子、山田 孫平、菅原 啓祐		
概要	医学専門科目の実習の準備として、実験方法の基礎を身につける。講義や実技を通じて器具や装置の正しい使い方を習得し、実験に臨む態度を身につけるとともに、ノートとレポートの提出を行い、実験記録の取り方、結果のまとめ方を学習する。		
目標	<p>I 倫理観とプロフェッショナリズム 医学生としてふさわしい行動を示すことができる。</p> <p>II 医学とそれに関する領域の知識 医学研究を行う上で基礎となる実験操作や測定方法について理解し、実践することができる。</p> <p>III 医療の実践 —</p> <p>IV チームマネジメントとコミュニケーション技能 □メンバーと協力して実験することができる。 □実験結果からレポートを作成することができる。</p> <p>V 医学、医療、保健、社会への貢献 —</p> <p>VI 国際的視野と科学的探究 科学的な理論と方法を理解し、実験し、記録することができる。</p>		
評価方法	<p>■ 実習中の受講態度 (20%) 《I、III》</p> <p>■ 実験ノート (定性実験) (40%) 《I、II、VI》</p> <p>■ レポート (定量実験) (40%) 《I、II、IV、VI》</p> <p>《》内は評価するアウトカムのコンピテン্স番号を記載</p>		
授業計画	授業内容	授業形態	担当者
【I】内は授業時に関係するモデル・コア・カリキュラムの番号を記載	第1回 定性実験ガイダンス	講義	山本、松平、久禮、山田、菅原
	第2回 無機陽イオン定性分析 I族金属イオンの分離・同定	実習	山本、松平、久禮、山田、菅原
	第3回 無機陽イオン定性分析 II族金属イオンの分離・同定	実習	山本、松平、久禮、山田、菅原
	第4回 無機陽イオン定性分析 III族金属イオンの分離・同定	実習	山本、松平、久禮、山田、菅原
	第5回 実技試験 未知試料中に含まれる金属イオンの分離、同定	実習	山本、松平、久禮、山田、菅原
	第6回 実技試験 未知試料中に含まれる金属イオンの分離、同定	実習	山本、松平、久禮、山田、菅原
	第7回 実技試験 (再試験) 未知試料中に含まれる金属イオンの分離、同定	実習	山本、松平、久禮、山田、菅原
	第8回 定量実験ガイダンス	講義	山本、松平、久禮、山田、菅原
	第9回 定量実験ガイダンス 器具、装置の使い方	実習	山本、松平、久禮、山田、菅原
	第10回* 中和滴定 滴定結果の統計処理	実習	山本、松平、久禮、山田、菅原

	第11回* 中和滴定 逆滴定と未知試料の濃度定量	実習	山本、松平、 久禮、山田、菅原
	第12回* pH測定 pH滴定曲線の作成と電離定数の決定	実習	山本、松平、 久禮、山田、菅原
	第13回* pH測定 緩衝液の調製と緩衝能の比較	実習	山本、松平、 久禮、山田、菅原
	第14回* 分光分析 モル吸光係数の測定	実習	山本、松平、 久禮、山田、菅原
	第15回* 分光分析 擬一次反応速度定数の測定	実習	山本、松平、 久禮、山田、菅原
	*注：10～15はローテーションを組んで実験を行うので、順番は前後します		
授業外学修（事前学修・事後学修）			
テキスト	プリントを配布する		
参考書	実験を安全に行うために（化学同人） クリスチャン分析化学 I 基礎（丸善） Introduction To Semimicro Qualitative Analysis (Prentice Hall, Inc.)		
学生へのメッセージ等	化学実験で習得する手法は、専門科目の実習や医学研究を行うための基礎となります。		

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	教養教育	4	必修
担当教員			
永渕昭良			
添付ファイル			

全担当教員	前期：永渕昭良 後期：永渕昭良、小林千余子、裏山悟司、後藤浩爾		
概要	<p>【前期】 細胞生物学の基本用語を習得し、生命活動の様式を分子・細胞レベルで理解する能力を身につける。</p> <p>【後期】 永渕・小林・裏山：細胞生物学の基本現象を理解し、それを説明する能力を身につける。 後藤：生物学の基本概念を習得し、それらがどのような研究によって生み出されてきたのかを理解する。 単なる知識の習得に止まらず、生物学の発想や研究手法、論理展開の方法を学ぶ。</p>		
目標	<p>I 倫理観とプロフェッショナリズム 医学生として、学習内容の把握に真剣に取り組み、自己研鑽に努める。</p> <p>II 医学とそれに関する領域の知識 生体を構成する細胞と分子について理解し、その働きを説明することができる。</p> <p>III 医療の実践 教科書や参考資料から、目的に応じた内容を見つけ出し、問題を解決することができる。</p> <p>IV チームマネジメントとコミュニケーション技能 異なった興味や知識をもった同級生と、意見を交換し、問題を解決することができる。</p> <p>V 医学、医療、保健、社会への貢献 -</p> <p>VI 国際的視野と科学的探究 細胞や分子に基づく知見が、国際的な研究に必要であることを理解し、その重要性を説明することができる。</p>		
評価方法 《》内は評価するアウトカム のコンピテンス番号を記載	<p>【前期】</p> <ul style="list-style-type: none"> ■定期試験 (90%) 《 I , II, VI》 ■受講態度 (10%) 《 I 》 <p>【後期】</p> <p>永渕・小林・裏山：</p> <ul style="list-style-type: none"> ■定期試験 (90%) 《 I , II, III, VI》 ■受講態度 (10%) 《 I, IV 》 <p>後藤：</p> <ul style="list-style-type: none"> ■定期試験 (80%) 《 I , II, III, VI》 ■受講態度 (20%：講義中の小テスト、提出課題、授業参加度) 《 I, IV 》 		
授業計画 【】内は授業時に関係する モデル・コア・カリキュラムの 番号を記載	授業内容	授業形態	担当者
第1回	ガイダンス 生物学学習の意味	講義	永渕
第2回	タンパク質の構成因子と構造	講義	永渕
第3回	複製の基本原理	講義	永渕
第4回	転写の基本原理	講義	永渕
第5回	翻訳の基本原理	講義	永渕
第6回	生体膜の構成因子と構造	講義	永渕
第7回	細胞骨格とモーター関連因子と基本機能	講義	永渕

第8回	生体における化学変化	講義	永渕
第9回	細胞内区画の基本機能とATP産生の基本原理	講義	永渕
第10回	これまでのまとめと演習問題	講義	永渕
第11回	細胞周期の基本原理	講義	永渕
第12回	細胞接着関連因子と基本機能	講義	永渕
第13回	膜電位の基本原理	講義	永渕
第14回	情報伝達の基本原理	講義	永渕
第15回	細胞生物学から見たがん	講義	永渕
第16回	複製の理解1 / 生物学の学び方、生物学の歴史	講義	永渕・小林・裏山 ／後藤
第17回	複製の理解2 / 生物の特徴	講義	永渕・小林・裏山 ／後藤
第18回	転写制御の理解 / 生体高分子	講義	永渕・小林・裏山 ／後藤
第19回	スプライシングの理解 / 細胞構造と細胞周期	講義	永渕・小林・裏山 ／後藤
第20回	複製・転写・翻訳のまとめ / 遺伝学1 (メンデル遺伝とその拡張)	講義	永渕・小林・裏山 ／後藤
第21回	クロマチンとDNA修復 / 遺伝学2 (非メンデル遺伝)	講義	永渕・小林・裏山 ／後藤
第22回	翻訳の理解1 / 遺伝学3 (遺伝子と染色体)	講義	永渕・小林・裏山 ／後藤
第23回	翻訳の理解2 / 分子生物学1 (DNAの構造と複製)	講義	永渕・小林・裏山 ／後藤
第24回	細胞周期の理解1 / 分子生物学2 (転写と翻訳)	講義	永渕・小林・裏山 ／後藤
第25回	細胞周期の理解2 / 分子生物学3 (遺伝子発現調節)	講義	永渕・小林・裏山 ／後藤
第26回	ATP産生の理解 / 分子生物学4 (分子発生学)	講義	永渕・小林・裏山 ／後藤
第27回	膜電位の理解1 / ウイルス	講義	永渕・小林・裏山 ／後藤
第28回	膜電位の理解2 / DNAテクノロジーと遺伝子工学	講義	永渕・小林・裏山 ／後藤
第29回	達成度評価 / ゲノム科学	講義	永渕・小林・裏山 ／後藤
第30回		講義	永渕・小林・裏山

	総復習と解説／まとめ（ゲノム、発生、進化）	／後藤
授業外学修（事前学修・事後学修）		
テキスト	<p>教科書</p> <p>【前期】 Essential細胞生物学 最新版 南江堂（現時点では原著第5版 2021年） プリント配布</p> <p>【後期】 永渕・小林・裏山：Essential細胞生物学 最新版 南江堂 プリント配布 後藤：キャンベル生物学 原書11版以降（原書/日本語版） プリント配布。</p>	
参考書	<p>【前期】 細胞の分子生物学 最新版</p> <p>【後期】 永渕・小林・裏山：細胞の分子生物学 最新版 後藤：ワトソン遺伝子の分子生物学 原書第7版（原書/日本語版）</p>	
学生へのメッセージ等	<p>【前期】 医学の基礎として、また一般教養として重要な生物学の基礎を確実に習得してください。</p> <p>【後期】 永渕・小林・裏山：生物学の基礎を問題を解くことにより、確実に理解してください。 後藤：生物学は医学の基礎となる学問です。 生物学を体系的に学ぶと共に、科学的根拠に基づいて論理的に思考することを身につけてください。</p>	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	教養教育	2	選択
担当教員			
永渕 昭良			
添付ファイル			

全担当教員	永渕 昭良		
概要	生物の複雑な現象を理解するために必要な用語を習得し、複雑な生命活動の様式を分子の言葉で理解し、説明する能力を身につける。		
目標	<p>I 倫理観とプロフェッショナリズム 医学生として、学習内容の把握に真剣に取り組み、自己研鑽に努める。</p> <p>II 医学とそれに関する領域の知識 生体を構成する細胞と分子について理解し、その働きを説明することができる。</p> <p>III 医療の実践 教科書や参考資料から、目的に応じた内容を見つけ出し、問題を解決することができる。</p> <p>IV チームマネジメントとコミュニケーション技能 -</p> <p>V 医学、医療、保健、社会への貢献 医学研究に関する基礎知識を習得し、その応用の可能性を考えることができる。</p> <p>VI 国際的視野と科学的探究 細胞や分子に基づく知見が、国際的な研究に必要であることを理解し、その重要性を説明することができる。</p>		
評価方法	<p>■定期試験 (90%) 《I, II, III, VI》</p> <p>■受講態度・机間指導 (10%) 《I, V》</p> <p>《》内は評価するアウトカムのコンピテン番号を記載</p>		
授業計画	授業内容	授業形態	担当者
【I】内は授業時に関係するモデル・コア・カリキュラムの番号を記載	第1回 クロマチンの構造と機能	講義	永渕
	第2回 DNA修復の基本原則	講義	永渕
	第3回 細胞骨格とモーターの複雑な機能	講義	永渕
	第4回 細胞周期の複雑な調節機構	講義	永渕
	第5回 細胞間接着の複雑な機能	講義	永渕
	第6回 細胞基質間接着の複雑な機能	講義	永渕
	第7回 細胞内区画の複雑な機能	講義	永渕
	第8回 小胞輸送の複雑な制御機構	講義	永渕
	第9回 エキソサイトーシス・エンドサイトーシスの制御機構と役割	講義	永渕
	第10回 情報伝達-GPCRと酵素共役型	講義	永渕

	第11回	情報伝達ーサイトカインと形態形成	講義	永渕
	第12回	アポトーシスの制御機構	講義	永渕
	第13回	がん遺伝子とがん抑制遺伝子	講義	永渕
	第14回	がんの複雑さ	講義	永渕
	第15回	後期生命科学概論で用いた問題の解説	講義	永渕
授業外学修（事前学修・事後学修）				
テキスト	Essential細胞生物学 最新版 南江堂（現時点では原著第5版 2021年） プリント配布			
参考書	細胞の分子生物学 最新版			
学生へのメッセージ等	生物の不思議と複雑さを理解し、全体像を把握してください。			

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	教養教育	2	選択
担当教員			
小林 千余子			
添付ファイル			

全担当教員	小林 千余子		
概要	(一般目標) 最近の驚異的な生命科学の発展により、いまや生命科学の理解なしに「いのち」を理解することは出来ない。生命科学に関する基礎知識を習得し、「生きているしくみ」を細胞および分子レベルで理解する能力を養う。		
目標	<p>I 倫理観とプロフェッショナリズム 将来の医療人として、ふさわしい行動を示すことができる</p> <p>II 医学とそれに関する領域の知識 <input type="checkbox"/> 細胞や生体を構成する物質 (タンパク質、DNA)のはたらきについて、概略を説明することができる <input type="checkbox"/> 生殖と発生について、概略を説明することができる</p> <p>III 医療の実践 -</p> <p>IV チームマネジメントとコミュニケーション技能 -</p> <p>V 医学、医療、保健、社会への貢献 自然科学研究を基とした医学の研究と開発が社会に貢献することを理解できる</p> <p>VI 国際的視野と科学的探究 自然科学研究で明らかになった新しい知見や、その発見の基礎となった科学的理論と方法論を理解し、説明できる</p>		
評価方法	<p>■ 受講態度 (5%) 《 I 》</p> <p>■ 課題 (5%) 《 I , II, V, VI》</p> <p>■ 小テスト (5%) 《 II, V, VI》</p> <p>■ 定期試験 (85%) 《 II, V, VI》</p> <p>《 》内は評価するアウトカムのコンピテンス番号を記載</p>		
授業計画	授業内容	授業形態	担当者
【I】内は授業時に関係するモデル・コア・カリキュラムの番号を記載	第1回 2023年9月25日 (月) 生物と細胞、生体を構成する物質	講義	小林
	第2回 生物と遺伝子、ゲノム	講義	小林
	第3回 細胞周期	講義	小林
	第4回 遺伝情報の分配	講義	小林
	第5回 DNAの複製	講義	小林
	第6回 遺伝情報の転写	講義	小林
	第7回 遺伝情報の翻訳	講義	小林
	第8回 遺伝子の発現調節	講義	小林
	第9回 バイオテクノロジー 基礎編	講義	小林
	第10回	講義	小林

	バイオテクノロジー 応用編		
	第11回 生殖と減数分裂	講義	小林
	第12回 配偶子形成	講義	小林
	第13回 受精と発生	講義	小林
	第14回 再生現象 再生医療技術	講義	小林
	第15回 2024年1月15日 (月) 総復習とまとめ	講義	小林
授業外学修 (事前学修・事後学修)			
テキスト	Essential 細胞生物学 最新版, 高校教科書 基礎生物 生物, プリント配布		
参考書	「細胞の分子生物学」最新版 ニュートンプレス		
学生へのメッセージ等	高校で生物学を履修していない学生を対象に、高校レベルからはじめ、基礎医学履修への橋渡しをする。		

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	教養教育	2	選択
担当教員			
裏山 悟司			
添付ファイル			

全担当教員	裏山 悟司		
概要	生命の捉え方・生命活動の様式について、専門教育課程で学ぶための基礎知識を習得することを目的とする。		
目標	<p>I 倫理観とプロフェッショナリズム 医学生としてとしてふさわしい行動を示すことができる。</p> <p>II 医学とそれに関する領域の知識 生命科学の基礎的な現象について、適切な用語を用いて説明することができる。</p> <p>III 医療の実践 -</p> <p>IV チームマネジメントとコミュニケーション技能 教員の指示を理解し、適切なレポートを作成することができる。</p> <p>V 医学、医療、保健、社会への貢献 生命科学の基礎的な現象を理解することにより、将来学ぶ様々な疾患についてより深く理解することができる。</p> <p>VI 国際的視野と科学的探究 生命科学の基礎的な現象を理解することにより、科学的研究で明らかになった新しい知見をより深く理解することができる。</p>		
評価方法	<p>■定期試験 (80%) ≪ II ≫</p> <p>■受講態度/小テスト/中テスト/レポート (20%) ≪ I, II, IV, V, VI ≫</p> <p>《》内は評価するアウトカムのコンピテンス番号を記載</p>		
授業計画	授業内容	授業形態	担当者
【I】内は授業時に関係するモデル・コア・カリキュラムの番号を記載	第1回 ガイダンス/細胞と分子 I	講義	裏山
	第2回 細胞と分子 II	講義	裏山
	第3回 DNAの構造と機能 I (DNAの複製)	講義	裏山
	第4回 DNAの構造と機能 II (DNAの複製、修復)	講義	裏山
	第5回 遺伝子発現(転写、翻訳)	講義	裏山
	第6回 エネルギーと代謝 I (細胞内呼吸)	講義	裏山
	第7回 エネルギーと代謝 II (細胞内呼吸、光合成)	講義	裏山
	第8回 体細胞分裂	講義	裏山
	第9回 減数分裂、初期発生	講義	裏山
	第10回 遺伝学	講義	裏山

	第11回 生物工学(遺伝子工学)	講義	裏山
	第12回 体の成り立ちと恒常性の維持	講義	裏山
	第13回 免疫	講義	裏山
	第14回 中テスト (1)便宜上、14回目に記載しているが進捗状況に応じて実施。実施日はあらかじめ通知する。状況によっては、未実施の可能性もあり。 (2)実施するとしても中テストのみではなく、前後どちらかの授業項目の講義を実施予定	講義	裏山
	第15回 復習回 (1)最終回を予定しているが、授業の進行が遅れている場合、未実施の単元を実施する場合あり。 (2)必要に応じて、14回目までに振り分ける可能性あり。	講義	裏山
授業外学修(事前学修・事後学修)			
テキスト			
参考書	<p>教科書 特に指定しないが、参考図書のを1冊読破することを推奨する。詳しくは初回の授業で言及する。 ※なお、Essential 細胞生物学 原書第5版 / 中村桂子 松原謙一 榎佳之 水島昇 監訳 / 南江堂、の内容を必要に応じて取り扱うので持参することが望ましい; こちらは生命科学概論(必修;授業コード; I27013)のテキストになっている。</p> <p>参考書 ・高校の基礎生物、生物の教科書全般 ・生物学・細胞生物学 第3版 / 和田勝 著 / 羊土社 ・やさしい基礎生物学 第2版 / 南雲保 著 / 羊土社 ・理系総合のための生命科学 第4版 / 東京大学生命科学教科書編集委員会 編/ 羊土社 ・スター生物学 / 八杉貞雄 監訳 / 東京科学同人</p>		
学生へのメッセージ等	<p>1. 基礎生物学は高校生物非履修者を対象とした基礎的な授業となる。高校生物履修者など、基礎的な生物学の知識を既に身につけている学生は、本講義と同じ時間に開講されている分子生物学(授業コード; I25015)の受講を強く勧める。</p> <p>2. 基礎生物学CとD(本授業)との違いは、シラバスの授業計画を参照すること。扱っている範囲が一部異なるので、個人の興味に基づいて選択することを勧める。</p> <p>3. 学生の習熟度をみつつ授業進行を行うので、状況により、シラバスと実際の進行速度、および順序が異なる場合がある。 ※特に生命科学概論の進行に合わせた単元を実施する場合あり。</p>		

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	教養教育	1	必修
担当教員			
永渕 昭良			
添付ファイル			

全担当教員	永渕昭良、小林千余子、裏山悟司、川島牧、秋山康子		
概要	生物学に関する一般的な知識、および基礎実験の手法と考え方を身につける。		
目標	<p>I 倫理観とプロフェッショナルリズム 共用の実習用機器の重要性を理解し、丁寧に扱うことができる。</p> <p>II 医学とそれに関する領域の知識 □生体を構成する臓器、組織、細胞の形態や名称を理解し、説明することができる。 □生物学研究の大きな柱である、分子生物学的実験の基礎と手法を理解し、実際に行うことができる。</p> <p>III 医療の実践 遺伝子情報のデータベースについて理解し、操作することができる。</p> <p>IV チームマネジメントとコミュニケーション技能 機器や情報の共有を介して、班員と良好で生産的な関係を築くことができる。</p> <p>V 医学、医療、保健、社会への貢献 医学研究にも使われる機器の名称と使用方法を理解し、その応用の可能性を考えることができる。</p> <p>VI 国際的視野と科学的探究 細胞や分子に基づく知見が、国際的な研究に必要であることを理解し、その重要性を説明することができる。</p>		
評価方法	■レポート（受講態度を含む）100% 《 I , II, III, IV, V, VI》		
《》内は評価するアウトカムのコンピテンス番号を記載			
授業計画	授業内容	授業形態	担当者
【I】内は授業時に関係するモデル・コア・カリキュラムの番号を記載	第1回 光学顕微鏡観察 I 光学顕微鏡の使い方講習	実習	全教員
	第2回 光学顕微鏡観察 II 腎臓の切片（ハツカネズミ）の観察	実習	全教員
	第3回 光学顕微鏡観察 III 動物細胞、植物細胞の観察①	実習	全教員
	第4回 光学顕微鏡観察 IV 動物細胞、植物細胞の観察②	実習	全教員
	第5回 光学顕微鏡観察 V 植物細胞の浸透圧変化の観察①	実習	全教員
	第6回 光学顕微鏡観察 VI 植物細胞の浸透圧変化の観察②	実習	全教員
	第7回 光学顕微鏡観察 VII 血球の観察①	実習	全教員
	第8回 光学顕微鏡観察 VIII 血球の観察②	実習	全教員
	第9回 光学顕微鏡観察 IX 脊椎動物の組織切片の観察①	実習	全教員
	第10回 光学顕微鏡観察 X 脊椎動物の組織切片の観察②	実習	全教員

	第11回 資料作成 I 本実習内容に関する発表資料作成①	実習	全教員
	第12回 資料作成 II 本実習内容に関する発表資料作成②	実習	全教員
	第13回 発表 I 資料作成 I・IIで作成した資料の発表 I	実習	全教員
	第14回 発表 II 資料作成 I・IIで作成した資料の発表 II	実習	全教員
	第15回 分子生物学実験 I 実験機器の名称と使用法の把握①	実習	全教員
	第16回 分子生物学実験 II 実験機器の名称と使用法の把握②	実習	全教員
	第17回 分子生物学実験 III 制限酵素処理と電気泳動	実習	全教員
	第18回 分子生物学実験 IV プラスミドDNA配列情報の解析	実習	全教員
	第19回 分子生物学実験 V PCR反応の原理、DNA解析方法の習得	実習	全教員
	第20回 分子生物学実験 VI プラスミドをテンプレートにしたPCR反応	実習	全教員
	第21回 分子生物学実験 VII PCR反応産物の解析, ゲノムDNAをテンプレートにしたPCR反応	実習	全教員
	第22回 分子生物学実験 VIII ゲノムDNA情報処理方法の習得	実習	全教員
	第23回 分子生物学実験 IX PCR反応産物の制限酵素処理による確認	実習	全教員
	第24回 分子生物学実験 X ゲノム情報処理の応用 (cDNAとゲノムDNAの違いの把握)	実習	全教員
授業外学修 (事前学修・事後学修)			
テキスト	プリントを配布する。		
参考書	授業中に紹介する。		
学生へのメッセージ等	状況により、授業の順番が前後する可能性がある。		

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	教養教育	4	必修
担当教員			
藤本 圭男			
添付ファイル			

全担当教員	藤本圭男／川口良		
概要	<p>[藤本] 行列・線形空間・行列演算等，線形代数学に関する知識を習得し、数感を身につける。線形代数学はそれ自身美しい理論体系が構築されているのみならず、実用面でもCTスキャン・符号理論や近年、話題の量子コンピュータにも幅広く応用されている。</p> <p>[川口] 高校で習う範囲の先にある微積分を学ぶ。純粋に数学的な理論的側面と、身近な話題に触れる応用的側面の両方を眺めながら、解析学に関する教養を深める。</p>		
目標	<p>I 倫理観とプロフェッショナリズム 医師にとっても必要不可欠な考える力を身につける。</p> <p>II 医学とそれに関する領域の知識 医学・自然科学を背後から支える数学の基礎理論を学ぶ。</p> <p>III 医療の実践 —</p> <p>IV チームマネジメントとコミュニケーション技能 —</p> <p>V 医学、医療、保健、社会への貢献 —</p> <p>VI 国際的視野と科学的探究</p> <p>[藤本] <input type="checkbox"/>自然科学の共通言語である数学を学び、自由な発想の大事さを学ぶ。 <input type="checkbox"/>数学を学び、ものを真に自由に考える姿勢を養う。</p> <p>[川口] <input type="checkbox"/>自然科学の共通言語である数学を学び、柔軟な発想の大切さを学ぶ。 <input type="checkbox"/>数学の学習を通して良い意味での批判精神を身に付け、物事を真に自由に考える姿勢を養う。</p>		
評価方法 <small>《》内は評価するアウトカムのコンピテンス番号を記載</small>	<p>[藤本] ■受講態度及び授業時に提出させるミニ課題（5%）《I，VI》 ■定期試験（95%）《I，IV》</p> <p>[川口] ■受講態度（10%）《I》 ■定期試験（90%）《II，VI》</p>		
授業計画 <small>I内は授業時に関係するモデル・コア・カリキュラムの番号を記載</small>	授業内容	授業形態	担当者
第1回	線型代数入門—線型代数の概略、一次関数・回転運動	講義	藤本
第2回	行列入門・種々の行列演算，回転行列の紹介	講義	藤本
第3回	数ベクトル空間，ベクトルの一次独立・一次従属性	講義	藤本
第4回	同次連立一次方程式の解空間の構造定理	講義	藤本
第5回	数ベクトル空間の部分空間，生成系	講義	藤本
第6回	部分空間の基底，次元の紹介	講義	藤本
第7回		講義	藤本

	次元がwell-definedであることの証明, 次元・基底の幾何学的意味		
第8回	抽象ベクトル空間入門	講義	藤本
第9回	抽象ベクトル空間の基底・次元・基底変換の行列	講義	藤本
第10回	線形写像の紹介, 像空間・核空間・ランクの概略の紹介	講義	藤本
第11回	線形写像の行列表示	講義	藤本
第12回	行列の基本変形・ランクの紹介	講義	藤本
第13回	ランクの正体の解明	講義	藤本
第14回	CTスキャンの原理 (その1)	講義	藤本
第15回	CTスキャンの原理 (その2)	講義	藤本
第16回	平均値の定理の再考	講義	川口
第17回	テイラー展開による関数近似(1)	講義	川口
第18回	テイラー展開による関数近似(2)	講義	川口
第19回	テイラー展開の応用	講義	川口
第20回	テイラー展開による近似の精度	講義	川口
第21回	広義積分	講義	川口
第22回	広義積分の応用	講義	川口
第23回	累次積分	講義	川口
第24回	重積分	講義	川口
第25回	重積分の変数変換	講義	川口
第26回	フーリエ級数展開	講義	川口
第27回	複素フーリエ級数展開	講義	川口
第28回	フーリエ変換	講義	川口
第29回	フーリエ変換の応用	講義	川口

	第30回 これまでの学習のまとめと復習	講義	川口
授業外学修（事前学修・事後学修）			
テキスト	<p>[藤本] 中村郁著 「線形代数学」 数学書房 + プリント配布</p> <p>[川口] 難波誠 著 「微分積分学」 裳華房</p>		
参考書	<p>[藤本] 「数学入門辞典」 岩波書店, 2007</p> <p>[川口] 三宅敏恒 著 「入門微分積分」 培風館</p>		
学生へのメッセージ等	<p>[藤本] 受験数学の一步先には美しい数学ワールドが広がっている。考え抜いて数覚を高めることが大事。</p> <p>[川口] 微積分やフーリエ解析について、理論と応用の両面を学んでいきます。幅広い話題を扱いますが、講義をしっかりと聞いていれば十分理解可能な内容です。高校までの学習内容は既知としますが、状況や希望に応じて復習しながら講義を進めます。なお、理解度や講義の進度によって内容が変更になる場合もあります。</p> <p>※前期 数学 I（藤本）を履修したものは、後期 数学 I（川口）を履修し、前期 数学 I（川口）を履修したものは、後期 数学 I（藤本）を履修する。</p>		

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	教養教育	2	選択
担当教員			
藤本 圭男			
添付ファイル			

全担当教員	藤本圭男		
概要	現代数学の礎を構築した巨匠オイラーの数学に触れて数感を磨く。後半では阿弥陀くじの数理を題材として置換群に関する知識を習得し、組み合わせ論・代数学の初歩を身につける。q-解析の初歩も紹介する。		
目標	<p>I 倫理観とプロフェッショナリズム 医師にとっても必要不可欠な考える力を身につける。</p> <p>II 医学とそれに関する領域の知識 医学のみならず自然科学全般で数学の基礎概念が背後に潜むことを理解する。</p> <p>III 医療の実践 —</p> <p>IV チームマネジメントとコミュニケーション技能 —</p> <p>V 医学、医療、保健、社会への貢献 —</p> <p>VI 国際的視野と科学的探究 森羅万象を支える数学の自由な発想に触れ、物事を考えることの大事さを皮膚感覚で理解する。</p>		
評価方法	<p>■ 受講態度及び講義時のミニ課題 (5%) 《I, VI》</p> <p>■ 定期試験 (95%) 《II, VI》</p> <p>《》内は評価するアウトカムのコンピテンス番号を記載</p>		
授業計画	授業内容	授業形態	担当者
【I】内は授業時に関係するモデル・コア・カリキュラムの番号を記載	第1回 オイラーの数学I (ランダムに与えた2個の正整数が互いに素となる確率)	講義	藤本
	第2回 オイラーの数学II (三角関数 $\sin(z)$ の無限乗積展開)	講義	藤本
	第3回 集合と写像入門・集合の濃度	講義	藤本
	第4回 写像の例・全単射・置換	講義	藤本
	第5回 同値関係	講義	藤本
	第6回 カントールの対角線論法・代数的数・超越数	講義	藤本
	第7回 置換群入門	講義	藤本
	第8回 対称群の初歩・互換・巡回置換・置換の符号	講義	藤本
	第9回 差積・対称式・交代式・代数方程式の判別式	講義	藤本
	第10回 阿弥陀くじの原理、最簡阿弥陀くじの問題設定	講義	藤本

	第11回 転倒数、置換の長さ、 $q-2$ 項係数	講義	藤本
	第12回 最簡阿弥陀くじの作り方	講義	藤本
	第13回 q -解析入門 (その1)	講義	藤本
	第14回 q -解析入門 (その2)	講義	藤本
	第15回 q -解析入門 (その3)	講義	藤本
授業外学修 (事前学修・事後学修)			
テキスト	上野 健爾 著 「代数入門」 岩波講座・現代数学への入門・岩波書店 プリント配布		
参考書	「数学入門辞典」 岩波書店, 2007		
学生へのメッセージ等	受験数学の一步先には美しい数学ワールドが広がっている。自分の頭で考え抜くことが大事!		

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	教養教育	2	選択
担当教員			
川口 良			
添付ファイル			

全担当教員	川口 良		
概要	関数や方程式の係数、変数、解として複素数まで許容したときに、どのような世界が広がっているかを眺める。複素数集合の構造やその性質について、解析・代数・幾何それぞれの視点から考察する。		
目標	<p>I 倫理観とプロフェッショナルリズム 医師にとっても必要不可欠な自分の頭で考える力を身に付ける。</p> <p>II 医学とそれに関する領域の知識 医学や自然科学を背後から支える数学の基礎理論を学ぶ。</p> <p>III 医療の実践 -</p> <p>IV チームマネジメントとコミュニケーション技能 -</p> <p>V 医学、医療、保健、社会への貢献 -</p> <p>VI 国際的視野と科学的探究 <input type="checkbox"/>自然科学の共通言語である数学を学び、柔軟な発想の大切さを学ぶ。 <input type="checkbox"/>数学の学習を通して良い意味での批判精神を身に付け、物事を真に自由に考える姿勢を養う。</p>		
評価方法	<p>■受講態度(10%)《I》</p> <p>■定期試験(90%)《II, VI》</p> <p>《》内は評価するアウトガムのコンピテン番号を記載</p>		
授業計画	授業内容	授業形態	担当者
【I】内は授業時に関係するモデル・コア・カリキュラムの番号を記載	第1回 複素数の基本	講義	川口
	第2回 複素平面と複素数列	講義	川口
	第3回 複素指数関数（オイラーの公式）	講義	川口
	第4回 複素三角関数	講義	川口
	第5回 複素平面に含まれる代数的構造（ガウス整数環）	講義	川口
	第6回 ガウス整数環の性質	講義	川口
	第7回 ガウス整数環における互除法	講義	川口
	第8回 ガウス整数の整数論への応用	講義	川口
	第9回 射影平面と代数方程式の定める多様体	講義	川口
	第10回 リーマン球面、代数曲線と特異点の定義	講義	川口

	第11回	1次代数曲線の形	講義	川口
	第12回	2次多項式の標準化と2次代数曲線の形	講義	川口
	第13回	3次多項式の標準化（リーマンの標準形）	講義	川口
	第14回	3次代数曲線の形	講義	川口
	第15回	これまでの学習のまとめと復習	講義	川口
授業外学修（事前学修・事後学修）				
テキスト	教科書 森正武・杉原正顕 著 「複素関数論」 岩波書店			
参考書	参考書 梶原健 著 「代数曲線入門」 日本評論社			
学生へのメッセージ等	高校では複素数は数の一種としてしか扱われませんでした。数であるからには実数と同様にそれらを使って関数論や方程式論を展開することができます。やや高度ですが、数学に興味があって真面目に取り組める人なら十分理解できる内容です。なお、理解度や講義の進度によって内容が変更になる場合もあります。			

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	教養教育	1	選択
担当教員			
藤本 圭男			
添付ファイル			

全担当教員	藤本圭男		
概要	実際に多くの問題を解く体験を積んで数学の理解を深めることがねらい。		
目標	<p>I 倫理観とプロフェッショナリズム 医師にとっても必要不可欠な考える力を身につける。</p> <p>II 医学とそれに関する領域の知識 数学が医学のみならず自然科学全般を背後から支えていることを学ぶ。</p> <p>III 医療の実践 -</p> <p>IV チームマネジメントとコミュニケーション技能 他者との意見交換や自分の考えの発表を通して、コミュニケーション能力やプレゼンテーション能力を養う。</p> <p>V 医学、医療、保健、社会への貢献 -</p> <p>VI 国際的視野と科学的探究 いずれも数学の自由な発想を学ぶことで、考える力の重要性を養う。</p>		
評価方法	<p>■受講態度 (10%) 《I, II》</p> <p>■演習発表内容 (30%) 《IV》</p> <p>■演習課題の提出・全5回 (60%) 《II, VI》</p> <p>《》内は評価するアウトガムのコンピテン্স番号を記載</p>		
授業計画	授業内容	授業形態	担当者
【I】内は授業時に関係するモデル・コア・カリキュラムの番号を記載	第1回 高校数学の復習	演習	藤本
	第2回 行列の基礎	演習	藤本
	第3回 行列の基礎	演習	藤本
	第4回 行列の基礎	演習	藤本
	第5回 ベクトル空間	演習	藤本
	第6回 ベクトル空間	演習	藤本
	第7回 ベクトル空間	演習	藤本
	第8回 線形写像	演習	藤本
	第9回 線形写像	演習	藤本
	第10回 CTスキャンの原理	演習	藤本

	第11回 CTスキャンの原理	演習	藤本
	第12回 行列の基本変形・ランク	演習	藤本
	第13回 行列の基本変形・ランク	演習	藤本
	第14回 連立一次方程式の解法	演習	藤本
	第15回 連立一次方程式の解法	演習	藤本
授業外学修（事前学修・事後学修）			
テキスト	プリント配布(教務システム上)		
参考書	「数学入門辞典」 岩波書店, 2007		
学生へのメッセージ等	講義を聞くだけでは駄目、分かったつもりが全く分かっていない事も多々ある。自分の頭で考え抜いて数覚を高めることが大事。尚、選択科目であるが、講義の理解を深める為にも履修が望ましい。		

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	教養教育	1	選択
担当教員			
川口 良			
添付ファイル			

全担当教員	川口 良		
概要	講義の内容に沿った演習問題を解き、計算力・発想力・応用力を養う。また、自分の考えを発表する力も身につける。		
目標	<p>I 倫理観とプロフェッショナリズム 医師にとっても必要不可欠な自分の頭で考える力を身に付ける。</p> <p>II 医学とそれに関する領域の知識 医学や自然科学を背後から支える数学の基礎理論を学ぶ。</p> <p>III 医療の実践 -</p> <p>IV チームマネジメントとコミュニケーション技能 他者との意見交換や自分の考えの発表を通して、コミュニケーション能力やプレゼンテーション能力を養う。</p> <p>V 医学、医療、保健、社会への貢献 -</p> <p>VI 国際的視野と科学的探究 <input type="checkbox"/>自然科学の共通言語である数学を学び、柔軟な発想の大切さを学ぶ。 <input type="checkbox"/>数学の学習を通して良い意味での批判精神を身に付け、物事を真に自由に考える姿勢を養う。</p>		
評価方法	<p>■受講態度(20%)《I》</p> <p>■演習発表(80%)《II, IV, VI》</p> <p>《》内は評価するアウトカムのコンピテン্স番号を記載</p>		
授業計画	授業内容	授業形態	担当者
【I】内は授業時に関係するモデル・コア・カリキュラムの番号を記載	第1回 平均値の定理の再考 (演習問題を通じた学習)	演習	川口
	第2回 テイラー展開による関数近似(1) (演習問題を通じた学習)	演習	川口
	第3回 テイラー展開による関数近似(2) (演習問題を通じた学習)	演習	川口
	第4回 テイラー展開の応用 (演習問題を通じた学習)	演習	川口
	第5回 テイラー展開による近似の精度 (演習問題を通じた学習)	演習	川口
	第6回 広義積分 (演習問題を通じた学習)	演習	川口
	第7回 広義積分の応用 (演習問題を通じた学習)	演習	川口
	第8回 累次積分 (演習問題を通じた学習)	演習	川口
	第9回 重積分 (演習問題を通じた学習)	演習	川口
	第10回 重積分の変数変換	演習	川口

	(演習問題を通じた学習)		
	第11回 フーリエ級数展開 (演習問題を通じた学習)	演習	川口
	第12回 複素フーリエ級数展開 (演習問題を通じた学習)	演習	川口
	第13回 フーリエ変換 (演習問題を通じた学習)	演習	川口
	第14回 フーリエ変換の応用 (演習問題を通じた学習)	演習	川口
	第15回 これまでの学習のまとめと復習 (演習問題を通じた学習)	演習	川口
授業外学修 (事前学修・事後学修)			
テキスト	教科書 難波誠 著 「微分積分学」 裳華房 + 演習プリント		
参考書	参考書 三宅敏恒 著 「入門微分積分」 培風館		
学生へのメッセージ等	講義で習った定義や定理を実際にどのように使うのか。講義中にも具体例は示しますが、演習では各自で問題を解いて発表してもらいます。ある程度は発表の回数を増やすことも大切ですが、それよりも試験にも向けた自習の時間と思って、自分で問題が解けるように訓練することに大きな意味があります。解答の途中で投げ出さず、一つ一つの問題にじっくり取り組んでください。		

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	教養教育	2	必修
担当教員			
周藤 俊治			
添付ファイル			

全担当教員	周藤 俊治		
概要	生物統計学は、保健医療分野における課題を統計的手法により明らかにし解決に資する学問である。ここでは、統計学の基礎から本分野においてどのような統計的手法が用いられてきたのか理解し、データの収集・解析・結果の解釈に必要とされる基礎知識を修得する。		
目標	<p>I 倫理観とプロフェッショナリズム</p> <input type="checkbox"/> 医療者として研究倫理・規範を理解し説明できる <input type="checkbox"/> 医学、医療の発展に統計分析が寄与することを説明できる <input type="checkbox"/> 生涯にわたり統計分析について関心を持ち続ける必要性について説明できる		
	<p>II 医学とそれに関する領域の知識 統計と医学の関わりについて説明できる</p>		
	<p>III 医療の実践 -</p>		
	<p>IV チームマネジメントとコミュニケーション技能 -</p>		
	<p>V 医学、医療、保健、社会への貢献 -</p>		
	<p>VI 国際的視野と科学的探究 <input type="checkbox"/> 新たな知見と統計分析の関係について説明できる <input type="checkbox"/> 科学的研究で明らかになった知見における統計手法について説明できる</p>		
評価方法	<p>■ 授業態度(20%) 《I》 ■ 小テスト(20%) 《VI》 ■ 定期試験(60%) 《I, II, VI》</p> <p>《》内は評価するアウトカムのコンピテン্স番号を記載</p>		
授業計画	授業内容	授業形態	担当者
【I】内は授業時に関係するモデル・コア・カリキュラムの番号を記載	第1回 オリエンテーション	講義	周藤
	第2回 記述統計（尺度，度数，基本統計量）	講義	周藤
	第3回 平均値の推定	講義	周藤
	第4回 検定の原理	講義	周藤
	第5回 パラメトリック検定	講義	周藤
	第6回 ノンパラメトリック検定	講義	周藤
	第7回 計数値データの検定	講義	周藤
	第8回 中間まとめ	講義	周藤
	第9回 独立多群間の比較	講義	周藤
	第10回	講義	周藤

	相対危険		
	第11回 感度・特異度・ROC曲線	講義	周藤
	第12回 相関係数, 回帰分析	講義	周藤
	第13回 生存時間分析	講義	周藤
	第14回 統計処理を行う上での注意点	講義	周藤
	第15回 まとめ	講義	周藤
授業外学修 (事前学修・事後学修)			
テキスト	カラーイメージで学ぶ統計学の基礎 新版 第2版 (日本教育研究センター)		
参考書			
学生へのメッセージ等	講義概要・補足資料・参考図書等の情報は、ウェブページ (https://medbb.net) に掲載します。統計は夢と希望と勇気をもたらしますが、願望を叶えてくれるアイテムではありません。受講者が統計に振り回されない医療人になることを願っています。		

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	教養教育	1	選択
担当教員			
周藤 俊治			
添付ファイル			

全担当教員	周藤 俊治		
概要	保健・医療・福祉の分野における意思決定に欠かせない情報について、 1) どのような情報があるのか 2) どのような性質を有しているのか 3) ICTの活用によりどのような変化が起こっているか など広く医療に関する情報の収集や活用に関する講義を行う		
目標	I 倫理観とプロフェッショナリズム <input type="checkbox"/> 医療者として発生するデータの取り扱いに関する倫理・規範を理解し説明できる <input type="checkbox"/> 医学、医療の発展にデータの利活用が寄与することを説明できる <input type="checkbox"/> 生涯にわたりICTの活用について関心を持ち続ける必要性について説明できる II 医学とそれに関する領域の知識 <input type="checkbox"/> データサイエンスと医学の関わりについて説明できる <input type="checkbox"/> 社会において発生する保健医療データの役割について説明できる <input type="checkbox"/> パーソナルデータの有用性について説明できる III 医療の実践 - IV チームマネジメントとコミュニケーション技能 - V 医学、医療、保健、社会への貢献 <input type="checkbox"/> 医師として地域医療に関わることの必要性を理解し、ICTをどのように活用しているのか説明できる <input type="checkbox"/> 医療情報分野の研究開発が社会に貢献していることを説明できる VI 国際的視野と科学的探究 -		
評価方法	■ 授業態度(20%) 《I》 ■ 小テスト(30%) 《II, V》 ■ レポート(50%) 《I, II, V》 《》内は評価するアウトカムのコンピテン番号を記載		
授業計画	授業内容	授業形態	担当者
I 内は授業時に関係するモデル・コア・カリキュラムの番号を記載	1 情報学 (1) 情報とは	講義	周藤
	2 情報学 (2) ネットワーク技術について	講義	周藤
	3 保健医療情報システム (1) EMR EHR PHR	講義	周藤
	4 保健医療情報システム (2) 情報の利活用	講義	周藤
	5 法とセキュリティ	講義	周藤
	6 これからの保健医療への情報の貢献について (1)	講義	周藤
	7 これからの保健医療への情報の貢献について (2)	講義	周藤
	8 まとめ	講義	周藤

授業外学修（事前学修・事後学修）	
テキスト	
参考書	参考書 日本医療情報学会医療情報技師育成部会（編さん）「医療情報第6版 医療情報システム編」篠原出版新社, 2020
学生へのメッセージ等	講義概要・補足資料・参考図書等の情報は、ウェブページ (https://medbb.net) に掲載します。 本分野は情報技術の進展とともに変化しています。これからの医療現場がどのように変化していくのか、そして地域社会に安心を提供できる医療提供体制の構築にICTがどのように寄与できるのか考える機会になればと思います。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	教養教育	1	必修
担当教員			
石指 宏通			
添付ファイル			

全担当教員	石指 宏通、王 文超、陳 昱龍		
概要	運動・スポーツが健康の保持・増進に果たす役割を認識するとともに、スポーツという身体活動による爽快感、そこで生まれる仲間との協力・競争を通して好ましい人間関係を形成し、公正、協力、責任、参画など社会的に望ましい行動する能力を養う。		
目標	<p>I 倫理観とプロフェッショナリズム 各種スポーツの実践を通して、スポーツに対する関心や主体的に取り組む意欲を高め、スポーツが健康の保持・増進に果たす役割を説明できる。</p> <p>II 医学とそれに関する領域の知識 スポーツ活動の身体に及ぼす有効性と危険性を説明できる。</p> <p>III 医療の実践 -</p> <p>IV チームマネジメントとコミュニケーション技能 ルールを守り、仲間と共同してプレーできるとともに「楽しさ」を引き出し、強める方法を考えることができる。</p> <p>V 医学、医療、保健、社会への貢献 既存のスポーツに固執することなく、能力差やハンディキャップの有無に応じてルール等を改変し、新たな実践方法を考えることができる。</p> <p>VI 国際的視野と科学的探究 -</p>		
評価方法	<p>■受講態度 (60%) : 《I、IV》</p> <p>■レポート (40%) : 《II、V》</p> <p>《》内は評価するアウトカムのコンピテン্স番号を記載</p>		
授業計画	授業内容	授業形態	担当者
【I】内は授業時に関するモデル・コア・カリキュラムの番号を記載	第1回 オリエンテーション (種目選択) (バレーボール、ソフトボール、テニス、卓球)	実技	石指・王・陳
	第2回 各種スポーツの個人的基本技術の習得と簡易ゲーム①	実技	石指・王・陳
	第3回 各種スポーツの個人的基本技術の習得と簡易ゲーム②	実技	石指・王・陳
	第4回 各種スポーツの集団的基本技術の習得と簡易ゲーム①	実技	石指・王・陳
	第5回 各種スポーツの集団的基本技術の習得と簡易ゲーム②	実技	石指・王・陳
	第6回 リーグ戦	実技	石指・王・陳
	第7回 リーグ戦	実技	石指・王・陳
	第8回 リーグ戦	実技	石指・王・陳
	第9回 各種スポーツの個人的基本技術の習得と簡易ゲーム① (種目変更)	実技	石指・王・陳
	第10回 各種スポーツの個人的基本技術の習得と簡易ゲーム②	実技	石指・王・陳

	第11回 各種スポーツの集団的基本技術の習得と簡易ゲーム①	実技	石指・王・陳
	第12回 各種スポーツの集団的基本技術の習得と簡易ゲーム②	実技	石指・王・陳
	第13回 リーグ戦	実技	石指・王・陳
	第14回 リーグ戦	実技	石指・王・陳
	第15回 リーグ戦とまとめ	実技	石指・王・陳
授業外学修（事前学修・事後学修）			
テキスト	教科書 ナシ（必要に応じて、プリント配布）		
参考書	参考書 ナシ		
学生へのメッセージ等	2種目（各7回）を選択し、ゲーム中心にスポーツを楽しむ。詳細については1回目（オリエンテーション）で説明する。		

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	教養教育	1	必修
担当教員			
石指 宏通			
添付ファイル			

全担当教員	石指 宏通. 王 文超. 陳 昱龍		
概要	運動・スポーツが健康の保持・増進に果たす役割を認識するとともに、スポーツという身体活動による爽快感、そこで生まれる仲間との協力・競争を通して好ましい人間関係を形成し、公正、協力、責任、参画など社会的に望ましい行動する能力を養う。		
目標	<p>I 倫理観とプロフェッショナリズム 各種スポーツの実践を通して、スポーツに対する関心や主体的に取り組む意欲を高め、スポーツが健康の保持・増進に果たす役割を説明できる。</p> <p>II 医学とそれに関する領域の知識 スポーツ活動の身体に及ぼす有効性と危険性を説明できる。</p> <p>III 医療の実践 -</p> <p>IV チームマネジメントとコミュニケーション技能 ルールを守り、仲間と共同してプレーできるとともに「楽しさ」を引き出し、強める方法を考えることができる。</p> <p>V 医学、医療、保健、社会への貢献 既存のスポーツに固執することなく、能力差やハンディキャップの有無に応じてルール等を改変し。新たな実践方法を考えることができる。</p> <p>VI 国際的視野と科学的探究 -</p>		
評価方法	<p>■受講態度 (60%) : 《I、IV》 ■レポート (40%) : 《II、V》</p> <p>《》内は評価するアウトカムのコンピテン番号を記載</p>		
授業計画	授業内容	授業形態	担当者
【I】内は授業時に関係するモデル・コア・カリキュラムの番号を記載	第1回 オリエンテーション (種目選択) (バスケットボール、サッカー、テニス、卓球)	実技	石指・王・陳
	第2回 各種スポーツの個人的基本技術の習得と簡易ゲーム①	実技	石指・王・陳
	第3回 各種スポーツの個人的基本技術の習得と簡易ゲーム②	実技	石指・王・陳
	第4回 各種スポーツの集団的基本技術の習得と簡易ゲーム①	実技	石指・王・陳
	第5回 各種スポーツの集団的基本技術の習得と簡易ゲーム②	実技	石指・王・陳
	第6回 リーグ戦	実技	石指・王・陳
	第7回 リーグ戦	実技	石指・王・陳
	第8回 リーグ戦	実技	石指・王・陳
	第9回 各種スポーツの個人的基本技術の習得と簡易ゲーム① (種目変更)	実技	石指・王・陳
	第10回	実技	石指・王・陳

	各種スポーツの個人的基本技術の習得と簡易ゲーム②		
	第11回 各種スポーツの集団的基本技術の習得と簡易ゲーム①	実技	石指・王・陳
	第12回 各種スポーツの集団的基本技術の習得と簡易ゲーム②	実技	石指・王・陳
	第13回 リーグ戦	実技	石指・王・陳
	第14回 リーグ戦	実技	石指・王・陳
	第15回 リーグ戦とまとめ	実技	石指・王・陳
授業外学修（事前学修・事後学修）			
テキスト	教科書 ナシ（必要に応じて、プリント配布）		
参考書	参考書 ナシ		
学生へのメッセージ等	2種目（各7回）を選択し、ゲーム中心にスポーツを楽しむ。詳細については1回目（オリエンテーション）で説明する。		

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	教養教育	2	選択
担当教員			
石指 宏通			
添付ファイル			

全担当教員	石指 宏通		
概要	健康の保持・増進のための運動やスポーツ、競技力向上のためのトレーニングを行うために必要となる人体各部の構造および機能に関する解剖生理学的基礎知識を身につけるとともに、運動・スポーツ傷害の予防や対処方法を理解し、安全に運動・スポーツを実施できる能力を養う。		
目標	<p>I 倫理観とプロフェッショナリズム 自己の目標を設定し、生涯にわたり向上を図るために学習し、研鑽することができる。</p> <p>II 医学とそれに関する領域の知識 □運動・スポーツが健康に果たす役割について説明できる。 □身体諸機能（神経系・骨格系・呼吸循環系・消化系）の正常機能と構造を理解し、それらに及ぼす運動の影響について説明できる。 □運動・スポーツ時に発生し得る事故について、その予防法を応急処置が説明できる。</p> <p>III 医療の実践 -</p> <p>IV チームマネジメントとコミュニケーション技能 医学生として、共感的態度で他者に敬意をはらったコミュニケーションができる。</p> <p>V 医学、医療、保健、社会への貢献 教養教育を学ぶことにより、将来医学・医療・保健・社会に貢献できることを理解する。</p> <p>VI 国際的視野と科学的探究 科学的研究で明らかになった新しい知見を理解し、説明できる。</p>		
評価方法	<p>■受講態度（30%）：《I、IV、V》 ■小テスト（20%）：《II》 ■定期試験（50%）：《II、VI》</p> <p>《》内は評価するアウトカムのコンピテンス番号を記載</p>		
授業計画	授業内容	授業形態	担当者
【I】内は授業時に関係するモデル・コア・カリキュラムの番号を記載	第1回 運動と健康	講義	石指
	第2回 エネルギー供給機構	講義	石指
	第3回 筋の構造と筋収縮	講義	石指
	第4回 骨格器の機能と構造① (上肢帯と上肢)	講義	石指
	第5回 骨格器の機能と構造② (下肢帯と下肢)	講義	石指
	第6回 骨格器の機能と構造③ (体幹)	講義	石指
	第7回 骨格器の障害① (上肢帯と上肢)	講義	石指
	第8回 骨格器の障害② (下肢帯と下肢)	講義	石指
	第9回 呼吸・循環器の機能と構造および疾患	講義	石指
	第10回	講義	石指

	消化器の機能と構造および疾患		
	第11回 神経・内分泌の機能と構造および疾患	講義	石指
	第12回 運動時の体温調節	講義	石指
	第13回 運動と栄養	講義	石指
	第14回 運動の有効性と危険性	講義	石指
	第15回 まとめと復習	講義	石指
授業外学修（事前学修・事後学修）			
テキスト	教科書 授業ごとにプリント配布		
参考書	参考書 坂井建雄、河原克雅（総編集）「人体の正常構造と機能」 日本医事新報社		
学生へのメッセージ等	授業内容は順番が前後する可能性もあります。		

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	教養教育	4	必修
担当教員			
Bolstad Francesco			
添付ファイル			

全担当教員	Bolstad Francesco/Mathieson Paul/Blodgett Michael /Ghashut Rima/Elfandi Sufian/Hamilton Melissa/Claire Murray
概要	<p>This course aims to:</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) Develop students' accuracy, fluency, and confidence across the 4 skills (reading, writing, speaking and listening). 2) Introduce students to academic and scientific English vocabulary, style, and register. Students will be challenged to express themselves in English throughout the course, even if this means making mistakes. The first half of the course has a more broad life-skills focus, while the second half of the course challenges students to understand and express themselves through topics drawn from evidence-based medicine (EBM). <p>By the end of this course students will be able to:</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) Use the English grammar and vocabulary that they studied in high school in a fluent manner across the 4 skills. 2) Produce grammatically correct and meaningful sentences containing words from The Academic Word List (AWL) (Semester 1), and Scientific Word List (SWL) semester 2). 3) Read, comprehend and debate a range of general academic and simple medical science topics in English. (Semester 1) 4) Comprehend, appraise and debate a range of topics concerning Evidence-Based Medicine in both written and spoken English. (Semester 2)
目標	<p>I 倫理観とプロフェッショナリズム</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> Throughout the course students are required to discuss and debate issues of personal, societal, and scientific relevance with regard to logic, scientific rigour, and empathy. <input type="checkbox"/> A flipped-class approach facilitates interactive classes and requires students to practice good time management. <input type="checkbox"/> A largely EBM-based content component requires students to continuously switch their perspective between the aggregate and the individual. <p>II 医学とそれに関する領域の知識</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> The second semester is based on EBM and the function of science in medicine. Students are required to apply their understanding of the scientific method, meta-analysis, bias, etc. to specific examples in English. <input type="checkbox"/> Throughout the course students are expected to discuss topics from different perspectives considering trade-offs and balances between the needs of the individual and the needs of society. <input type="checkbox"/> Throughout the first semester students are required to discuss and debate issues of personal and societal relevance with regard to logic, scientific rigour, and empathy. <p>III 医療の実践</p> <p>The entire second semester is based around discussion and application of EBM principles in English. Students are expected to:</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> Understand and evaluate different sources of medical information. <input type="checkbox"/> Apply EBM principles to interpret the meaning of aggregate data for individual cases. <input type="checkbox"/> Design investigations based on EBM principles to answer specific questions of medical relevance. <p>IV チームマネジメントとコミュニケーション技能</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> Students are exposed to a variety of views and perspectives through 10 minutes of unscripted conversation with other class members in every class. <input type="checkbox"/> Students are often required to work in different groups, assume different roles within those groups, and at times lead other group members. <input type="checkbox"/> Daily communication with teachers from a variety of different cultural backgrounds requires students to constantly adjust their communication based on the feedback they receive. <p>V 医学、医療、保健、社会への貢献</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> Students are required to discuss/debate the merits of different health systems or aspects of different health systems throughout the world. <input type="checkbox"/> Students are required to discuss/debate the ethics of different approaches to the regulation of medication and medical procedures throughout the world. <input type="checkbox"/> Students are required to discuss/debate the aspects of the health system considering the different perspectives of regulators, providers, and patients. <p>VI 国際的視野と科学的探究</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> Students extend their basic English ability across the 4 skills to the level where they can join the international community of scientists and interact using English (the lingua Franca of science). <input type="checkbox"/> Throughout the course students are required to discuss and debate issues of personal, societal, and scientific relevance from a perspective informed by their understanding of

	relevant research and opinion leaders, in English. <input type="checkbox"/> Throughout the course students are challenged to introspectively appraise their own culture in order to better understand foreign cultures.		
評価方法 <small>《》内は評価するアウトカムのコンピテンス番号を記載</small>	Participation: Students are expected to: 1) Complete their homework (including journals) and preparation BEFORE class. 2) Attend ALL classes. 3) Be attentive and PARTICIPATE in class. Up to 2 absences per semester may be granted without penalty. HOWEVER, students should be aware that from the third absence a penalty of 5% may be deducted from the student's final grade for each class missed. Failure to complete homework, participate in class, or lateness may be counted as an absence. Skills: To be eligible for credit students will need to demonstrate attainment of acceptable standards in: 1) speaking fluency 2) listening fluency 3) writing fluency 4) reading fluency 5) academic vocabulary 6) grammar Students who are unable to achieve these standards will NOT be eligible for credit regardless of their grade in the final exam. Assessment: Students' final grades will be determined by: <input checked="" type="checkbox"/> participation in classes (see the note above regarding absences) 《I, II, III, IV, V, VI》 <input checked="" type="checkbox"/> weekly vocabulary and grammar tests 20% 《V, VI》 <input checked="" type="checkbox"/> a video-based exam 10% 《I, II, III, VI》 <input checked="" type="checkbox"/> a written midterm exam 20% 《I, II, III, IV, V, VI》 <input checked="" type="checkbox"/> a written final exam 50% 《I, II, III, IV, V, VI》 The 3 exams will be based on the topics, handouts, and videos covered in class. Students should be prepared to: 1) answer both questions regarding the content and language of the topics 2) apply the concepts taught throughout the course 3) express and justify their own opinions on the topics in English The MINIMUM requirement for credit in each individual assessment is 60% (the minimum overall requirement is also 60%).		
授業計画 <small>【】内は授業時に関係するモデル・コア・カリキュラムの番号を記載</small>	授業内容	授業形態	担当者
	(前)Week1 Orientation 10:40 - 12:10 Friday the 7th of April	Lecture	Bolstad Mathieson Blodgett Elfandi Ghashut Murray Hamilton
	(前)Week2 Self-Introductions AWL Groups 1-10 / Murphy's Units 1-5 10:40 - 12:10 Wednesday the 12th and Friday the 14th of April	Workshop	"
	(前)Week3 Topic 1: Why Do Japanese Physicians Need English? English in the Modern World AWL Group 1 / Murphy's Units 6-10 10:40 - 12:10 Wednesday the 19th and Friday the 21st of April	Lecture and Workshop	"
	(前)Week4 Topic 2: Learning a Second Language: Knowledge vs Skills AWL Group 2 / Murphy's Units 11-15 10:40 - 12:10 Wednesday the 26th and Friday the 28th of April	Lecture and Workshop	"
	(前)Week5 Topic 3: The Half Life of Knowledge AWL Group 3 / Murphy's Units 16-20 10:40 - 12:10 Wednesday the 10th and Friday the 12th of May	Lecture and Workshop	"
	(前)Week6 Topic 4: Learning a Second language: Vocabulary and Fluency Strategies AWL Group 4 / Murphy's Units 21-25 10:40 - 12:10 Wednesday the 17th and Friday the 19th of May	Lecture and Workshop	"
	(前)Week7 Topic 5: A Day in the Life of a Medical Student AWL Group 5 / Murphy's Units 26-30	Lecture and Workshop	"

	10:40 - 12:10 Wednesday the 24th and Friday the 26th of May		
(前)Week8	Topic 6: Motivation and Creativity AWL Groups 6 / Murphy's Units 31-35 10:40 - 12:10 Wednesday the 31st of May and Friday the 2nd of June	Lecture and Workshop	"
(前)Week9	Topic 7: What Makes a Good Doctor? Empathy and The Art of Medicine AWL Group 7 / Murphy's Units 36-40 10:40 - 12:10 Wednesday the 7th and Friday the 9th of June	Lecture and Workshop	"
(前)Week10	Topic 8: Rich Doctors, Poor Patients AWL Group 8 / Murphy's Units 41-45 10:40 - 12:10 Wednesday the 14th and Friday the 16th of June	Lecture and Workshop	"
(前)Week11	Topic 9: Happiness Studies AWL Group 9 / Murphy's Units 46-50 10:40 - 12:10 Wednesday the 21st and Friday the 23rd of June	Lecture and Workshop	"
(前)Week12	Topic 10: Death and Dying AWL Group 10 / Murphy's Units 51-55 10:40 - 12:10 Wednesday the 28th and Friday the 30th of June	Lecture and Workshop	"
(前)Week13	Topic 11: Sleep, Stress and the Brain AWL Group 1-10a / Murphy's Units 56-60 10:40 - 12:10 Wednesday the 5th and Friday the 7th of July	Lecture and Workshop	"
(前)Week14	Topic 12: Neurogenesis AWL Groups 1-10b / Murphy's Units 61-65 10:40 - 12:10 Wednesday the 12th and Friday the 14th of July	Lecture and Workshop	"
(前)Week15	Topic 13: Neuroplasticity AWL Groups 1-10c / Murphy's Units 66-70 10:40 - 12:10 Wednesday the 19th and Friday the 21st of July	Lecture and Workshop	"
	Midterm Exam Wednesday the 26th of July	EXAM	"
(後)Week1	Orientation: What is Evidence-Based Medicine and Why is it so Important? 10:40-12:10 Friday the 15th of September	Lecture	"
(後)Week2	Self-Introductions and Review of Semester One AWL test Groups 1-10 (Students need to pass this test to continue with the course!) Murphy's Units 71-75 10:40-12:10 Wednesday the 20th and Friday the 22nd of September	Workshop	"
(後)Week3	Topic 1: Cause and Effect and the Human Experience SWL Group 1 / Murphy's Units 76-80 10:40-12:10 Wednesday the 27th and Friday the 29th of September	Lecture and Workshop	"

(後)Week4	Topic 2: The Scientific Method: What is it and How Does it Work? SWL Groups 1-2 / Murphy's Units 81-85 10:40-12:10 Wednesday the 4th and Friday the 6th of October	Lecture and Workshop	"
(後)Week5	Special Lecture - Essay Writing - 10:40-12:10 Wednesday the 11th of October (ONE DAY TOPIC)	Lecture	"
(後)Week6	Topic 3: Logic and Critical Thinking in Science SWL Groups 1-3 / Murphy's Units 86-90 10:40-12:10 Wednesday the 18th and Friday 20th of October	Lecture and Workshop	"
(後)Week7	Topic 4: Bad Science: How Science Fails SWL Groups 1-4 / Murphy's Units 91-95 10:40-12:10 Wednesday the 25th and Friday the 27th of October	Lecture and Workshop	"
(後)Week8	Video Lesson: Love and other Drugs (watch before class) (This video is available for viewing on both Netflix and Amazon Prime and can be watched in the seminar room if you are unable to view it at your home) Murphy's Units 96-100 10:40-12:10 Wednesday the 1st of November	Video Workshop	"
(後)Week9	Topic 5: Statistics: Their Use and Misuse SWL Groups 1-5 / Murphy's Units 101-105 10:40-12:10 Wednesday the 8th and Friday the 10th of November	Lecture and Workshop	"
(後)Week10	Topic 6: Replication: The Gold Standard in Scientific Research SWL Groups 1-6 / Murphy's Units 106-110 10:40-12:10 Wednesday the 15th and Friday the 17th of November	Lecture and Workshop	"
(後)Week11	Topic 7: The Vaccination Debate SWL Groups 1-6 and AWL 1-10 / Murphy's Units 111-115 10:40-12:10 Wednesday the 22nd and Friday the 24th of November	Lecture and Workshop	"
(後)Week12	Topic 8: Publish or Perish: The Publication Bias SWL Groups 1-6 and AWL Groups 1-10b Murphy's Units 116-120 10:40-12:10 Wednesday the 29th of November and Friday the of 1st December	Lecture and Workshop	"
(後)Week13	Topic 9: A Dance with the Devil: Industry-Funded Research SWL Groups 1-6 and AWL Groups 1-10c Murphy's Units 121-125 10:40-12:10 Wednesday the 6th and Friday the 8th of December	Lecture and Workshop	"
(後)Week14	Topic 10: Bringing it All Together to Evaluate Research SWL Groups 1-6 and the AWL Groups 1-10d Murphy's Units 126-130 10:40-12:10 Wednesday the 13th and Friday the 15th of December	Lecture and Workshop	"
(後)Week15		Lecture	"

	<p>Topic 11: An Investigation of Homeopathy SWL Groups 1-6 and AWL Groups 1-10e Murphy's Units 131-135</p> <p>10:40-12:10 Wednesday the 20th and Friday 22nd of December</p>	and Workshop	
	<p>(後)Week16 Practice Exam Murphy's Units 136-140</p> <p>10:40-12:10 Friday the 5th of January</p>	Practice	"
	<p>(後)Week17 Topic 12: An Investigation of Antidepressants SWL Groups 1-6 and AWL Groups 1-10f Murphy's Units 141-142</p> <p>10:40-12:10 Wednesday the 10th and Friday the 12th of January</p>	Online Lecture and Workshop	"
	<p>Final Exam Wednesday the 17th of January</p>	EXAM	"
	<p>(後)Week18 Feedback and Advice for the Retest</p> <p>10:40-12:30 Friday the 26th of January</p>	Feedback and Exam	"
	<p>Exam (Retest)</p> <p>Wednesday the 7th of February</p>	EXAM	"
授業外学修 (事前学修・事後学修)			
テキスト	<p>1) Murphy, R. (2010) Intermediate Grammar in Use. Cambridge University Press. ISBN-10 : 4889969462 ISBN-13 : 978-4889969467 マーフィーのケンブリッジ英文法(中級編)</p> <p>2) "Journal" Check with the bookshop for the prescribed version</p>		
参考書	<p>1) Hancock, J. (2015) The Academic Word List in Use. IELTS edits. ISBN 978-0-9933668-1-9 2) Goldacre, B. (2013) Bad Pharma. London. Fourth Estate ISBN 9780007363643</p>		
学生へのメッセージ等	<p>Due to the heavy workload in this course, it is crucial that students develop regular study habits and stay on top of the work from day one!</p>		

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	教養教育	2	必修
担当教員			
池邊 寧			
添付ファイル			

全担当教員	池邊 寧		
概要	<p>医療行為は患者の身体や生命、患者や患者の家族の人生に深く関わる。それだけに医療行為に携わる者には、医学・看護学に関する専門的な知識や技術だけでなく、人間に対する深い認識や高い倫理的意識をもつことが求められる。</p> <p>本講義では、現代医療が抱える諸問題を概観しながら、患者と医療者との望ましい関係について考えていく。</p>		
目標	<p>I 倫理観とプロフェッショナリズム</p> <p>□医療倫理・研究倫理の重要性を理解し、倫理的に適切な行動について説明できる。</p> <p>□医療現場で直面する倫理的問題について、倫理的な考え方に依拠して自分で対応策を立てることができる。</p> <p>II 医学とそれに関する領域の知識</p> <p>□社会と医学・医療の関係を理解し、人々の行動について説明できる。</p> <p>□生と死に関わる倫理的問題を理解し、自身の考えを述べるができる。</p> <p>III 医療の実践</p> <p>—</p> <p>IV チームマネジメントとコミュニケーション技能</p> <p>多様な人生観・価値観を理解し、医療現場における倫理的葛藤への対処について説明できる。</p> <p>V 医学、医療、保健、社会への貢献</p> <p>—</p> <p>VI 国際的視野と科学的探究</p> <p>—</p>		
評価方法	<p>■ 受講態度 (40%) 《I, II, IV》</p> <p>■ レポート (60%) 《I, II, IV》</p>		
授業計画	授業内容	授業形態	担当者
<p>《I》内は授業時に関係するモデル・コア・カリキュラムの番号を記載</p>	第1回 倫理学と医療倫理学	講義	池邊
	第2回 人間の尊厳と医療	講義	池邊
	第3回 インフォームド・コンセント (1) —定義—	講義	池邊
	第4回 インフォームド・コンセント (2) —歴史的経緯—	講義	池邊
	第5回 患者の権利	講義	池邊
	第6回 研究倫理	講義	池邊
	第7回 輸血拒否	講義	池邊
	第8回 守秘義務	講義	池邊
	第9回 生殖医療の倫理的諸問題 (1) —社会問題としての不妊—	講義	池邊

	第10回	生殖医療の倫理的諸問題（2） —人工授精と体外受精—	講義	池邊
	第11回	生殖医療の倫理的諸問題（3） —代理出産—	講義	池邊
	第12回	出生前診断の倫理的諸問題	講義	池邊
	第13回	脳死と臓器移植（1） —脳死—	講義	池邊
	第14回	脳死と臓器移植（2） —臓器移植—	講義	池邊
	第15回	人生の最終段階における医療・ケア	講義	池邊
授業外学修（事前学修・事後学修）	講義時に配布するプリントを用いて、復習・予習を必ず行うこと。			
テキスト	使用しない。随時プリントを配布する。			
参考書	松島哲久／盛永審一郎／村松聡編『教養としての生命倫理』丸善出版 盛永審一郎／松島哲久編『医学生のための生命倫理』丸善出版 盛永審一郎／長島隆編『看護学生のための医療倫理』丸善出版 盛永審一郎／松島哲久／小出泰士編『いまを生きるための倫理学』丸善出版 その他の参考書は講義中に随時紹介する。			
学生へのメッセージ等	明確な問題意識を持って講義に取り組み、疑問点は積極的に質問してください。			

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	教養教育	2	選択
担当教員			
池邊 寧			
添付ファイル			

全担当教員	池邊 寧			
概要	<p>生命科学や医療技術の発達に伴って、技術的に可能なことと倫理的に容認されることの間にはどのような折り合いをつけていけばよいのかが問われる場面が多々生じている。われわれは今日、従来の生命観や価値観を問い直すことを余儀なくされている。</p> <p>本講義では「医療に関わる倫理学Ⅰ」に引き続き、現代医療をめぐる倫理的諸問題を概観しながら、患者と医療者との望ましい関係について考えていく。</p>			
目標	<p>I 倫理観とプロフェッショナリズム</p> <p>□医療倫理・研究倫理の重要性を理解し、倫理的に適切な行動について説明できる。</p> <p>□医療現場で直面する倫理的問題について、倫理的な考え方に依拠して自分で対応策を立てることができる。</p> <p>II 医学とそれに関する領域の知識</p> <p>□社会と医学・医療の関係を理解し、人々の行動について説明できる。</p> <p>□生と死に関わる倫理的問題を理解し、自身の考えを述べることができる。</p> <p>III 医療の実践</p> <p>—</p> <p>IV チームマネジメントとコミュニケーション技能</p> <p>多様な人生観・価値観を理解し、医療現場における倫理的葛藤への対処について説明できる。</p> <p>V 医学、医療、保健、社会への貢献</p> <p>—</p> <p>VI 国際的視野と科学的探究</p> <p>—</p>			
評価方法	<p>■ 受講態度 (40%) 《I, II, IV》</p> <p>■ レポート (60%) 《I, II, IV》</p>			
《》内は評価するアウトカムのコンピテンス番号を記載				
授業計画	授業内容	授業形態	担当者	
【】内は授業時に関係するモデル・コア・カリキュラムの番号を記載	第1回	パンデミックの倫理学	講義	池邊
	第2回	医学研究の倫理 (1) —歴史的経緯—	講義	池邊
	第3回	医学研究の倫理 (2) —被験者保護—	講義	池邊
	第4回	動物実験の倫理	講義	池邊
	第5回	人工妊娠中絶とパーソン論 (1) —パーソン論とは—	講義	池邊
	第6回	人工妊娠中絶とパーソン論 (2) —パーソン論の展開—	講義	池邊
	第7回	重症新生児治療の差し控えと中止	講義	池邊
	第8回	エンハンスメントの倫理的諸問題	講義	池邊
	第9回	医療におけるナラティブ (1) —E BMとNBM—	講義	池邊

	第10回 医療におけるナラティブ（２） ーナラティブ・メディスンー	講義	池邊
	第11回 痛みと人間（１） ー痛みの中義性ー	講義	池邊
	第12回 痛みと人間（２） ー痛みと医療ー	講義	池邊
	第13回 死生観の諸相	講義	池邊
	第14回 緩和ケア	講義	池邊
	第15回 スピリチュアルケア	講義	池邊
授業外学修（事前学修・事後学修）	講義時に配布するプリントを用いて、復習・予習を必ず行うこと。		
テキスト	使用しない。随時プリントを配布する。		
参考書	松島哲久／盛永審一郎／村松聡編『教養としての生命倫理』丸善出版 盛永審一郎／松島哲久編『医学生のための生命倫理』丸善出版 盛永審一郎／長島隆編『看護学生のための医療倫理』丸善出版 盛永審一郎／松島哲久／小出泰士編『いまを生きるための倫理学』丸善出版 その他の参考書は講義中に随時紹介する。		
学生へのメッセージ等	明確な問題意識をもって講義に取り組み、疑問点は積極的に質問してください。		

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	教養教育	2	選択
担当教員			
池邊 寧			
添付ファイル			

全担当教員	池邊 寧		
概要	<p>哲学的思索は、世界や人間の根本原理を追求する営みである。それゆえ、現実と遊離したところで行われる「机上の空論」という印象を抱く人がいるかもしれない。しかし、哲学が理念として描く事柄は、現実の日常生活から抽出した事柄である。哲学的思索の出発点は今ここに生きる「私」であり、「私を取り巻く現実」である。</p> <p>本講義では以下に列挙した主題について、西洋の哲学思想を手がかりにしながらかえていくことにする。</p>		
目標	<p>I 倫理観とプロフェッショナリズム</p> <p><input type="checkbox"/>人の生と死に深く関わる医師にふさわしい哲学的教養を身につける。</p> <p><input type="checkbox"/>医師の職責を自覚し、人間としてよりよく生きる道を探求することができる。</p> <p><input type="checkbox"/>答えのない問いについて考え続けることができる。</p> <p>II 医学とそれに関する領域の知識</p> <p><input type="checkbox"/>哲学と医学・医療の関わりを理解し、自身の考えを述べることができる。</p> <p><input type="checkbox"/>さまざまな哲学思想を理解し、人々の行動について説明できる。</p> <p>III 医療の実践</p> <p>—</p> <p>IV チームマネジメントとコミュニケーション技能</p> <p>レポートを適切に作成し、自分の考えを提示することができる。</p> <p>V 医学、医療、保健、社会への貢献</p> <p>—</p> <p>VI 国際的視野と科学的探究</p> <p>—</p>		
評価方法	<p>■ 受講態度 (40%) 《I, II, IV》</p> <p>■ レポート (60%) 《I, II, IV》</p> <p>《》内は評価するアウトカムのコンピテン番号を記載</p>		
授業計画	授業内容	授業形態	担当者
<p>【I】内は授業時に関係するモデル・コア・カリキュラムの番号を記載</p>	第1回 哲学とは何か	講義	池邊
	第2回 自己と他者 (1) —私とは何か—	講義	池邊
	第3回 自己と他者 (2) —他者とは—	講義	池邊
	第4回 反出生主義	講義	池邊
	第5回 愛の諸相	講義	池邊
	第6回 友情	講義	池邊
	第7回 生の肯定	講義	池邊
	第8回 死すべき存在としての人間	講義	池邊
	第9回 心と身体	講義	池邊

	第10回 自由意志	講義	池邊
	第11回 人格の同一性	講義	池邊
	第12回 正義と平等	講義	池邊
	第13回 ケアと人間	講義	池邊
	第14回 言葉と人間	講義	池邊
	第15回 技術と人間	講義	池邊
授業外学修（事前学修・事後学修）	講義時に配布するプリントを用いて、復習・予習を必ず行うこと。		
テキスト	使用しない。随時、プリントを配布する。		
参考書	盛永審一郎／松島哲久／小出泰士編『いまを生きるための倫理学』丸善出版 その他の参考書は講義中に随時紹介する。		
学生へのメッセージ等	哲学には絶対に正しいといえる答えはありません。大切なのは「自分で考えること」です。 講義で取り上げる主題は受講者数、受講者の要望などに応じて、適宜、変更します。 積極的に問題提起されることを望みます。		

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	教養教育	1	必修
担当教員			
若月 幸平（教育開発センター教育教授）			
添付ファイル			

全担当教員	若月 幸平（教育開発センター教育教授）／浅井 良純（韓国文化）／水野 杏紀（中国文化）／富岡 三智（インドネシア文化）
概要	<p>[浅井（韓国文化）] 戦後、朝鮮半島では大韓民国（韓国）と朝鮮民主主義人民共和国（北朝鮮）という二つの国家として独立し、対立するなかで民族が分断された状態にある。また近年、日韓両政府はいわゆる「徴用工」や「慰安婦」などの問題で関係が悪化している。さらに朝鮮半島問題を複雑にしているのは、それを巻き込む米国・中国・ロシア・日本などの利害が交差しているためである。本講座では朝鮮半島問題を理解するために、その地政学的構造に留意し、歴史とその認識における文化的相違性について考察する。</p> <p>[富岡（インドネシア文化）] インドネシアは世界最大のイスラム人口を抱えながら、多様な民族・宗教・文化を擁し、「多様性の統一」を国是とする国である。日本と歴史的、政治的、経済的に関わりの深いインドネシアの文化を知ることを通して、多様な価値を認め合い共存を目指す社会について考える。</p> <p>[水野（中国文化）] 中華文化圏とは中国、香港、台湾などの文化エリアを示す。本講義では、この文化圏の歴史、地理、気候、民族、言語、さらには暦法と習俗、飲食と養生、思想（諸子百家）、芸術文化などを学び、中華文化圏の特性を総合的に理解する。</p>
目標	<p>I 倫理観とプロフェッショナリズム</p> <p>[浅井（韓国文化）] 韓国との文化的共通性と相違性を通じて韓国における倫理観の背景を理解する。</p> <p>[富岡（インドネシア文化）] 帰属する社会や宗教の違いによって死生観や倫理観が異なることを理解し、患者中心の立場に立つことができる。</p> <p>[水野（中国文化）] 古代中国の諸子百家である孔子の「仁」「恕」、老子の「道」などの思想を通じ、倫理観を備えたプロフェッショナルな人材になることを目指すことができる。</p> <p>II 医学とそれに関する領域の知識</p> <p>[浅井（韓国文化）] 朝鮮半島の地政学的特徴を通じて地域の相違性を理解する。</p> <p>[富岡（インドネシア文化）] 日本と異なる死生観や生活習慣があることを理解し、治療において判断の基盤となる知識を修得している。</p> <p>[水野（中国文化）] 中国伝統医学に根ざした本草や養生の学びにより、医学に関連する幅広い領域の知識を得ることができる。</p> <p>III 医療の実践</p> <p>[浅井（韓国文化）] —</p> <p>[富岡（インドネシア文化）] —</p> <p>[水野（中国文化）] —</p> <p>IV チームマネジメントとコミュニケーション技能</p> <p>[浅井（韓国文化）] 韓国の医療チームと交流のための文化的基礎知識（文化・歴史的相違性）を習得する。</p> <p>[富岡（インドネシア文化）] 患者が属する社会や宗教の慣習を理解し、コミュニケーションを取りながら医療を実践するため、基盤となる知識を修得している。</p> <p>[水野（中国文化）] 自分の属するチームを目標達成に導き、人材育成につながるマネジメント力を磨き、多様な人びとの思考を理解できるコミュニケーション能力を高めることができる。</p> <p>V 医学、医療、保健、社会への貢献</p> <p>[浅井（韓国文化）] —</p>

	<p>[富岡 (インドネシア文化)] —</p> <p>[水野 (中国文化)] 古来、東アジアでは多様な共同体のなかで良好な人間社会を形成し、各々が社会に役立つことを目指した。こうした歴史的な学びを通し、現代における社会貢献とは何かを考えることができる。</p> <p>VI 国際的視野と科学的探究</p> <p>[浅井 (韓国文化)] 朝鮮半島の諸問題を地政学的特徴 (米・ロ・中・日の利害交差) の理解をもとに認識・分析することが出来る。</p> <p>[富岡 (インドネシア文化)] 医療と医学研究を考える上で、国際社会の多様な価値観を視野に入れ、共存してゆくことができるよう、基盤となる知識を修得している。</p> <p>[水野 (中国文化)] アジアは日本が属するエリアであり、多様な民族、さまざまな国家、人口の圧倒的パワーを持つ。その文化を学ぶことから、国際的視野を持つ人材となることを目指すことができる。</p>		
<p>評価方法</p> <p>《》内は評価するアウトカムのコンピテン番号を記載</p>	<p>[浅井 (韓国文化)]</p> <ul style="list-style-type: none"> ■受講評価 (授業毎に提出するミニレポートの内容と回数) 30% 《I, II, IV, VI》 ■試験 (最終講義(5回目)の後半で到達度確認のための試験を行う) 70%による総合評価 《I, II, IV, VI》 <p>[富岡 (インドネシア文化)]</p> <ul style="list-style-type: none"> ■各回 (4回) のレポートの内容 (40%) 《I, II, IV, VI》 ■5回目の授業で実施する確認テスト (60%) 《I, II, IV, VI》 <p>[水野 (中国文化)]</p> <ul style="list-style-type: none"> ■小テスト (初回から四回の授業最後に行いその理解度をみる) (40%) 《I, II, IV, V, VI》 ■期末試験 (第五回の授業最後に行い総合的な理解度を評価する) (60%) 《I, II, IV, V, VI》 		
<p>授業計画</p> <p>【】内は授業時に関係するモデル・コア・カリキュラムの番号を記載</p>	<p>授業内容</p>	<p>授業形態</p>	<p>担当者</p>
	<p>第1回</p> <p>朝鮮半島の地政学的構造と歴史 (1)</p>	<p>講義</p>	<p>浅井 (韓国文化)</p>
	<p>第2回</p> <p>朝鮮半島の地政学的構造と歴史 (2)</p>	<p>講義</p>	<p>浅井 (韓国文化)</p>
	<p>第3回</p> <p>日韓歴史問題の認識と相違 (1)</p>	<p>講義</p>	<p>浅井 (韓国文化)</p>
	<p>第4回</p> <p>日韓歴史問題の認識と相違 (2)</p>	<p>講義</p>	<p>浅井 (韓国文化)</p>
	<p>第5回</p> <p>日韓歴史問題の認識と相違 (3)</p>	<p>講義</p>	<p>浅井 (韓国文化)</p>
	<p>第6回</p> <p>インドネシアの地理、歴史、言語、宗教</p>	<p>講義</p>	<p>富岡 (インドネシア文化)</p>
	<p>第7回</p> <p>インドネシアの冠婚葬祭と死生観</p>	<p>講義</p>	<p>富岡 (インドネシア文化)</p>
	<p>第8回</p> <p>インドネシアの衣食住</p>	<p>講義</p>	<p>富岡 (インドネシア文化)</p>
	<p>第9回</p> <p>インドネシアの現代史</p>	<p>講義</p>	<p>富岡 (インドネシア文化)</p>
	<p>第10回</p> <p>インドネシアの観光と文化、確認テスト</p>	<p>講義</p>	<p>富岡 (インドネシア文化)</p>
	<p>第11回</p> <p>中華文化圏の特性 (歴史、地理、気候、言語、民族、漢字など)</p>	<p>講義</p>	<p>水野 (中国文化)</p>
	<p>第12回</p> <p>中華文化圏の暦法と歳時記 (元旦、清明節、端午節、重陽節)</p>	<p>講義</p>	<p>水野 (中国文化)</p>
	<p>第13回</p> <p>中華文化圏の飲食と養生 (四季の食養生、中国六大茶)</p>	<p>講義</p>	<p>水野 (中国文化)</p>
	<p>第14回</p> <p>中華文化圏の思想 (諸子百家の思想、孔子、孟子、老子、荘</p>	<p>講義</p>	<p>水野 (中国文化)</p>

	子)		
	第15回 中華文化圏の芸術（書画、絵画、民居、庭園など）	講義	水野（中国文化）
授業外学修（事前学修・事後学修）	<p>[浅井（韓国文化）] 朝鮮半島の諸問題（北朝鮮の核・拉致問題、徴用工や慰安婦問題など）に関するニュースをチェックする。</p> <p>[富岡（インドネシア文化）] なし</p> <p>[水野（中国文化）] なし</p>		
テキスト	<p>[浅井（韓国文化）] 特になし、また必要な資料は講義時に配布する。</p> <p>[富岡（インドネシア文化）] 特に使用しない。必要に応じてレジユメを配布する。</p> <p>[水野（中国文化）] なし。最初にレジユメを配布する。</p>		
参考書	<p>[浅井（韓国文化）] 授業中に紹介する。</p> <p>[富岡（インドネシア文化）] 授業中に紹介する。</p> <p>[水野（中国文化）] 水野杏紀『易、風水、暦、養生、処世 東アジアの宇宙観』（講談社選書メチエ、講談社、2016年）</p>		
学生へのメッセージ等	<p>[浅井（韓国文化）] 朝鮮半島は日本に隣接する地域でありながら理解を難しくしている要因の一つが半島を取り巻く国際環境にあります。東アジア全体から朝鮮半島の諸問題を捉えなおしてみましょう。 注意：授業中、私語等で注意を受けた場合、評価対象から外れる場合があるので注意されたい。</p> <p>[富岡（インドネシア文化）] 現在はインドネシアに駐在する日本人の数も、日本で働くインドネシア人の数も増え、相互理解の必要性はますます高まっています。皆さんの職業人生において、異なる文化背景の人々とどのように接してゆくべきか、この講義を契機として考えてみてください。</p> <p>[水野（中国文化）] 日本は中国と古くよりさまざまな交流があり、思想や文化、技術、芸術など多くのものが伝播し、これらはまた日本で独自の発展を遂げています。中国を理解することは日本を理解することにもつながります。そうした視点も踏まえながら、学んでほしいと思います。</p>		

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	教養教育	1	必修
担当教員			
若月 幸平（教育開発センター教育教授）			
添付ファイル			

全担当教員	若月 幸平（教育開発センター教育教授）／池邊 寧（ドイツ文化）／勝井 伸子（アメリカ文化）／折井 穂積（フランス文化）
概要	<p>[池邊（ドイツ文化）] ナチ時代のドイツを取り上げ、ドイツ国民はなぜヒトラーを支持したのかについて考えていく。</p> <p>[勝井（アメリカ文化）] 21世紀の現在の世界に大きな影響力を及ぼしているアメリカの文化を形成するヒーロー、フロンティア、移民といったいくつかの要素からアメリカ文化を理解することから、アメリカ人にとっての世界の見え方を理解し、また同時にアメリカ文化がグローバル化とともに世界に浸透しているということを改めて認識することで、世界の中で生きる視点を持つことを目的とする。</p> <p>[折井（フランス文化）] 世界遺産や文化財に指定されている建造物をたどりながら、それらの背景となった歴史や文化を考察する。扱われる建造物は、古代の遺跡、ロマネスクやゴシックの聖堂、英仏百年戦争時代の古城、絶対王政期の宮殿、産業革命期の工場や社宅、大戦時の軍事施設、現代の新市街など。さらに、残り時間を利用して流行歌を紹介し、フランス語圏の現在を考える。扱われる内容は、パリとジャズ・マヌーシュ、ラップと性差別および家庭内暴力、カナダのフランス語圏、アフリカにルーツを持つ歌手、喫煙や認知症を主題とする歌など。幅広い知識と国際的な視野の獲得を目指す。</p>
目標	<p>I 倫理観とプロフェッショナリズム</p> <p>[池邊（ドイツ文化）] 医師・看護師の職責を自覚し、人間の多様性を尊重することができる。</p> <p>[勝井（アメリカ文化）] 幅広い教養と深い洞察力を備えた医療人となるべく、広く世界に目を向け、常に共感をもって異文化に接することができる。</p> <p>[折井（フランス文化）] 幅広い教養と深い洞察力を備えた医療人となるべく、広く世界に目を向け、常に共感をもって異文化に接することができる。</p> <p>II 医学とそれに関する領域の知識</p> <p>[池邊（ドイツ文化）] 時代の流れや社会の状況のなかで医学・医療を捉え、説明できる。</p> <p>[勝井（アメリカ文化）] 他国の歴史や文化に触れることにより、自身の考えを相対化することができる。</p> <p>[折井（フランス文化）] 他国の歴史や文化に触れることにより、自身の考えを相対化することができる。</p> <p>III 医療の実践</p> <p>[池邊（ドイツ文化）] —</p> <p>[勝井（アメリカ文化）] —</p> <p>[折井（フランス文化）] —</p> <p>IV チームマネジメントとコミュニケーション技能</p> <p>[池邊（ドイツ文化）] —</p> <p>[勝井（アメリカ文化）] アメリカ文化の特徴、日本文化との違いなどについて、自分なりに分析したことを、論理的な文章構成で伝えることができる。</p> <p>[折井（フランス文化）] フランス文化の特徴、日本との関わり、日本文化との違いなどについて、新たに発見したこと、疑問に感じたこと、自分なりに分析したことを、論理的な文章構成で伝えることができる。</p> <p>V 医学、医療、保健、社会への貢献</p> <p>[池邊（ドイツ文化）] —</p> <p>[勝井（アメリカ文化）] —</p>

	<p>アメリカの医療・医療保険制度と文化、歴史との関係について理解し、説明できる。</p> <p>[折井 (フランス文化)]</p> <p>—</p> <p>VI 国際的視野と科学的探究</p> <p>[池邊 (ドイツ文化)]</p> <p>他国の歴史や文化を理解し、国際的な視野に立って医学・医療のあり方を考えることができる。</p> <p>[勝井 (アメリカ文化)]</p> <p>自国以外の地域の文化を、探求心を持って学ぶことができる。授業で得られた知識を自分の言葉で整理し、それに基づいて考察することができる。</p> <p>[折井 (フランス文化)]</p> <p>自国以外の地域の文化を、探求心を持って学ぶことができる。授業で得られた知識を自分の言葉で整理し、それに基づいて考察することができる。</p>		
<p>評価方法</p> <p>《》内は評価するアウトカムのコンピテンシ番号を記載</p>	<p>[池邊 (ドイツ文化)]</p> <p>■ミニッツペーパー (100%) 《I、II、VI》</p> <p>[勝井 (アメリカ文化)]</p> <p>■授業中ミニレポート・貢献度 (50%) 《I、II、IV、V、VI》</p> <p>■期末レポート (50%) 《I、II、IV、V、VI》</p> <p>[折井 (フランス文化)]</p> <p>■小レポート (100%) 《I, II, IV, VI》</p>		
<p>授業計画</p> <p>【】内は授業時に関係するモデル・コア・カリキュラムの番号を記載</p>	<p>授業内容</p>	<p>授業形態</p>	<p>担当者</p>
	<p>第1回</p> <p>ナチズムと現代</p>	<p>講義</p>	<p>池邊 (ドイツ文化)</p>
	<p>第2回</p> <p>ナチ時代のドイツ国民</p>	<p>講義</p>	<p>池邊 (ドイツ文化)</p>
	<p>第3回</p> <p>ナチズムと健康・医学</p>	<p>講義</p>	<p>池邊 (ドイツ文化)</p>
	<p>第4回</p> <p>ナチズムと優生思想</p>	<p>講義</p>	<p>池邊 (ドイツ文化)</p>
	<p>第5回</p> <p>ホロコースト</p>	<p>講義</p>	<p>池邊 (ドイツ文化)</p>
	<p>第6回</p> <p>アメリカ文化におけるヒーロー</p>	<p>講義</p>	<p>勝井 (アメリカ文化)</p>
	<p>第7回</p> <p>アメリカ文化の特質としてのフロンティア</p>	<p>講義</p>	<p>勝井 (アメリカ文化)</p>
	<p>第8回</p> <p>イデオロギーとしてのアメリカの農民</p>	<p>講義</p>	<p>勝井 (アメリカ文化)</p>
	<p>第9回</p> <p>アメリカの主流文化の形成と移民</p>	<p>講義</p>	<p>勝井 (アメリカ文化)</p>
	<p>第10回</p> <p>フロンティアの経験と暴力</p>	<p>講義</p>	<p>勝井 (アメリカ文化)</p>
	<p>第11回</p> <p>古代と中世</p>	<p>講義</p>	<p>折井 (フランス文化)</p>
	<p>第12回</p> <p>中世末期とルネサンス</p>	<p>講義</p>	<p>折井 (フランス文化)</p>
	<p>第13回</p> <p>ブルボン王朝時代</p>	<p>講義</p>	<p>折井 (フランス文化)</p>
	<p>第14回</p> <p>19世紀</p>	<p>講義</p>	<p>折井 (フランス文化)</p>
	<p>第15回</p> <p>20世紀</p>	<p>講義</p>	<p>折井 (フランス文化)</p>

授業外学修（事前学修・事後学修）	<p>[池邊（ドイツ文化）] なし</p> <p>[勝井（アメリカ文化）] 5回目授業終了後3週間以内に最終レポート提出 提出は教務システム</p> <p>[折井（フランス文化）] なし</p>
テキスト	<p>[池邊（ドイツ文化）] 使用しない。随時、プリントを配布する。</p> <p>[勝井（アメリカ文化）] 使用しない</p> <p>[折井（フランス文化）] 使用しない</p>
参考書	<p>[池邊（ドイツ文化）] 講義中に随時紹介する。</p> <p>[勝井（アメリカ文化）] 使用しない</p> <p>[折井（フランス文化）] 使用しない</p>
学生へのメッセージ等	<p>[池邊（ドイツ文化）] 他国のこと、昔のことと突き放さず、自分に引きつけて受講してください。</p> <p>[勝井（アメリカ文化）] 今まで特に意識していなかったことを前景化する＝意識化することで、世界の見え方が変わる！という経験を一緒に味わえればと思います。授業中の質問やコメントは貢献度として評価しますので、みなさんの積極的な参加を期待しています。</p> <p>[折井（フランス文化）] 授業で扱われるのは文化史の一断面に過ぎません。そこに留意し、これから自分自身で考える際の参考にしてください。</p>

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	教養教育	2	選択
担当教員			
Ehrlich, Sven Martin			
添付ファイル			

全担当教員	Ehrlich, Sven Martin		
概要	世界が広い。世界国々文化は多種多様なものです。だから面白い。今期に、テーマ別様々な国の文化を紹介し、くらべます。少しだけ幅広い世界を知ることができます。各参加者は面白そうなテーマ選んで深く調べて発表します。そして世界に興味を持つ。 卒業後の医療現場で他国の患者さんのバックグラウンドを少しだけ理解できるようになってください。		
目標	<p>I 倫理観とプロフェッショナリズム</p> <ul style="list-style-type: none"> □外国人患者・医療従事者の考えに共感することができる。 □授業を通して医学生として相応しい行動を認識できる。 <p>II 医学とそれに関する領域の知識</p> <p>医学の歴史について他国との違いを理解できる。</p> <p>III 医療の実践</p> <p>—</p> <p>IV チームマネジメントとコミュニケーション技能</p> <p>他国の文化、社会的な背景について理解できる。</p> <p>V 医学、医療、保健、社会への貢献</p> <p>医学に関連する学びを通し、医学と社会の関係を理解できる。</p> <p>VI 国際的視野と科学的探究</p> <p>国際的な文化、社会的な背景を理解できる。</p>		
評価方法	<p>■ 授業参加度（毎回授業後感想提出）60% 《I, II》</p> <p>■ 発表 30% 《IV, V, VI》</p> <p>■ レポート 10% 《IV, VI》</p> <p>《》内は評価するアウトカムのコンピテンス番号を記載</p>		
授業計画	授業内容	授業形態	担当者
【I】内は授業時に関するモデル・コア・カリキュラムの番号を記載	第1回 挨拶、授業内容、評価方法、発表とレポート、テーマ紹介、 テーマ選択方法	講義	Sven
	第2回 漫画とComic 例：US Comic、日本（Dragon Ball）フランス：Asterix, Luky Luke, TinTin	講義	Sven
	第3回 Cityscape 町の作り方 衛生地図を使って、街の作り比べます。 例：大阪, Los Angeles, Paris, Köln, Accra	講義・発表	Sven
	第4回 家の作り 伝統的と現代の家作りを比べます。 例：日本, Mexico, スペイン, ドイツ, カメルーン	講義・発表	Sven
	第5回 音楽 20世紀で出来た当時新スタイルの音楽を比べます。 例：フランス（Chanson）、ブラジル（Bossa Nova）、コロンビア（Salsa）、日本（演歌）、インド、コンゴ	講義・発表	Sven
	第6回 伝統的な服 例：日本（着物）、インド(サリ、ルンギ)、Mexico、マリ、ドイツ	講義・発表	Sven
	第7回 今の服 例：Klaus Lagerfeld、Pineda-Covalin などなど	講義・発表	Sven
	第8回 映画	講義・発表	Sven

	例：Hollywood、Bollywood(インド)、Nollywood (ナイジェリア) ヨーロッパ国々の映画、日本		
	第9回 食べ物 例：トルコ、Mexico、フランス・イタリア、ブラジル、日本	講義・発表	Sven
	第10回 日常生活、ルール 例：電車、食べる、お酒とタバコ、挨拶、など	講義・発表	Sven
	第11回 フェスティバル 例：Carneval de Rio, New Orleans の Mardi Gras, Koelner Karneval, Love Parade ねぶた祭り	講義・発表	Sven
	第12回 出産と医学の伝統	講義・発表	Sven
	第13回 言葉とコミュニケーション	講義	Sven
	第14回 追加予定	講義	Sven
	第15回 まとめ	講義	Sven
授業外学修 (事前学修・事後学修)	特にはないですが、事前・事後に内容を自分で調べると、ますます面白くなっていきます。		
テキスト	発表テーマによる。		
参考書	発表テーマによる。		
学生へのメッセージ等	楽しんで参加して、そして世界の華やかな文化に興味をもって欲しいです。		

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	教養教育	2	必修
担当教員			
若月 幸平（教育開発センター教育教授）			
添付ファイル			

全担当教員	若月 幸平（教育開発センター教育教授）／池上 徹		
概要	本授業では、教育学における教授論と学習論の知見を生かし、自分なりに教育学と医学・看護学を実践的に結びつけ、医療従事者としてよりよく職能成長していくための基礎を身につける。		
目標	<p>I 倫理観とプロフェッショナルリズム <input type="checkbox"/> 医師・看護師は患者に行動変容を促す専門職であり、そこに教育的行為が入り込むことが理解できる。 <input type="checkbox"/> より良い医師・看護師を目指し、生涯にわたって自己研鑽を積むことの大切さが理解できる。</p> <p>II 医学とそれに関する領域の知識 医学・看護学を含む科学技術の発展による人々の意識の変化と、それに伴う患者中心の医療への転換を理解できる。</p> <p>III 医療の実践 —</p> <p>IV チームマネジメントとコミュニケーション技能 グループワークを通してチーム医療に貢献できる基礎的な力を養うとともに、レポート作成などを通じて根拠に基づく実践の礎を築くことができる。</p> <p>V 医学、医療、保健、社会への貢献 医療の進展が、単に患者個人の利益の問題ではなく、社会全体の幸福につながることを理解できる。</p> <p>VI 国際的視野と科学的探究 —</p>		
評価方法	前半が講義、後半がグループワークとなり、最終回に授業中試験を行う。 《》内は評価するアウトカムのコンピテン্স番号を記載 ■講義で毎回提出するミニツッパーパー 10%（実際にはimakikuというサービスを利用予定）《I, II, V》 ■前半の講義を受けて後半のグループワークで発表したい内容を記したレポート 10%《I, II, IV, V》 ■班で話し合っってスライドを作成し、発表 40%《I, II, IV, V》 ■最終回に論述の試験 40%《I, II, V》		
授業計画	授業内容	授業形態	担当者
【】内は授業時に関係するモデル・コア・カリキュラムの番号を記載	第1回 2023年4月13日（木） A2クラス1限・B2クラス2限 オリエンテーション （医療従事職として教育実践論を学ぶ意義）	講義	池上
	第2回 2023年4月20日（木） A2クラス1限・B2クラス2限 子ども観の変遷 （『子どもの誕生』）	講義	池上
	第3回 2023年4月27日（木） A2クラス1限・B2クラス2限 教育をめぐる時代の変化 （モダン社会からポストモダン社会へ）	講義	池上
	第4回 2023年5月11日（木） A2クラス1限・B2クラス2限 現代における教育問題の例 （学校化社会・病院化社会という問題）	講義	池上
	第5回 2023年5月18日（木） A2クラス1限・B2クラス2限 これからの学校教育の実践例 （茅ヶ崎市立浜之郷小学校の実践）	講義	池上
	第6回 2023年5月25日（木） A2クラス1限・B2クラス2限 家族と教育 （最初の社会化集団）	講義	池上
	第7回 2023年5月25日（木） 5限 生涯学習社会の先進事例 （「学びの社会」スウェーデン）	講義	池上
	第8回 2023年6月1日（木） A2クラス1限・B2クラス2限 プレゼンテーションの準備1 （課題の設定 個人でレポート作成）	講義	池上
	第9回 2023年6月8日（木） A2クラス1限・B2クラス2限 プレゼンテーションの準備2 （個人のレポートを見せ合い、班でテーマを決定）	演習	池上

	第10回	2023年6月15日（木） A2クラス1限・B2クラス2限 プレゼンテーションの準備3 (発表資料の作成 班で一つのパワーポイントファイルを作成)	演習	池上
	第11回	2023年6月22日（木） A2クラス1限・B2クラス2限 教育と医療についてのプレゼンテーション1	演習	池上
	第12回	2023年6月29日（木） A2クラス1限・B2クラス2限 教育と医療についてのプレゼンテーション2	演習	池上
	第13回	2023年7月6日（木） A2クラス1限・B2クラス2限 教育と医療についてのプレゼンテーション3	演習	池上
	第14回	2023年7月13日（木） A2クラス1限・B2クラス2限 教育と医療についてのプレゼンテーション4	演習	池上
	第15回	2023年7月20日（木） A2クラス1限・B2クラス2限 21世紀における教育のありかた (授業中試験)	講義	池上
授業外学修（事前学修・事後学修）	講義において、テキストは予習を想定し、講義中に配布するプリントを復習として読んでもらう。			
テキスト	『教育の理念と思想のフロンティア』伊藤良高・富江英俊編、晃洋書房、2017 必要に応じて授業中に資料を配付する。テキストは予習のための位置づけである。			
参考書	『子どもと教育と社会』腰越滋編、学文社、2016 『看護のための教育学 「知る」から「分かる」への教育』鈴木正幸編、メヂカルフレンド社、1993 『看護学生と看護職のための教育学概論』山崎裕二著、青山社、2012 『看護現場で使える 教育学の理論と技法』中井俊樹編著、メディカ出版、2014			
学生へのメッセージ等	後半はグループによる発表が中心となるため、主体的に取り組んでもらいたい。非常勤講師が担当する授業であるが、発表のために事前にファイルを提出するなど、授業時間以外の学びも重視すること。			

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	教養教育	2	必修
担当教員			
若月 幸平（教育開発センター）			
添付ファイル			

全担当教員	若月 幸平（教育開発センター） / 板橋 孝幸		
概要	本授業では、教育学における教授論と学習論の知見を生かし、自分なりに教育学と医学・看護学を実践的に結びつけ、医療従事者としてよりよく職能成長していくための基礎を身につける。		
目標	<p>I 倫理観とプロフェッショナリズム 医療者として医療倫理に基づき、生涯にわたる自己学習の重要性を理解できる。</p> <p>II 医学とそれに関する領域の知識 医療者として身に付けるべき人の成長や発達についての基礎を理解できる。</p> <p>III 医療の実践 —</p> <p>IV チームマネジメントとコミュニケーション技能 レポートを規定に従って適切に作成するとともに、グループワークを通してチーム医療に必要な基礎的コミュニケーション技能を養い、プレゼンテーションができる。</p> <p>V 医学、医療、保健、社会への貢献 医療者として社会に関わる大切さと貢献のあり方について、キャリアデザインと重ねて考えることができる。</p> <p>VI 国際的視野と科学的探究 —</p>		
評価方法	<p>■シャトルペーパー：30% 《I、II、V》</p> <p>■レポート、プレゼンテーション：30% 《I、II、IV、V》</p> <p>■最終試験：40% 《I、II、V》</p> <p>《》内は評価するアウトカムのコンピテン্স番号を記載</p>		
授業計画	授業内容	授業形態	担当者
【I】内は授業時に関係するモデル・コア・カリキュラムの番号を記載	第1回 オリエンテーション	講義	板橋
	第2回 教育における理念と目的	講義	板橋
	第3回 教授論①：人に教えるということ	講義	板橋
	第4回 教授論②：教育における目標と評価	講義	板橋
	第5回 教授論③：よりよい患者教育を行うためには	講義	板橋
	第6回 学習論①：大学での学びと職業に就いてからの学びの違い	講義	板橋
	第7回 学習論②：生涯学習の意義と役割	講義	板橋
	第8回 学習論③：学び続ける医療従事者になるためには	講義	板橋
	第9回 教育の方法と技術①：課題の設定と解決の工夫（発表準備1回目含む）	講義・演習	板橋
	第10回	講義・演習	板橋

	教育の方法と技術②：協同学習の要件と技法（発表準備2回目含む）		
	第11回 教育の方法と技術③：発表を通して教授・学習論を実践的に学ぶグループによる発表 1回目	講義・演習	板橋
	第12回 教育の方法と技術④：発表を通して教授・学習論を実践的に学ぶグループによる発表 2回目	講義・演習	板橋
	第13回 教育の方法と技術⑤：発表を通して教授・学習論を実践的に学ぶグループによる発表 3回目	講義・演習	板橋
	第14回 教育の方法と技術⑥：発表を通して教授・学習論を実践的に学ぶグループによる発表 4回目	講義・演習	板橋
	第15回 まとめ	講義・演習	板橋
授業外学修（事前学修・事後学修）			
テキスト	なし		
参考書	木村元編『教育学』医学書院、2022年		
学生へのメッセージ等	グループによる話し合いを行うので、主体的に授業に取り組むことを期待する。		

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	教養教育	2	必修
担当教員			
若月 幸平（教育開発センター教育教授）			
添付ファイル			

全担当教員	若月 幸平（教育開発センター教育教授）／近池 操		
概要	理論と実践の研究を統合して人の社会への適応と人格的成長について理解する。 不適応・障害・苦悩を持つ人に対する理解と共感を深め、その援助について学習する。		
目標	<p>I 倫理観とプロフェッショナリズム 人の発達・成長のあり方の理解を通して、医学生として相応しい行動を認識できる。</p> <p>II 医学とそれに関する領域の知識 □対人援助職として、身につけるべき基本的なスキルや態度の基礎を理解できる。 □心理的な問題を抱えた人の理解と援助について、実践的な知識を修得することができる。</p> <p>III 医療の実践 —</p> <p>IV チームマネジメントとコミュニケーション技能 □不適応・障害・苦悩を持つ人に対する理解と共感を深めることができる。 □上記の者に対する具体的な援助方法・技術・姿勢等について理解できる。</p> <p>V 医学、医療、保健、社会への貢献 医療現場における心理社会的ニーズと必要な支援について理解できる。</p> <p>VI 国際的視野と科学的探究 臨床心理学の実践に求められる最新の知見や研究を理解できる。</p>		
評価方法	<p>■受講態度（提出物なども含む）（40%）≪I、II、VI、V、VI≫ ■定期試験（60%）≪I、II、VI、V、VI≫</p> <p>《》内は評価するアウトカムのコンピテン্স番号を記載</p>		
授業計画	授業内容	授業形態	担当者
【】内は授業時に関係するモデル・コア・カリキュラムの番号を記載	第1回 2023年9月26日（火） 臨床心理学とは 臨床心理学の歴史 心理学の起源から脳科学の進歩までの歴史を学ぶ	講義	近池
	第2回 2023年10月2日（月） 人の心の理解 知覚と認知 記憶 認知機能と記憶のしくみを学ぶ	講義	近池
	第3回 2023年10月2日（月） 人の行動 学習 動機 意欲 動物行動学的視点から、動物の行動形成について学び、進化の過程で獲得した人の適応的行動について学ぶ。	講義	近池
	第4回 2023年10月9日（月） 発達心理学 ピアジェとエリクソン 人の認知機能の発達と社会性の発達について学ぶ	講義	近池
	第5回 2023年10月16日（月） 人の心の理解 愛着理論 人の感情の発達と人間関係の形成について学ぶ	講義	近池
	第6回 2023年10月23日（月） 臨床心理 研究方法・アセスメント 心理検査 質問紙法 心理検査実習（質問紙法）をして、人の特性について理解を深める	講義	近池
	第7回 2023年10月30日（月） 臨床心理アセスメント 投影法 描画テスト 心理検査実習（投影法）をして、人それぞれに個性があることや、自己への理解を深める。	講義	近池
	第8回 2023年11月6日（月） 臨床心理学的援助 深層心理学 精神分析的理解とアプローチ 精神分析理論の展開を学ぶ	講義	近池
	第9回 2023年11月13日（月） 臨床心理学的援助 認知行動療法 自動思考記録表の作成 自動思考記録表を作成して、認知の修正のプロセスを学ぶ	講義	近池

	第10回	2023年11月20日（月） 臨床心理学的援助 認知行動療法 行動活性化 マインドフルネス アサーション 生活習慣の改善やコミュニケーションスキルを学ぶ	講義	近池
	第11回	2023年11月27日（月） 臨床心理学的テーマ 強迫症、依存症について 精神的な症状の背景や治療について学ぶ	講義	近池
	第12回	2023年12月4日（月） 臨床心理学的テーマ 発達の領域とその障害 神経発達症の理解と支援について学ぶ	講義	近池
	第13回	2023年12月11日（月） 臨床心理学的テーマ 虐待・性暴力・DVなど 被害の防止や被害者支援について学ぶ	講義	近池
	第14回	2023年12月18日（月） 臨床心理学的テーマ 精神病への理解 統合失調症の理解と支援について学ぶ	講義	近池
	第15回	2024年1月15日（月） 臨床心理実践に求められるもの 連携・守秘義務・倫理・スーパービジョン・研究 治療者の持つべきこころのありかたについて学ぶ	講義	近池
授業外学修（事前学修・事後学修）				
テキスト	特になし。資料を授業中に配布します。			
参考書	特になし。資料を授業中に配布します。			
学生へのメッセージ等	人の発達・成長・心のありかたに興味を持って、授業に積極的に参加することを望みます。 不適応や心の病気への理解を深め、自分自身の心の健康の維持にも留意していくことを望みます。			

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	教養教育	2	必修
担当教員			
若月 幸平（教育開発センター教育教授）			
添付ファイル			

全担当教員	若月 幸平（教育開発センター教育教授）／山本 典子		
概要	科学・理論・実践を統合して社会への適応と人格的成長について理解する。 不適応・障害・苦悩を持つ人に対する理解と共感を深め、その援助について学習する。		
目標	<p>I 倫理観とプロフェッショナリズム 人の発達・成長のあり方の理解を通して、医学生として相応しい行動を認識できる。</p> <p>II 医学とそれに関する領域の知識 □対人援助職として、身につけるべき基本的なスキルや態度の基礎を理解できる。 □心理的な問題を抱えた人の理解と援助について、実践的な知識を修得することができる。</p> <p>III 医療の実践 —</p> <p>IV チームマネジメントとコミュニケーション技能 □不適応・障害・苦悩を持つ人に対する理解と共感を深めることができる。 □上記の者に対する具体的な援助方法・技術・姿勢等について理解できる。</p> <p>V 医学、医療、保健、社会への貢献 医療現場における心理社会的ニーズと必要な支援について理解できる。</p> <p>VI 国際的視野と科学的探究 臨床心理学の実践に求められる最新の知見や研究を理解できる。</p>		
評価方法	<p>■受講態度（提出物なども含む）（40%）《I、II、VI、V、VI》</p> <p>■定期試験（60%）《I、II、VI、V、VI》</p> <p>《》内は評価するアウトカムのコンピテン্স番号を記載</p>		
授業計画	授業内容	授業形態	担当者
【I】内は授業時に関係するモデル・コア・カリキュラムの番号を記載	第1回 2023年9月25日（月） 臨床心理学とは 臨床心理学の歴史と発展	講義	山本
	第2回 2023年10月2日（月） 人の心の理解 認知機能・学習	講義	山本
	第3回 2023年10月9日（月） 人の心の理解 発達・パーソナリティ	講義	山本
	第4回 2023年10月9日（月） 人の心の理解 観察法・面接法	講義	山本
	第5回 2023年10月16日（月） 人の心の理解 心理検査	講義	山本
	第6回 2023年10月23日（月） 臨床心理学における症状・問題とは	講義	山本
	第7回 2023年10月30日（月） 臨床心理学的援助 深層心理学・精神分析学的理解とアプローチ	講義	山本
	第8回 2023年11月6日（月） 臨床心理学的援助 行動主義心理学・認知心理学的理解とアプローチ	講義	山本
	第9回 2023年11月13日（月） 臨床心理学的援助 色々な心理療法	講義	山本

	第10回	2023年11月20日（月） 心理療法の過程 枠組み・効果・危機介入	講義	山本
	第11回	2023年11月27日（月） 心理療法の過程 実習をまじえて	講義	山本
	第12回	2023年12月4日（月） 臨床心理学的な問題 発達のなかで	講義	山本
	第13回	2023年12月11日（月） 臨床心理的な問題 社会のなかで	講義	山本
	第14回	2023年12月18日（月） 臨床心理的な問題 医療のなかで	講義	山本
	第15回	2024年1月15日（月） 臨床心理実践に求められるもの	講義	山本
授業外学修（事前学修・事後学修）				
テキスト	授業中に資料を配布します。			
参考書	授業中に資料を配布します。			
学生へのメッセージ等	心に興味関心を持って授業に積極的に参加することを望みます。			

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	教養教育	2	必修
担当教員			
若月 幸平（教育開発センター教育教授）			
添付ファイル			

全担当教員	若月 幸平（教育開発センター教育教授）／宿谷 仁美		
概要	科学・理論・実践を統合して社会への適応と人格成長について理解する。不適応・障害・苦悩を持つ人に対する理解と共感を深め、その援助方法・技術・姿勢・倫理について学習する。		
目標	<p>I 倫理観とプロフェッショナリズム 人の発達・成長のあり方の理解を通して、医学生として相応しい行動を認識できる。</p> <p>II 医学とそれに関する領域の知識 □対人援助職として、身につけるべき基本的なスキルや態度の基礎を理解できる。 □心理的な問題を抱えた人の理解と援助について、実践的な知識を修得することができる。</p> <p>III 医療の実践 —</p> <p>IV チームマネジメントとコミュニケーション技能 □不適応・障害・苦悩を持つ人に対する理解と共感を深めることができる。 □上記の者に対する具体的な援助方法・技術・姿勢等について理解できる。</p> <p>V 医学、医療、保健、社会への貢献 医療現場における心理社会的ニーズと必要な支援について理解できる。</p> <p>VI 国際的視野と科学的探究 臨床心理学の実践に求められる最新の知見や研究を理解できる。</p>		
評価方法	<p>■受講態度（提出物なども含む）（40%）《I、II、VI、V、VI》</p> <p>■定期試験（60%）《I、II、VI、V、VI》</p> <p>《》内は評価するアウトカムのコンピテン番号を記載</p>		
授業計画	授業内容	授業形態	担当者
【I】内は授業時に関係するモデル・コア・カリキュラムの番号を記載	第1回 2023年9月25日（月） オリエンテーション、臨床心理学とは 受講にあたっての留意点。臨床心理学とは、臨床心理学の歴史と現代的意義について学ぶ。	講義	宿谷
	第2回 2023年10月2日（月） 人の心の理解「知覚、認知」 知覚の機能、認知の機能について学び、人はいかに見ているように見えていないか、聞いているように聞いていないかについて学術的に理解する。	講義	宿谷
	第3回 2023年10月9日（月） 人の心の理解「学習、発達とパーソナリティ」 学習の理論、生来的な気質や後天的に体験を通して学習し形成される人のパーソナリティについて学ぶ。	講義	宿谷
	第4回 2023年10月16日（月） 人の心の理解「アタッチメントとコミュニケーション」 心身機能の発達とアタッチメントの発達、コミュニケーションのあり方について学ぶ。	講義	宿谷
	第5回 2023年10月23日（月） 臨床心理学的アセスメント「心理検査：質問紙法」 臨床心理学的アセスメントと医療的診断との違いについて学ぶ。心理学的アセスメントの一つとして、質問紙法を体験し、その検査メリット・デメリットについて考える。また、自分自身のあり方について考える。	講義	宿谷
	第6回 2023年10月30日（月） 臨床心理学的アセスメント「心理検査：発達検査、知能検査、性格検査」 さまざまな心理検査について概要を学ぶ。実際に性格検査を体験し、その検査のメリット・デメリット、限界について考える。また、自分自身のあり方について考える。	講義	宿谷
	第7回 2023年11月2日（木） 臨床心理実践に求められるもの「心理的援助の枠組み、構造、	講義	宿谷

	倫理」 さまざまな心理的援助、心理療法、心理治療のための枠組みや構造、倫理的課題について学ぶ。		
第8回	2023年11月6日（月） 臨床心理学的援助「深層心理学、精神分析的理解とアプローチ①」 人の心のしくみと働きについての理論について学ぶ。	講義	宿谷
第9回	2023年11月13日（月） 臨床心理学的援助「深層心理学、精神分析的理解とアプローチ②」 人の心のしくみについての精神分析理論、自我機能、病態水準、防衛機制について学ぶ。	講義	宿谷
第10回	2023年11月20日（月） 臨床心理学的援助「認知・行動療法、マインドフルネス」 認知療法の基本、自動思考、マインドフルネス、海外の研究について学ぶ。	講義	宿谷
第11回	2023年11月27日（月） 臨床心理学におけるテーマ「精神的な問題と身体症状、職場のメンタルヘルス」 働く人をとりまく環境とそれが人の心身に与える影響について学ぶ。ストレス、ストレッサーが人の心身機能に与える影響、ストレスチェック制度のあり方とその課題（医療者の役割）、対人援助者が陥りやすい心理について学ぶ。	講義	宿谷
第12回	2023年12月4日（月） 臨床心理学におけるテーマ「学校のメンタルヘルス、ひきこもり、発達障害」 スクールカウンセラーの活動の実際、子どもの心をはぐくむ学校教育・システムのあり方、医療との連携について学ぶ。昨今のひきこもりや発達障害の理解と支援のアプローチについて学び、医療においてできる治療や支援について学ぶ。	講義	宿谷
第13回	2023年12月11日（月） 臨床心理学におけるテーマ「虐待、DV、離婚」 虐待やDVが人の心のあり方に及ぼす影響について学ぶ。両親の不仲や離婚が子どもの心のあり方に及ぼす影響について学び、医療においてできる治療や支援について考える。	講義	宿谷
第14回	2023年12月18日（月） 臨床心理学におけるテーマ「被災者支援、被害者／加害者支援」 被災者支援のあり方、災害派遣医療チームについて学ぶ。事故や事件の被害者支援・加害者支援の実際について学ぶ。外傷的な出来事に直面した際の支援者が陥りやすい心理的危機について学ぶ。	講義	宿谷
第15回	2024年1月15日（月） 臨床心理学におけるテーマ「精神病、依存症」 統合失調症、うつや躁鬱病、依存症、器質性疾患、摂食障害などさまざまな精神疾患と治療・援助アプローチの概要について学ぶ。	講義	宿谷
授業外学修（事前学修・事後学修）			
テキスト	特になし。資料を授業中に配布します。		
参考書	特になし。資料を授業中に配布・紹介します。		
学生へのメッセージ等	自分を含めた人の発達・成長・心のあり方に興味関心を持って、授業に積極的に参加することを望みます。		

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	教養教育	2	必修
担当教員			
若月 幸平（教育開発センター）			
添付ファイル			

全担当教員	若月 幸平（教育開発センター）／谷 直之／倉持 史朗		
概要	<p>(倉持) 本講義の目的は、「社会福祉」に含まれる制度や実践の理解、および、「社会福祉」の価値や視点を理解することである。社会福祉に関する制度や社会福祉が対象とする諸問題と実践内容を取り上げることを通して、社会福祉の今日的意義と医療とのかかわりについて考えることを目指す。</p> <p>(谷) 法とは何かを理解し、法的視点から、医療（倫理）、保健衛生、福祉の概要と諸問題について理解を深める。</p>		
目標	<p>I 倫理観とプロフェッショナリズム <input type="checkbox"/> 人間の尊厳を尊重し、患者中心の立場に立つことを理解できる。 <input type="checkbox"/> 医療倫理を理解し、説明できる。 <input type="checkbox"/> 医療者として法的責任・規範を理解し、遵守することの重要性を説明できる。</p> <p>II 医学とそれに関する領域の知識 <input type="checkbox"/> 社会と医学・医療との関係、死と法について説明できる。 <input type="checkbox"/> 医療安全の重要性、医療事故の予防と対処について説明できる。</p> <p>III 医療の実践 —</p> <p>IV チームマネジメントとコミュニケーション技能 <input type="checkbox"/> レポートなどの文書を規定に従って適切に作成し、提出できる。</p> <p>V 医学、医療、保健、社会への貢献 <input type="checkbox"/> 保健・医療・福祉・介護に関連する法規・制度等を理解できる。 <input type="checkbox"/> 健康・福祉に関する問題を評価し、地域や国際社会の疾病予防や健康増進の重要性を説明できる。</p> <p>VI 国際的視野と科学的探究 —</p>		
評価方法	<p>(倉持) <input checked="" type="checkbox"/> 期末試験 70% 《V》 <input checked="" type="checkbox"/> 授業への参加姿勢 30% 《I》</p> <p>(谷) <input checked="" type="checkbox"/> 受講態度 (10%) 《I》 <input checked="" type="checkbox"/> 小レポート (20%) 《I, II, IV》 <input checked="" type="checkbox"/> 期末試験 (70%) 《I, II》</p> <p>※評価点数は『社会福祉』の評価点 (100点を満点) ×2/3 + 『医療法規』の評価点 (100点を満点) ×1/3 で算出し、60点以上を合格とする。この評価点とは、試験、レポート、出席を含む平常評価すべてを総合した最終的な評価点であって、筆記試験の点数を指しているわけではない。</p>		
授業計画	授業内容	授業形態	担当者
<p>I 内は授業時に関係するモデル・コア・カリキュラムの番号を記載</p>	第1回 (医法1) 法学オリエンテーション ①法とは何か？法と倫理 ②自然法論と法実証主義 ③パターナリズムと自己決定権	講義	谷
	第2回 (福祉1) オリエンテーション	講義	倉持
	第3回 (福祉2) 社会福祉の価値と理念	講義	倉持
	第4回 (医法2) 医事法制医療法・医療職の資格法 ①医療法の目的・理念と医療施設 ②医療職の資格要件と業務規程	講義	谷
	第5回 (福祉3) 社会福祉に関する制度 — 社会保障・社会福祉の体系 —	講義	倉持

	社会福祉の実践 －障がい児・者福祉－		
第6回	(福祉4) 社会福祉支援(ソーシャルワークの視点)	講義	倉持
第7回	(医法3) 医療従事者の法的責任 ①医療契約 ②医療過誤 ③法的責任 *刑事上の責任 *民事上の責任 *行政上の責任	講義	谷
第8回	(福祉5) 社会福祉の実践 －子ども家庭福祉①子どもの貧困－	講義	倉持
第9回	(福祉6) 社会福祉の実践 －子ども家庭福祉②児童虐待－	講義	倉持
第10回	(福祉7) 社会福祉の実践 －婦人保護事業・DV－	講義	倉持
第11回	(医法4) 医療倫理 ①法と医療倫理 ②出産前診断・人工妊娠中絶 ③移植医療	講義	谷
第12回	(福祉8) 医療現場における社会福祉の実践 －MSW・PSW等－	講義	倉持
第13回	(福祉9) 医療現場における社会保障	講義	倉持
第14回	(福祉10) 医療現場における社会保障	講義	倉持
第15回	(医法5) 薬機法・感染症法と薬害訴訟 ①薬機法の目的と概要 ②感染症法の目的と概要 ③薬害・薬禍問題 (B型肝炎)	講義	谷
授業外学修 (事前学修・事後学修)			
テキスト	(倉持) 特に指定しない。プリント・資料などを配布する。 (谷) 「姫嶋瑞穂『医事法学入門 (第2版)』」成文堂、2021年		
参考書	(倉持) 授業中に適宜紹介する。 (谷) 必要に応じて適宜指示する。		
学生へのメッセージ等	(倉持) 社会福祉は生活を支える制度であり実践です。皆さんが向き合っていく人達はたとえ同じような病気や症状をみせていても、それぞれに異なる生活歴や環境の中で生きている「固有の存在」です。そのような人間観を持つことが、現代社会において医療・保健・福祉が協働していく意義を理解いただけると思います。 (谷) 法律というと、難解で自分とは縁遠いもの、と思われがちですが、小説やドラマで頻繁に取り上げられているように、実は、私たちの生活、とりわけ、医師・看護師の業務とは密接に関連しています。法を守ることは、第一に患者さんを守ることであり、同時に自分自身や自分の同僚を守ること。興味関心を持って受講されることを望みます。		

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	教養教育	2	選択
担当教員			
竹村 和也			
添付ファイル			

全担当教員	竹村 和也		
概要	まず、憲法を頂点とする法体系・統治のしくみについて、また市民生活を送るために必要な基礎知識を習得することを目的として講義を行う。その上で、私人間の紛争を解決するための一般法である民法、及び医師の権利義務や医療紛争に関する医事法について説明する。		
目標	<p>I 倫理観とプロフェッショナリズム 法的に適切な行動を示すことができる。</p> <p>II 医学とそれに関する領域の知識 わが国の法のしくみ、及び市民生活を送るために必要な基礎知識を説明することができる。</p> <p>III 医療の実践 医療の実践にあたり、法的に適切な判断を下すことができる。</p> <p>IV チームマネジメントとコミュニケーション技能 医師の看護師、もしくは上位の医師と下位の医師間に発生する契約の履行補助者責任ならびに監督者責任に関連して、適切に行動することができる。</p> <p>V 医学、医療、保健、社会への貢献 医師にかかわる法的紛争を未然に防止することができる。</p> <p>VI 国際的視野と科学的探究 —</p>		
評価方法	<p>■定期試験（80％）《I、II、III》</p> <p>■授業への積極的な参加やレポート（20％）《III、IV、V》</p> <p>《》内は評価するアウトカムのコンピテン番号を記載</p>		
授業計画	授業内容	授業形態	担当者
【I】内は授業時に関係するモデル・コア・カリキュラムの番号を記載	第1回 イントロダクション：法律・憲法・立憲主義	講義	竹村
	第2回 統治の仕組み、特に裁判所について	講義	竹村
	第3回 捜査・裁判と法①（憲法31条と捜査・裁判のプロセス）	講義	竹村
	第4回 捜査・裁判と法②（捜査・裁判と身体的自由権）	講義	竹村
	第5回 民法と財産権①（物権）	講義	竹村
	第6回 民法と財産権②（債権と契約・医療契約）	講義	竹村
	第7回 民法と財産権③（債権と不法行為・医療過誤）	講義	竹村
	第8回 民法と家族法①（親族法）	講義	竹村
	第9回 民法と家族法②（相続法）	講義	竹村
	第10回 契約・不法行為と過失責任（医療水準）	講義	竹村

	第11回 契約・不法行為と過失責任（チーム医療と信頼の原則）	講義	竹村
	第12回 契約・不法行為と過失責任（自己決定権とインフォームド・コンセント）	講義	竹村
	第13回 契約・不法行為と過失責任（個人情報の保護と第三者への開示）	講義	竹村
	第14回 因果関係と過失責任	講義	竹村
	第15回 まとめ	講義	竹村
授業外学修（事前学修・事後学修）			
テキスト	パワーポイントのスライドを印刷したものを配布します。また、授業内容の一部についてテキストを配布しません。		
参考書	<p>手嶋豊『医事法入門(第6版)』有斐閣, 2022 甲斐克則・手嶋豊編『医事法判例百選（別冊ジュリスト）』（第3版）有斐閣, 2022 磯義一郎・大滝恭弘・荒神裕之『医療法学入門』（第3版）医学書院, 2021 米村滋人『医事法講義(法セミLAWCLASシリーズ)』日本評論社, 2016 久々湊晴夫・旗手俊彦編『はじめての医事法』（第2版）成文堂, 2011 甲斐克則編『ブリッジブック 医事法』信山社, 2008</p> <p>他に入手・購読が容易な一般的な法学に関する新書として、 青井未帆『憲法を守るのは誰か』幻冬舎, 2013 渋谷茂樹『憲法への招待((新版)』岩波書店, 2014 青井未帆『憲法と政治』岩波書店, 2016 後藤昭『わたしたちと裁判』岩波書店, 2006 森炎『裁判所ってどんなところ?』筑摩書房, 2016 木村草太『キヨミズ准教授の法学入門』星海社, 2012 今村核『冤罪と裁判』講談社, 2012 鎌野邦樹『不動産の法律知識 第2版』日本経済新聞社, 2017 池田真朗『民法はおもしろい』講談社, 2013 二宮周平『家族と法』岩波書店, 2007</p>		
学生へのメッセージ等	社会の動きについて日常的な関心を持つことが必要です。具体的には新聞を通読することは、大学生として当然に行うべき事柄です。		

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	教養教育	2	選択
担当教員			
森 英一郎			
添付ファイル			

全担当教員	森 英一郎 (准教授)		
概要	医学研究の魅力を体験し理解することを目的とする。		
目標	<p>I 倫理観とプロフェッショナリズム 生命科学者としてふさわしい行動を理解し説明することができる。</p> <p>II 医学とそれに関する領域の知識 医学研究を進めるために必要な文献検索ができ、研究論文の形式を説明できる。</p> <p>III 医療の実践 医学的問いに対して適切な研究計画を立案することができる。</p> <p>IV チームマネジメントとコミュニケーション技能 医学研究成果に関して社会とのコミュニケーションをとるための技能を説明できる。</p> <p>V 医学、医療、保健、社会への貢献 医学研究を通じた社会への貢献について説明することができる。</p> <p>VI 国際的視野と科学的探究 国際的な医療や医学研究に関する情報にアクセスし、様々な医学的課題の解決を目指した研究計画を立案することができる。</p>		
評価方法	<p>■ 受講態度 (10%) 《I》</p> <p>■ レポート (20%) 《I, II, III, IV, V, VI》</p> <p>■ 定期試験 (70%) 《I, II, III, IV, V, VI》</p> <p>《》内は評価するアウトカムのコンピテン্স番号を記載</p>		
授業計画	授業内容	授業形態	担当者
【I】内は授業時に関係するモデル・コア・カリキュラムの番号を記載	第1回 オリエンテーション	講義	森
	第2回 医学研究入門講義 (1)	講義	森
	第3回 医学研究入門講義 (2)	講義	森
	第4回 医学研究入門講義 (3)	講義	森
	第5回 医学研究入門講義 (4)	講義	森
	第6回 医学研究入門講義 (5)	講義	森
	第7回 医学研究入門講義 (6)	講義	森
	第8回 医学研究入門講義 (7)	講義	森
	第9回 医学研究入門講義 (8)	講義	森
	第10回 医学研究入門講義 (9)	講義	森

	第11回 医学研究入門講義 (10)	講義	森
	第12回 医学研究入門講義 (11)	講義	森
	第13回 医学研究入門講義 (12)	講義	森
	第14回 医学研究入門講義 (13)	講義	森
	第15回 まとめ	講義	森
授業外学修 (事前学修・事後学修)	普段から関心のある内容について文献検索する習慣を身に付ける。		
テキスト	講義スライド、配布資料。		
参考書	相分離生物学 (白木賢太郎 著) 相分離生物学の全貌 (白木賢太郎 編)		
学生へのメッセージ等	学内外の研究者の先生方の経験談を聞きながら、実際の研究がどのようなものか、感じて下さい。 注) 「医学研究入門」を修得していることが、2年次後期「リサーチ・クラークシップ」の海外派遣の要件である。		

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	教養教育	-	必修
担当教員			
教養教育部長			
添付ファイル			

全担当教員	教養教育部長／看護教育部長／若月 幸平（教育開発センター教育教授）／外部講師		
概要	<p>1 実施期間 令和6年1月29日（月）～2月2日（金）</p> <p>2 実施概要 奈良県の文化、歴史、自然などを通じて「奈良」についての理解を深めるとともに、県内の医療機関を訪問して県の医療状況を知り、奈良の医療に貢献する意思を涵養する。</p>		
目標	<p>I 倫理観とプロフェッショナリズム 奈良県の医療に貢献する医学生として相応しい行動を認識できる。</p> <p>II 医学とそれに関する領域の知識 □奈良の文化・歴史について学び、自然学習を通して奈良県の特徴や地域性を理解する。 □奈良県の地域医療の現状と課題を理解することができる。</p> <p>III 医療の実践 —</p> <p>IV チームマネジメントとコミュニケーション技能 □奈良県の医療の現状と将来について議論し、課題を見つけその解決策を提案することができる。 □多職種連携の重要性について理解することができる。</p> <p>V 医学、医療、保健、社会への貢献 □県内医療機関への訪問や医療体験実習等を通じて、奈良県の医療への関心を深めることができる。 □奈良県の地域性や医療状況等を理解することができる。</p> <p>VI 国際的視野と科学的探究 —</p>		
評価方法	■ミニツペーパーの提出を含む受講態度（100%）《I, II, IV, V》		
《》内は評価するアウトカムのコンピテンス番号を記載			
授業計画	授業内容	授業形態	担当者
【】内は授業時に関係するモデル・コア・カリキュラムの番号を記載	第1回 奈良学について	講義	教養教育部長
	第2回 今井町の歴史	講義	ゲストスピーカー
	第3回 奈良の歴史と文化	講義	ゲストスピーカー
	第4回 奈良県の地理・気候・自然災害について	講義	ゲストスピーカー
	第5回 奈良の文化・歴史・自然学習	演習	—
	第6回 病院見学（医療体験）	演習	—
	第7回 本学の過去・現在・未来について	講義	学長
	第8回 奈良県の医療について	講義	奈良県医療政策局長
	第9回 奈良県の医療に関する発表会	演習	教養教育部長 看護教育部長 若月 幸平（教育

	第10回 奈良県の医療に関するシンポジウム	演習	開発センター教育 教授) 教養教育部長 看護教育部長 若月 幸平 (教育 開発センター教育 教授)
授業外学修 (事前 学修・事後学修)			
テキスト	なし		
参考書	なし		
学生へのメッセー ジ等	みなさんは将来、奈良県の医療に貢献するものと期待されています。 本講義の受講を機に、奈良県の文化・歴史・自然、そして保健・医療・福祉の現状と課題に興味をもち、主体的に学習し続けることを願っています。		

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	教養教育	-	必修
担当教員			
看護教育部長			
添付ファイル			

全担当教員	看護教育部長／教養教育部長／若月 幸平（教育開発センター教育教授）／石井 均（医師・患者関係学）／外部講師		
概要	<p>1 実施期間 令和5年9月4日（月）～8日（金）</p> <p>2 実施内容</p> <p>(1) 知的生産技術 チーム医療を担う医療人として求められる「能動的な情報収集力」、「他者と協力して学び合う力」、「論理的思考力」及び「批判的思考力（クリティカル・シンキング）」について、演習を通じて体験的にその重要性や必要性について気づき、自ら修得する態度の育成を目指す。 また、レポート・論文の作成方法やプレゼンテーションなどの技法についての修得を目指す。 さらに、レポートや論文における盗用・剽窃が不正行為であることを学ぶ。</p> <p>(2) コミュニケーション 多様性が増す昨今において、医療人として、他者と協働関係を結ぶ中で必要なコミュニケーション力とは何かを考え、それらを身につけるための理論と実践方法を学ぶことが必要である。 また、自分と他者の違いを理解するための「ソーシャルスタイル理論」や、人間関係を構築する上でのステップなどを学び、それぞれが今後のコミュニケーションレベルアップに必要な課題を自覚し、日常の中で恒常的にトレーニングできる状態を目指す。 さらに、障がいを持つ患者の話聞いて、医療者と患者コミュニケーションの基本的な姿勢、視点を身につける。</p> <p>(3) 人権教育 男性も女性も自分らしく力を発揮し、一人一人の幸せを実現できる社会である男女共同参画について学ぶ。 障がい者や性同一性障害者、性的マイノリティに対する社会の障壁について考えるとともに、偏見や差別、人権侵害をなくし、共に生きる社会を実現していこうとする態度を身に付ける。</p>		
目標	<p>I 倫理観とプロフェッショナルリズム</p> <ul style="list-style-type: none"> □協同学習の考え方を理解し、他者と学び合う際に注意すべき点について、認識できる。 □情報リテラシーを理解し、情報を適切に収集及び活用する力を修得できる。 □他の人の立場に立ってその人に必要なことやその人の考え、気持ちなどを理解できる。 <p>II 医学とそれに関する領域の知識 理論に基づき医療現場で求められるコミュニケーション力や思考力を修得できる。</p> <p>III 医療の実践 —</p> <p>IV チームマネジメントとコミュニケーション技能</p> <ul style="list-style-type: none"> □コミュニケーションの仕組みについて説明できる。 □自分と他者の違い、苦手なタイプを理解し、相手に合わせたコミュニケーションの取り方が実践できる。 □患者の話から、患者の気持ちや想いを汲み取ることができる。 <p>V 医学、医療、保健、社会への貢献 男女共同参画や共生社会等の現状や取り組み内容を認識できる。</p> <p>VI 国際的視野と科学的探究 開発途上国のジェンダー格差の現状について認識できる。</p>		
評価方法	■ ミニツッペーパーの提出を含む受講態度（100%）《I, II, IV, V, VI》		
《》内は評価するアウトカムのコンピテン番号を記載			
授業計画	授業内容	授業形態	担当者
【】内は授業時に関係するモデル・コア・カリキュラムの番号を記載	第1, 2回 クリティカル・シンキング	講義	外部講師
	第3, 4回 レポートについて ・レポート・論文の書き方 ・プレゼンテーションの技法 ・レポートにおける盗用・剽窃	講義	外部講師
	第5, 6回 ソーシャルスタイル -理論に基づくコミュニケーション-	講義・演習	外部講師

	第7, 8, 9回 理論に基づいて医療で使えるコミュニケーション	講義・演習	外部講師
	第10回 臨床コミュニケーション：会話分析の知見から	講義・演習	外部講師
	第11回 医療者・患者関係学	講義・演習	石井教授（医師・患者関係学）
	第12回 男女共同参画について	講義	外部講師
	第13回 開発途上国のジェンダー・人権について	講義	外部講師
	第14回 人権教育について A班：LGBTQ+、B班：共生社会	講義	外部講師
	第15回 次世代医療人育成論に関するグループワーク及び発表会	演習	看護教育部長 教養教育部長 若月 幸平（教育開発センター教育教授）
授業外学修（事前学修・事後学修）			
テキスト	なし		
参考書	なし		
学生へのメッセージ等	この科目は、後期に開講する「奈良学」と同様に本学独自の科目として医学看護学合同で開講します。医療人としての基礎能力を修得できるよう多彩なゲストスピーカーを招き、グループワークも取り入れて構成していますので感性や価値観への刺激を体験することになると思います。積極的に参加しましょう。		

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	教養教育	2	必修
担当教員			
若月 幸平 (教育開発センター教育教授)			
添付ファイル			

全担当教員	若月 幸平 (教育開発センター教育教授) / 城戸 楓 / 岡本 左和子
概要	<p>[城戸] ヒトの行動と心理を理解するための基礎的な知識と考え方を学ぶ。</p> <p>[岡本] 医療におけるコミュニケーションの基本メカニズムと理論を修得する。</p>
目標	<p>I 倫理観とプロフェッショナリズム</p> <p>[城戸] トロッコ問題や臓器くじ問題などの思考実験などを通して、生命の価値について自身の考え方や哲学を確立することができる。</p> <p>[岡本] <input type="checkbox"/> 人間の尊厳を尊重し、患者に対して利他的、共感的、誠実に対応し、患者中心の立場に立つことができる。 <input type="checkbox"/> 自己の目標を設定し、生涯にわたり向上を図るために学習し、研鑽することの重要性を理解する。</p> <p>II 医学とそれに関する領域の知識</p> <p>[城戸] 行動する主体としての人間のメカニズムについて、認知科学的な観点から説明をすることができる。</p> <p>[岡本] <input type="checkbox"/> 社会と医学・医療との関係について説明できる。 <input type="checkbox"/> 医療安全の重要性について理解することができる。</p> <p>III 医療の実践</p> <p>[城戸] -</p> <p>[岡本] 患者の主要な病歴を正確に聴取することの重要性を理解できる。</p> <p>IV チームマネジメントとコミュニケーション技能</p> <p>[城戸] 交流分析やパーソナリティの観点から、他者を理解し、他者と交流することの意義について考えることができる。</p> <p>[岡本] <input type="checkbox"/> 患者、患者家族、医療チームのメンバーと、個人、文化、社会的背景を踏まえて傾聴、共感、理解、支持的態度を示すコミュニケーションを取ることができる。 <input type="checkbox"/> 患者、患者家族、医療チームのメンバーとの信頼関係を築き、情報交換、インフォームドコンセント、教育などの医療の基本を実践する準備ができる。</p> <p>V 医学、医療、保健、社会への貢献</p> <p>[城戸] 社会構造を生きる作用体としての人間の心理メカニズムを理解することができる。</p> <p>[岡本] 医師になる者として、地域医療に関わることの必要性を理解できる。</p> <p>VI 国際的視野と科学的探究</p> <p>[城戸] 客観的で再現性のある科学的研究方法について説明・実践することができる。</p> <p>[岡本] 国際的視野で医療を考える重要性が理解できる。</p>
評価方法	<p>[城戸] ■ 授業態度 (30%) 《I, II, IV, V, VI》 ■ レポート (40%) 《II, V, VI》 ■ グループワークへの参加 (30%) 《I, IV》</p> <p>[岡本] ■ 授業態度 (20%) 《I》 ■ グループワークへの参加 (20%) 《I, IV》 ■ 授業内でのミニツッペーパー (60%) 《II, III, IV, V, VI》</p> <p>※評価点数は、「城戸先生の評価点」×2/3+「岡本先生の評価点」×1/3で算出し、60点以上で合格とする。 この評価点とは、試験、レポート、平常評価をすべて総合した最終的な評価点であって、筆記試験の点数</p>

を示しているわけではない。		授業形態	担当者
授業計画 【】内は授業時に関係するモデル・コア・カリキュラムの番号を記載	授業内容 第1回 心理学の考え方と主な研究法 【C-5-8)①②】	講義	城戸 楓
	第2回 感覚と知覚の過程 1～条件づけ・学習 【C-5-2)①②③】	講義	城戸 楓
	第3回 感覚と知覚の仮定 2～知覚 【C-5-1)②】	講義	城戸 楓
	第4回 認知機能～記憶・注意・認知 【C-5-1)①③】	講義	城戸 楓
	第5回 パーソナリティ理論と交流分析 【C-5-6)①②③④⑤, C-5-7)⑤⑥】	講義	城戸 楓
	第6回 動機付け 【C-5-3)①②③④】	講義	城戸 楓
	第7回 社会規範と生命倫理 【C-5-7)①②③】	講義	城戸 楓
	第8回 発達心理学 【C-5-5)①②③, C-5-6)③】	講義	城戸 楓
	第9回 社会と人間関係 【C-5-7)④⑦⑧】	講義	城戸 楓
	第10回 ストレス理論 【C-5-4)①②③④】	講義	城戸 楓
	第11回 医療コミュニケーションの定義と基本メカニズム 【A-4-1), A-4-2), C-5-7), C-5-8)】	講義	岡本左和子
	第12回 コミュニケーションを歪める要因(ノイズ)/コミュニケーションの障壁 【C-5-2)②, C-5-7)①②③⑤⑥⑦⑧】	講義	岡本左和子
	第13回 Common Groundの構築 【C-5-7)①②③⑤⑥, C-5-8)①②③】	講義	岡本左和子
	第14回 国際的に心理社会的要因・医療で教育され、現場でよく使う理論モデルと事例検討 【A-1-1), A-1-2), A-1-3), A-2-1), A-2-2)】	講義	岡本左和子
	第15回 医学データと患者の語り・思いをつなぐコミュニケーションを考える (学内外講師の場合あり) 【A-1-1), A-1-3), A-2-1), A-2-2), A-3-1)】	講義	岡本左和子
授業外学修 (事前学修・事後学修)			
テキスト	[城戸] 授業中に指示する [岡本] 授業中に配布する p p t (教務システム登録資料)		
参考書	[城戸] 授業中に指示する [岡本] Patient-Centered Medicine. M. Stewart, J. B. Brown, et al. CRC Press シェアード・ディジションメイキング (中山健夫著、日本医事新報社) 行動医学テキスト (日本行動医学学会編集、中外医学社) 実践行動医学—実地医療のための基本的スキル (林野泰明監訳、メディカルサイエンス・インターナショナル出版) The Biopsychosocial Approach: Past, Present, Future. R. M. Frankel, T. E. Quill, & s. M. McDaniel, University Rochester Press.		
学生へのメッセージ等	[城戸] 人間は社会の中で他者と相互作用しながら生きる存在です。AIなど、「人間とは何か」についての答えが曖昧になりつつある現代において、社会常識や規範などに縛られない、みなさんそれぞれの確固たる人間観を、人間というメカニズムや社会構造についての心理的な理解を通して確立できることを望みます。		

[岡本]

治療という使命と時間の制約がある医療環境において、どのように患者・家族、同僚とコミュニケーションを効率的にとるのかを学び、身に着けることは、医師として現場に出た時に、自分を守り、診断の確かさと治療の効率を上げ、患者・家族の満足を引き出す。自分が置かれた環境評価をして、適切なコミュニケーションがとれるための理論とメカニズムの基本をしっかりと理解する。行動医学的対話アプローチが接遇とは全く異なることを理解する。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期集中	教養教育	-	必修
担当教員			
若月幸平（教育開発センター）			
添付ファイル			
全担当教員			
若月幸平（教育開発センター）／教養教育部長／看護部担当者／薬剤部担当者			
概要	医療現場において患者および家族と身近に接し、患者側の気持ちを理解する。それとともに、医療に関わる様々な人々との交流を通して医師と共に働く職種およびその役割を理解し、医師に求められる態度・習慣の学習活動に役立てる。		
目標	<p>I 倫理観とプロフェッショナリズム 医師に求められる態度や習慣について理解できる。</p> <p>II 医学とそれに関する領域の知識 配属先の職種やその業務内容について理解できる。</p> <p>III 医療の実践 患者やその家族と身近に接し、患者側の気持ちを理解することができる。</p> <p>IV チームマネジメントとコミュニケーション技能 患者やその家族、指導者と適切なコミュニケーションが取れる。</p> <p>V 医学、医療、保健、社会への貢献 実習を通じて医療に関わる様々な人々の役割を理解するとともに、その人々の医療に対する思いを理解できる。</p> <p>VI 国際的視野と科学的探究 将来自分が医療に従事している姿をイメージできる。</p>		
評価方法	<p>■ 実習態度・技能（80％）《I, II, III, IV, V, VI》</p> <p>■ レポート（20％）《I, II, III, IV, V, VI》</p> <p>《》内は評価するアウトカムのコンピテン番号を記載</p>		
授業計画	<p>〈実施期間〉 2024年2月13日（火）～2月29日（木）※土日・祝日を除く</p> <p>〈方 法〉 (1) 附属病院内の各部署に配属する。 (2) エスコート業務、看護助手業務、病棟薬剤部業務を体験する。 (3) 修了後、レポートを提出すること。</p> <p>〈モデル・コア・カリキュラム対応番号〉 【A-1-2)-②③④、A-1-3)-②⑤、A-2-1)-①④⑤、A-2-2)-③、A-4-1)-①②③】 【A-4-2)-①②⑥⑦、A-5-1)-①②③、A-6-1)-①、A-9-1)-⑤】</p>		
授業外学修（事前学修・事後学修）			
テキスト	特になし		
参考書	特になし		
学生へのメッセージ等	配属及び詳細については別途周知する。		

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	
通年	教養教育	-	《必修（6年一貫）》	
担当教員				
嶋 緑倫（医学部長）				
添付ファイル				
全担当教員				
細井 裕司（学長）/嶋 緑倫（医学部長）/長榮 周作（パナソニック株式会社特別顧問・MBT特命教授）/森雅彦（DMG森精機株式会社・MBT特命教授）/矢野 博丈（ダイソー創業者・MBT特命教授）/中村 勝（クオールホールディングス株式会社取締役会長・MBT特命教授）/梅岡 比俊（医療法人社団梅華会理事長・MBT特命講師）/向川 康博（奈良先端科学技術大学院大学）/細川 陽一郎（奈良先端科学技術大学院大学）/基礎医学教員/臨床医学教員				
概要				
医師/医学者としてのキャリアアップのプロセスを理解し、病気のメカニズム、医学研究の面白さや治療技術の革新の一端を各領域の専門家によるオムニバス形式の講義で学ぶ。				
目標				
I 倫理観とプロフェッショナリズム 医師/医学者としてふさわしい行動を認識できる。				
II 医学とそれに関する領域の知識 医療に関係する幅広い領域を理解し、医師/医学者としてのキャリアアップに活用できる。				
III 医療の実践 医学や周辺領域の現状や進歩を認識できる。				
IV チームマネジメントとコミュニケーション技能 医師/医学者に求められるコミュニケーション技能の基礎知識を認識できる。				
V 医学、医療、保健、社会への貢献 医学や関連領域の診療や研究に貢献するための意識を醸成し基礎知識を習得できる。				
VI 国際的視野と科学的探究 グローバルマインドやリサーチマインドを有する医師/医学者としての素養を習得できる。				
評価方法				
■講義時に配布するミニッツペーパー（20%）《I, II, III, V》 ■課題レポート（80%）《II, III, IV, V, VI》				
《》内は評価するアウトカムのコンピテン番号を記載				
授業計画				
I 内は授業時に関係するモデル・コア・カリキュラムの番号を記載				
授業内容		授業形態	担当者	
第1回	2023年4月10日（月） 4限 奈良医大に入学したみなさんの将来は？－先輩医師の視点から－	講義	細井裕司（学長）	
第2～14回の講義日程については後日通知				
授業外学修（事前学修・事後学修）				
テキスト				
講義資料は、各講義ごとに教務システムに掲載				
参考書				
全領域にわたるため、附属図書館の指定図書を渉猟して欲しい。				
学生へのメッセージ等				
講義を手がかりに、積極的な自学自習を通じて、医学への興味・関心・意欲をさらに高めるとともに、これから学ぶはずの医学に関する予備知識を獲得してほしい。				

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	教養教育	-	《必修（6年一貫）》
担当教員			
嶋 緑倫（医学部長）			
添付ファイル			

全担当教員	嶋 緑倫（医学部長）／佐藤 嘉伸（奈良先端科学技術大学院大学）／大竹 義人（奈良先端科学技術大学院大学）／スーフィー マーゼン（奈良先端科学技術大学院大学）		
概要	データサイエンスや医療工学の進歩により、人工知能(AI: Artificial Intelligence)医療やロボット医療が急速に発展している。画像診断や病理診断の領域ではAIが導入され、また、ICT(Information and Communication Technology)の進歩により遠隔医療も進んでいる。さらに、ロボット工学の進歩によりダビンチ等の手術支援ロボットやHAL等のパワーアシストロボットが手術やリハビリ分野でも導入されている。今後、これらの進歩に対応し、さらに発展・開発できるよう、AIの基礎と活用方法を、医用画像を含む実際のデータをコンピュータで解析することにより実践的に学ぶ。		
目標	<p>I 倫理観とプロフェッショナリズム 臨床現場で得られる患者データの重要性和プライバシーの問題を理解し、倫理的問題を把握した上で、医療の質向上への貢献を目指して行動できる。</p> <p>II 医学とそれに関する領域の知識 医療データを活用した診断・治療や意思決定のための基礎となる統計数理手法を説明できる。</p> <p>III 医療の実践 医用画像等の実際の医療データを用いて、人体解剖学や医療の問題に関して、人工知能による認識や予測のプログラムを実装・実行することができる。</p> <p>IV チームマネジメントとコミュニケーション技能 医療における人工知能を中心としたIT技術やロボット技術等の意義をレポートなどで述べる事ができる。</p> <p>V 医学、医療、保健、社会への貢献 医師として、日常臨床で積み重ねた患者データが、研究上も重要で、社会に貢献することが理解できる。</p> <p>VI 国際的視野と科学的探究 国際的な視野において、医学と諸科学の融合研究の重要性を、特に、情報科学との融合において理解し、説明できる。</p>		
評価方法	<p>■受講態度（20%）《I》</p> <p>■演習課題のレポート（80%）《II, III, IV, V, VI》</p> <p>《》内は評価するアウトカムのコンピテン番号を記載</p>		
授業計画	授業内容	授業形態	担当者
【I】内は授業時に関係するモデル・コア・カリキュラムの番号を記載	第1回目 2023年10月2日（月） 工学（デジタル）技術、AI技術の医療応用、医用画像処理/可視化技術の概要	講義	佐藤 嘉伸
	第2回 2023年10月16日（月） CT・MRI再構成・医用画像データベースを使った統計学習・AI技術の基礎	講義	大竹 義人
	第3回 2023年10月30日（月） Pythonを使ったプログラミング入門と医用画像処理演習	演習	大竹 義人／ スーフィー マーゼン
	第4回 2023年11月6日（月） Pythonを使ったAI(深層学習)による画像認識演習	演習	大竹 義人／ スーフィー マーゼン
授業外学修（事前学修・事後学修）			
テキスト	教員の作成した講義資料に加えて、日本医用画像工学会の深層学習ハンズオンセミナーで使用された解説書、および、データを用いて、講義および演習を行う。講義の最初に（あるいは、事前に）、ダウンロードURLを提示する。		
参考書	<p>医療AIとディープラーニングシリーズ 2020-2021年版 標準 医用画像のためのディープラーニング入門編— 著者：藤田 広志 シリーズ監修、福岡 大輔 編、定価：3,520円（本体3,200円＋税）、オーム社 ISBN：978-4-274-22545-1</p> <p>医療AIとディープラーニングシリーズ 2021-2022年版 標準 医用画像のためのディープラーニング—実践編— 著者：藤田 広志 シリーズ監修、原 武史 編、定価：3,960円（本体3,600円＋税）、オーム社 ISBN：978-4-274-22639-7</p> <p>その他、授業中にも紹介する。</p>		

学生へのメッセージ等	AIの活用は、今後、医学研究、良い医療の提供のために、ますます重要になってきますので、ぜひとも積極的に取り組んでください。コンピュータが苦手な人にも、できるだけわかりやすい講義にしたいと思っています。
------------	--

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	教養教育	-	《必修（6年一貫）》
担当教員			
若月幸平（教育開発センター）			
添付ファイル			
全担当教員			
若月幸平（教育開発センター）、各手技担当教員			
概要	スキルスラボの各種シミュレータを用いて、BLS、縫合、血圧測定、標準予防策の臨床手技と関連する医学知識を身につける。		
目標	<p>I 倫理観とプロフェッショナリズム 臨床現場での基本的態度・習慣、患者へのマナーを理解し実践することができる。</p> <p>II 医学とそれに関する領域の知識 実習で習う手技に関する基本的知識を理解し説明できる。</p> <p>III 医療の実践 実習で習う手技に関する基本的技能を理解し実践できる。</p> <p>IV チームマネジメントとコミュニケーション技能 指導教員および他の学生と適切なコミュニケーションをとることができる。</p> <p>V 医学、医療、保健、社会への貢献 臨床手技実習に参加する学生に必要なとされる知識・技能・態度を身につけることができる。</p> <p>VI 国際的視野と科学的探究 —</p>		
評価方法	<p>■ 実習態度、技能（100%）《I, II, III, IV, V》</p> <p>《》内は評価するアウトカムのコンピテンス番号を記載</p>		
授業計画	<p>【I内は授業時に関係するモデル・コア・カリキュラムの番号を記載】</p> <p>[実習内容] 4～5名を1グループとし、グループごとに下記①～④についての実習を行う。 ①BLS ②縫合 ③血圧測定 ④標準予防策</p> <p>[実習期間] 令和5年11月13日（月）～令和6年1月15日（月）14：40～16：30 ※実施内容の詳細については別途通知</p> <p>[実習担当] ①臨床研修センター ②形成外科 ③臨床研修センター ④感染症センター</p> <p>[モデル・コア・カリキュラム対応番号] 【A-2-1)-①③④⑤、A-2-2)-③、A-4-1)-②、A-9-1)-①②⑤、A-6-3)-②、G-4-4)】</p>		
授業外学修（事前学修・事後学修）	事前に配布するテキスト「医学生のための基本的臨床手技」で予習する。		
テキスト	事前に配布するテキスト「医学生のための基本的臨床手技」を用いる。		
参考書	なし		
学生へのメッセージ等	本手技実習の目的は、医学部の教養の時期に、臨床の現場で使う医療手技を学ぶことにより、将来医師としての自覚と目標を持ってもらうことです。臨床の第一線で活躍しているエキスパートの医師や、研修医の先生から、直接臨床の手技を学ぶことにより、教養や基礎医学との関連性と重要性を、よりいっそう再確認できるものと考えます。		

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
集中	1～6年	-	選択（緊急医師確保枠学生、研究医養成コースの学生は必修）
担当教員			
若月 幸平			
添付ファイル			

全担当教員	若月幸平（教育開発センター）、コンソーシアム実習担当教員（早稲田大学、奈良県立医科大学）
概要	「医工学と医学」、「地域医療学概論」についての理解を深める。
目標	<p>I 倫理観とプロフェッショナリズム</p> <p><input type="checkbox"/>医学生としてふさわしい行動を示すことができる。</p> <p><input type="checkbox"/>医学、医療の発展に貢献する使命感と責任感を持つことができる。</p> <p>II 医学とそれに関する領域の知識</p> <p>地域医療や医工学の知識を理解することができる。</p> <p>III 医療の実践</p> <p>コンソーシアム実習で得た知識を医療の実践に活用することができる。</p> <p>IV チームマネジメントとコミュニケーション技能</p> <p>他学の学生や教員と適切なコミュニケーションをとり、積極的にグループワークに参加することができる。</p> <p>V 医学、医療、保健、社会への貢献</p> <p><input type="checkbox"/>医学・医療の研究と開発が社会に貢献することを理解できる。</p> <p><input type="checkbox"/>地域医療に関わることの必要性を理解できる。</p> <p>VI 国際的視野と科学的探究</p> <p><input type="checkbox"/>実習で経験した内容をさらに深く学ぶための自己学習ができる。</p>
評価方法	<p>■受講態度（60%）《I、II、III、IV、V、VI》</p> <p>■レポート（40%）《I、II、III、IV、V、VI》</p>
《》内は評価するアウトカムのコンピテンス番号を記載	
授業計画	<p>1) 対象：医学科1～6年次 自由選択科目 開講される科目、日時などの詳細は別途周知する。</p> <p>2) 実習内容 夏季休業中に早稲田大学（東京）あるいは本学で開講される特別講義（月曜日～金曜日、合計30時間の集中講義、ワークショップ）を履修する。講義は、早稲田大学と本学の両方の教員が分担する。 ※令和5年度は本学で「地域医療学概論」開講予定。</p>
I内は授業時に関係するモデル・コア・カリキュラムの番号を記載	
授業外学修（事前学修・事後学修）	
テキスト	特になし。授業中に資料を配布します。
参考書	特になし。
学生へのメッセージ等	他大学の学生と触れ合う貴重な機会です。奮ってご参加ください。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
集中	1～4年	-	必修（緊急医師確保枠の学生）
担当教員			
若月 幸平			
添付ファイル			

全担当教員	若月幸平（教育開発センター）、地域基盤型医療教育協力施設担当者		
概要	<p>1)対象 医学科1～4年次の緊急医師確保入学試験枠学生全員とする。 申込み方法：受験者は教育開発センターまたは県費奨学生配置センターへ申込をする。 ※ 詳細は別途通知する。</p> <p>2)実習内容 (メンター実習) 休暇中の月曜日～金曜日までの5日間、1日6時間、合計30時間 奈良県立医科大学教育協力施設等の医療施設で実習を行う。 原則として、1施設につき、学生1名とする。 (研修会等) 教育開発センター、地域医療学講座、県費奨学生配置センターが 緊急医師確保入学試験枠学生のために企画する会議、研修会等に参加する。</p>		
目標	<p>I 倫理観とプロフェッショナリズム 私たちのプロフェッショナル宣言を遵守し、医学生としてふさわしい行動を示すことができる。</p> <p>II 医学とそれに関する領域の知識 <input type="checkbox"/> 高血圧や糖尿病といったCommon diseaseの基本知識を説明することができる。 <input type="checkbox"/> 社会保障制度、公衆衛生、地域保険、産業保険、健康危機管理を理解し、説明することができる。</p> <p>III 医療の実践 実習において各医療現場の役割を理解し、説明することができる。</p> <p>IV チームマネジメントとコミュニケーション技能 <input type="checkbox"/> 実習を通して他職種の役割を理解し、お互いに良好な関係を築きながら協働することができる。 <input type="checkbox"/> 患者さんおよび家族と良好な人間関係を築くことができる。</p> <p>V 医学、医療、保健、社会への貢献 <input type="checkbox"/> 社会保障制度、公衆衛生、地域保険、産業保険、健康危機管理を理解する。 <input type="checkbox"/> 地域医療の担い手となるための心構えを身につける。</p> <p>VI 国際的視野と科学的探究 経験した症例に対してリサーチマインドを持ってより理解を深めることができる。</p>		
評価方法	<p>■レポート(80%) 《Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ、Ⅴ、Ⅵ》</p> <p>■受講態度《20%》《Ⅰ》</p> <p>《》内は評価するアウトカムのコンピテンス番号を記載</p>		
授業計画	授業内容	授業形態	担当者
【I】内は授業時に関するモデル・コア・カリキュラムの番号を記載	メンター実習 1日目	実習	担当医
	メンター実習 2日目	実習	担当医
	メンター実習 3日目	実習	担当医
	メンター実習 4日目	実習	担当医
	メンター実習 5日目	実習	担当医
	面談（1年生対象）	実習	担当医
	面談 教育開発センター、地域医療学講座、県費奨学生配置センター	実習	担当医

	メンター実習報告会1（秋）	実習	担当医
	メンター実習報告会2（春）	実習	担当医
	面談（各学年 進級判定会議前） 教育開発センター	実習	担当医
	会議、研修等	実習	担当医
授業外学修（事前学修・事後学修）			
テキスト	特になし		
参考書	特になし		
学生へのメッセージ等	実習の日程調整については、教育開発センターと県費奨学生配置センターが対応しています。		

地域基盤型医療教育コース

コース責任者：教育開発センター 教育教授

1. 授業の概要

2. 授業のねらい

奈良県立医科大学は、高度先進医療を担う専門医を養成するとともに奈良県の地域医療を担う人材を養成する責務を負っている。学生諸君は一般教育で教養を涵養し、基礎医学を学んでリサーチマインドを身に付け、そして医師としての自覚とともに1000を超える疾患の病態生理、診断、治療について学ぶことが求められている。

しかし、大学附属病院は3次医療機関として高度先進医療を行なうことが責務であるため、来院する患者は特殊なあるいは稀な疾患であることが多く、また、治療のための在院期間が非常に短いのが通例である。つまり、特殊な疾患に求められる高度で核心的な治療を短期間に集中して行っている。いわゆるCommon diseaseや特定の疾患の治療を時間軸全体（初診から治療完結まで）で学ぶこと、そして、患者医療を支える社会的資源（福祉、介護など）を学ぶためにはキャンパス内での学習では不十分である。この地域基盤型医療教育コースはキャンパス内では学ぶことが難しいこれらの学習課題を学ぶために企画されている。このカリキュラムを通じて学生諸君が、地域住民の健康管理および医療の実態を知るとともに、プライマリケアの在り方、全人的医療の重要性を学び、同時に住民との触れ合いを通じて人間性を涵養することを願っている。

3. 授業計画

1) 正規プログラム

医学・医療入門講義（1年次）、早期医療体験実習（1年次）は準備教育として学内で実施する。

地域医療実習1（3年次）および地域医療実習2（臨床医学Ⅲ）は地域診療所、地域基幹病院など学外施設を利用して行われる。

キャリアパス・メンター実習は卒後のキャリア形成支援の一環として学内で実施する。

2) 休暇中特別プログラム

緊急医師確保枠学生地域医療特別実習1（1～4年次）、緊急医師確保枠学生地域医療特別実習2（5～6年次）のうち、地域診療所等で実習する「メンター実習」は夏季・冬季・春季のいずれかの休暇中等に実施する緊急医師確保枠学生のためのプログラムである。

コンソーシアム実習は夏季休業中に早稲田大学と連携して隔年で「地域医療学概論」として本学で開講されるプログラムであり、緊急医師確保枠学生は原則1年次～4年次までの間に1回、その他の1年次～6年次までのすべての学生は選択科目として受講できる。

詳しい授業内容については、シラバス「緊急医師確保枠学生地域医療特別実習Ⅰ、Ⅱ」を参照してください。

4. 評価方法

各学年毎に活動状況を総合的に評価する。

5. 推奨する教科書

特になし

6. 参考図書

特になし

7. 学生へのメッセージ等

実習の詳細については、事前に説明会を開催して説明します。緊急医師確保枠学生地域医療特別実習1（1～4年次）、緊急医師確保枠学生地域医療特別実習2（5～6年次）の日程調整については教育開発センター実習コーディネーターが対応しています。

研究医養成コース

コース責任者：医学部長

コーディネーター：教育開発センター

1 授業の概要

1) 学部における実施の概要

研究医養成コースは、第2学年4月1日から開始される。

2) 大学院における実施の概要

卒業後2年以内に医師免許を取得し、奈良県立医科大学大学院医学研究科（博士課程、4年間）、関西医科大学大学院医学研究科（博士課程、4年間）または早稲田大学大学院（先進理工学研究科後期課程、3年間）のいずれかに進学し、博士の学位を取得する。奈良県立医科大学または関西医科大学では3年での取得を目指す。（医師免許取得後、直ちに臨床研修（2年間）に従事することは可能）

2 授業のねらい

基礎医学・社会医学の分野において、世界的に貢献する研究者となるための基礎を身に付ける。

3 授業計画

1) 正規プログラム

本コース学生は6年一貫教育の基本単位をもとに特別の単位を加えた学部課程と大学院課程から構成される「研究医養成プログラム」を履修する。

学部課程においては、2年次リサーチ・クラークシップを必修履修し、研究マインドを醸成する。

また、研究医メンター実習では、各自が将来専門にしたいと希望する基礎医学・社会医学系教室で指導を受ける。

2) 休暇中特別プログラム

夏季・冬季・春季の休暇中にも、「研究医特別メンター実習」を必修履修し（1～4年生対象）、基礎医学・社会医学系教室で5日間の実習を履修する。

なお、研究医養成コースの学生は、毎年1回は、研究発表会を学内で開催し、医学部長、指導担当教員、教育開発センター教員から評価を受けることが義務付けられる。

コンソーシアム実習は夏季休暇中に早稲田大学と連携して開講されるプログラムであり、本コースの学生は隔年で早稲田大学で開講されるコンソーシアム実習「先端医療工学と生命科学」を在学期間中に必修履修する。

3) 早稲田大学 Academic writing program

本コースでは、在学中に英語のライティングの基礎を学び、英語の論文や文書に対応できるようにする。このコースも研究医養成コースの学生について必修とする。

ホームページ参照

http://www.w-int.jp/gogaku/course/a_writing.html

4 評価方法

各学年毎に活動状況を総合的に評価する。

5 推奨する教科書

特になし

6 参考図書

特になし

7 学生へのメッセージ等

メンター実習の日程調整については教育開発センター実習コーディネーターが対応しています。

アウトカムに対する到達度目標レベル (マイルストーン)

	S Advanced 研修医レベル	A Applied 100% 卒業時到達レベル	B Basic 60%	C Basic 30%	0%
I 倫理観とプロフェッショナリズム	診療の場で修得した知識・技能・態度を実践できる	診療の場で修得した知識・技能・態度を示せる	基盤となる知識・技能・態度を示せる	基盤となる知識を修得している	修得の機会がない
II 医学とそれに関連する領域の知識	診療の場で修得した知識を問題解決に活用できる	診療の場で修得した知識を活用して議論し発表できる	基盤となる知識・技能・態度を示せる	基盤となる知識を修得している	修得の機会がない
III 医療の実践	診療の場で実践できる	模擬診療を実施できる	基盤となる知識・技能・態度を示せる	基盤となる知識を修得している	修得の機会がない
IV チームマネジメントとコミュニケーション技能	診療の場で修得した知識・技能・態度を実践できる	診療の場で修得した知識・技能・態度を示せる	基盤となる知識・技能・態度を示せる	基盤となる知識を修得している	修得の機会がない
V 医学、医療、保健、社会への貢献	診療の場で修得した知識を問題解決に活用できる	診療の場で修得した知識を活用して議論し発表できる	基盤となる知識・技能・態度を示せる	基盤となる知識を修得している	修得の機会がない
VI 国際的視野と科学的探究	立案した計画を実施・発表できる	課題を認識し、計画立案できる	基盤となる知識・技能・態度を示せる	基盤となる知識を修得している	修得の機会がない

I 倫理観とプロフェッショナリズム

患者、患者家族、医療チームメンバーを尊重し、責任をもって医療を実践するためのプロフェッショナリズム（態度、考え方、倫理感など）を有して行動することができる。そのために、医師としての自己を評価し、生涯にわたって向上を図ることの必要性と方法を理解している。

II 医学とそれに関連する領域の知識

基礎、臨床、社会医学等の知識を有し、それらを医療の実践の場で応用できる。医療の基盤となっている生命科学、人口、環境など関連領域の知識と原理を理解し、説明できる。

III 医療の実践

患者に対し思いやりと敬意を示し、患者個人を尊重した適切で効果的な医療と健康増進を実施できる。医学とそれに関連する領域の知識を統合して、急性あるいは慢性の頻度の高い健康問題の診断と治療を原則に従って計画できる。

IV チームマネジメントとコミュニケーション技能

他者を理解し、お互いの立場を尊重した人間関係を構築して医療を実践し、思いやりがある効果的なコミュニケーションができる。医学・医療における文書を適切に作成し、取り扱うことができる。責任ある情報交換と記録を行うことができる。

V 医学、医療、保健、社会への貢献

保険制度、医療機関、行政等の規則等に基づいた保健活動と医療の実践、研究、開発を通して社会に貢献できることを理解できている。

VI 国際的視野と科学的探究

国際的視野をもって、基礎、臨床、社会医学の意義を理解し、科学的情報の評価、批判的思考、新しい情報を生み出すための論理的思考に基づき計画の立案ができる。

奈良県立医科大学医学部医学科 卒業時アウトカム【教養教育】

I 倫理観とプロフェッショナリズム

患者、患者家族、医療チームメンバーを尊重し、責任をもって医療を実践するためのプロフェッショナリズム（態度、考え方、倫理感など）を有して行動することができる。そのために、医師としての自己を評価し、生涯にわたって向上を図るための必要性と方法を理解している。

Table with 40 columns (headers: <医師としての考え、態度>, 基礎物理学 I, 基礎物理学 II, 基礎物理学 III, 基礎物理学演習, 基礎物理学実験, 分析化学, 有機化学, 生体分子化学, 医用材料化学, 基礎化学実験, 生命科学概論, 分子生物学, 基礎生物学C, 基礎生物学D, 基礎生物学実験, 数学 I, 数学 II A, 数学 II B, 数学 I 演習A, 数学 I 演習B, 生物統計学, 医療情報学, スポーツ実践 I, スポーツ実践 II, 健康科学, English for Medical Purposes, 医療に關する倫理学 I, 医療に關する倫理学 II, 哲学, アジア文化論, 西洋文化論, 異文化論, 教育実践論, 臨床心理学, 社会福祉と医療法規, 市民と法, 医学研究入門) and 5 rows of content.

II 医学とそれに関する領域の知識

基礎、臨床、社会医学等の知識を有し、それらを医療の実践の場で応用できる。医療の基礎となっている生命科学、自然科学、社会科学など関連領域の知識と原理を理解し、説明できる。

Table with 40 columns (same as above) and 7 rows of content.

III 医療の実践

患者に対し思いやりと敬意を示し、患者個人を尊重した適切で効果的な医療と健康増進を実施できる。医学とそれに関連する領域の知識を統合し、急性あるいは慢性の頻度の高い疾患の診断と治療を計画できる。

Table with 40 columns (same as above) and 5 rows of content.

IV チームマネジメントとコミュニケーション技能

お互いの立場を理解、尊重した人間関係を構築し、思いやりがある効果的なコミュニケーションができる。医学・医療における文書を適切に作成し、取り扱うことができる。責任ある情報交換と記録を行うことができる。

Table with 40 columns (same as above) and 5 rows of content.

V 医学、医療、保健、社会への貢献

医療機関、行政等の規則等に基づいた保健活動と医療の実践、研究、開発を通して社会に貢献できることを理解できている。

Table with 40 columns (same as above) and 5 rows of content.

VI 国際的視野と科学的探究

国際的視野をもって、基礎、臨床、社会医学の意義を理解し、科学的情報の評価、批判的思考、新しい情報を生み出すための論理的思考に基づき計画の立案ができる。

Table with 40 columns (same as above) and 3 rows of content.

I 倫理観とプロフェッショナリズム

患者、患者家族、医療チームメンバーを尊重し、責任をもって医療を実践するためのプロフェッショナリズム（態度、考え方、倫理感など）を有して行動することができる。そのために、医師としての自己を評価し、生涯にわたって向上を図ることの必要性と方法を理解している。

	奈良学	次世代医療人育成論	行動科学 I	早期医療体験実習	医学・医療入門講義	デジタル医用工学	臨床手技実習入門 I	教養教育*
1 人間の尊厳を尊重し、患者に対して利他的、共感的、誠実に対応し、患者中心の立場に立つことができる。	C	C	C	C	C	C	C	32%
2 医療倫理・研究倫理を理解し、倫理的原則に基づいて行動することができる。	C	C	C	C	C	C	C	32%
3 医療者としての法的責任・規範を理解し、遵守することができる。	C	C	C	C	C	C	C	30%
4 医学、医療の発展に貢献する使命感と責任感を持つことができる。	C	C	C	C	C	C	C	30%
5 自己の目標を設定し、生涯にわたって向上を図るために学習し研鑽することができる。	C	C	B	C	C	C	C	31%

II 医学とそれに関する領域の知識

基礎、臨床、社会医学等の知識を有し、それらを医療の実践の場で応用できる。医療の基盤となっている生命科学、自然科学、社会科学など関連領域の知識と原理を理解し、説明できる。

6 自然科学と医学の関わりについて説明できる。	C	C	C	C	C	C	—	35%
7 個体の構造と機能を説明できる。	—	—	C	C	C	—	—	30%
8 発生・発達・成長・加齢・死について説明できる。	—	—	C	—	C	—	—	30%
9 病因・病態生理を理解し、診断・治療の原理について説明できる。	—	—	C	C	C	C	C	30%
10 社会と医学・医療との関係、死と法について説明できる。	C	C	C	—	C	—	—	30%
11 人の行動・心理について説明できる。	—	C	B	—	C	—	—	32%
12 医療安全の重要性、医療事故の予防と対処について説明できる。	—	—	C	C	C	C	C	30%

III 医療の実践

患者に対し思いやりと敬意を示し、患者個人を尊重した適切で効果的な医療と健康増進を実施できる。医学とそれに関連する領域の知識を統合して、急性あるいは慢性の頻度の高い疾患の診断と治療を計画できる。

13 患者の主要な病歴を正確に聴取できる。	—	—	—	C	C	—	C	30%
14 身体診察と基本的臨床手技を適切に実施することができる。	—	—	—	B	C	—	B	50%
15 臨床推論により必要な検査を選択し、診断結果から適切な治療計画を立てることができる。	—	—	—	—	C	C	C	30%
16 診療録を適切に作成できる。	—	—	—	—	C	—	—	30%
17 EBMを活用し、患者の安全性を確保した医療を実践できる。	—	—	C	C	C	—	C	30%

IV チームマネジメントとコミュニケーション技能

お互いの立場を理解、尊重した人間関係を構築し、思いやりがある効果的なコミュニケーションができる。医学・医療における文書を適切に作成し、取り扱うことができる。責任ある情報交換と記録を行うことができる。

18 患者、患者家族、医療チームのメンバーと、個人、文化、社会的背景を踏まえて傾聴、共感、理解、支持的態度を示すコミュニケーションを取ることができる。	C	B	B	C	C	—	C	33%
19 患者、患者家族、医療チームのメンバーとの信頼関係を築き、情報交換、説明と同意、教育など医療の基本を実践できる。	C	B	B	C	C	—	C	33%
20 各種医療専門職について理解し、チームリーダー及びメンバーとして役割を果たすことができる。	C	C	C	C	C	—	C	30%
21 レポートや診療情報などの文書を規定に従って適切に作成し、プレゼンテーションができる。	B	B	C	C	C	C	C	32%

V 医学、医療、保健、社会への貢献

医療機関、行政等の規則等に基づいた保健活動と医療の実践、研究、開発を通して社会に貢献できることを理解できている。

22 保健・医療・福祉・介護に関連する法規・制度等を理解したうえで活用することができる。	C	C	—	—	C	C	—	30%
23 健康・福祉に関する問題を評価し、地域や国際社会の疾病予防や健康増進の活動に参加できる。	C	C	—	—	C	C	—	30%
24 医師として地域医療に関わる必要性を理解し、医療現場でプライマリ・ケアを含む診療を実践できる。	C	—	—	—	C	C	—	30%
25 医学・医療の研究と開発が社会に貢献することを理解できる。	—	—	C	—	C	C	—	30%

VI 国際的視野と科学的探究

国際的視野をもって、基礎、臨床、社会医学の意義を理解し、科学的情報の評価、批判的思考、新しい情報を生み出すための論理的思考に基づき計画の立案ができる。

26 国際的視野で医療と医学研究を考えることができる。	—	C	C	—	C	C	—	30%
27 医学的発見の基礎となる科学的理論と方法論を理解し、説明できる。	—	—	C	—	C	C	—	30%
28 科学的研究で明らかになった新しい知見を明確に理解し、説明できる。	—	—	C	—	C	C	—	30%

*教養教育終了時において卒業時アウトカムに対する到達度目標レベル（マイルストーン）を数値化したもの。（各科目の到達度目標レベルを元に平均値を算出）

出席確認端末 (Early Bird) について

下記の講義室で講義が行われる際、出席管理システム端末 (Early Bird) で出席をとる場合があります。

1 Early Bird 導入教室

- 教養教育棟 第一～第四講義室、化学実習室、物理実習室
- 基礎医学棟 第一・第二講義室、生理・薬理・病理実習室、組織実習室、小講義室
- 臨床講義棟 第一・第二講義室
- 看護学科棟 第一～第三合同講義室、第一～第三講義室、情報科学室

2 操作手順

- ・出席確認端末 (Early Bird) では、授業開始前の 10 分間に学生証をかざした場合のみ「出席」と記録されます。(例) 1 時間目 (9:00 開始) の場合は 8:50～9:00
- ・出席管理端末 (Early Bird) に時刻が表示されている状態が正常な状態です。学生証をかざすことで、出席情報の登録を行います。
- ・端末に向かって右端に学生証をかざし、電子音が鳴り画面下部に「学籍番号」と「氏名」が表示されると読取り完了です。

3 注意事項

- ・出席確認方法は科目によって異なりますので、各教員の指示に従ってください。
- ・端末に記録が残されていない場合は欠席扱いになるので注意してください。
- ・学生証を忘れた場合は、欠席扱いとなるので注意してください。
- ・動作確認できない場合や操作に不安がある場合は、再度端末にカードをかざしてください。
- ・教務システム (Active Academy) の「修学ポートフォリオ」で各自の出席状況を確認できますが、実際の出席数を反映しているかどうかは、科目責任者に確認してください。
- ・なお、他人の学生証を端末に通す等の不正行為をすれば、学則第 41 条の規定により、けん責、停学又は退学処分の対象になるので十分注意してください。

〈参考〉奈良県立医科大学学則 (抜粋)

(懲戒処分)

第 41 条 学長は、学生がこの学則及びこの学則に基づく規程並びに学長の指示及び命令にそむき、学生の本分に反する行為があったとき、これに対し懲戒処分として、けん責、停学又は退学の処分をすることができる。ただし、退学の処分は、次の各号の一に該当する者に対してのみ行うことができる。

- 一 性行不良で改善の見込がないと認められる者
- 二 学力劣行で成業見込がないと認められる者
- 三 正当の理由がなくて出席常でない者
- 四 学校の秩序を乱し、その他学生としての本分に反した者

試験に関する諸注意

1 筆記試験の注意事項

- ① 試験開始後、原則として入室限度時刻を超過した遅刻者は受験できない。
- ② 試験開始後、原則として入室限度時刻までは退出できない。
- ③ 試験終了10分前以降は、退出できない。
- ④ 一度退出した者は、再び入室できない。
- ⑤ 受験中における私語及び物品の貸借は一切禁止する。
- ⑥ 机の上には筆記用具、時計（但し、計算、辞書、通信等の機能のある時計は禁止）、メガネ以外は置かないこと。
- ⑦ 携帯電話、スマートフォン、通信機能のある機器等を持っている者は、電源を切り、カバンの中に入れること。
- ⑧ その他、試験監督者の禁止するものを持ち込んで서는ならない。

2 不正行為について

(1) 試験における不正行為とは、次に掲げる行為をいう。

- ア 参照を許されていない書籍、ノート、メモ、携帯電話等を試験中に参照すること。
- イ 他人の答案をのぞき見ること。
- ウ 答案を見せ合うこと。
- エ 音声や動作等により解答に役立つ情報を伝え合うこと。
- オ 机や下敷きなどに解答に役立つメモ等を残すこと。
- カ 試験問題を試験前に不正に入手すること。
- キ その他前記行為に類する行為。

(2) 参照を許されていない書籍、ノート、メモ、携帯電話等を試験中に机の下部棚などに置くことは、実際に参照したかどうかを問わず、不正行為と見なす。

(3) その他、不正行為に関する試験監督者の注意や指示に反する行為は、不正行為と見なす場合がある。

3 不正行為を行った者に対する処分

試験において不正行為を行った者については、当該科目及び関連科目の試験を無効とし、進級又は卒業を停止する。不正行為が悪質であると判断された場合には、学則第41条による懲戒処分を行う。

奈良県立医科大学医学部公欠規程

平成28年2月4日制定

(目的)

第1条 この規程は、奈良県立医科大学学則第25条に規定する学生の欠席について、奈良県立医科大学がやむを得ないと認める理由（以下「理由」という。）による欠席（以下「公欠」という。）の取扱いに関し、必要な事項を定めるものとする。

(公欠の定義)

第2条 公欠とは、学生が次条に規定する理由により講義、実習等を欠席した場合、これを単位認定、科目修得及び履修要件における欠席扱いとしない取扱いをいう。

(公欠の理由)

第3条 公欠を認める理由は、次の各号に掲げるものとする。

- (1) 学生が学校保健安全法施行規則第18条に規定する感染症に罹患したことにより出席停止措置を受けた場合、又は健康管理センター長が学生の出席停止措置が必要であると認めた場合
- (2) 気象警報の発表、交通機関の運休等により学生の通学が困難であると認められた場合
- (3) 学生の親族が死亡した場合（忌引）
- (4) 学生が裁判員制度による裁判員又は裁判員候補者に選任された場合
- (5) 学生がカリキュラム履修や教員の指導下で実施している自主的研究において、教員が必要と認める学会等に参加する場合
- (6) その他学長が必要と認めた場合

(公欠の基準)

第4条 前条第1号及び第3号における公欠の基準については、別表第1に定めるとおりとする。

(公欠の手續)

第5条 公欠の適用を受けようとする学生は、公欠届（別紙様式）に別表第2に定める書類を添えて、学長に提出するものとする。

- 2 学長は、前項の規定により公欠届の提出があったときは、その内容を第3条及び第4条の基準に基づき審査し、公欠として適正と認める場合はこれを許可する。
- 3 公欠の申出時期は、原則として別表第2のとおりとする。ただし、学長が別に定める場合はこの限りではない。
- 4 公欠の許可について、公欠届の内容及び理由によりやむを得ないと認められる場合には、学長は公欠希望日に遡ってこれを認めることができるものとする。

(公欠時の講義、実習等の取扱い)

第6条 教員は、公欠を許可された学生に対し、講義、実習等の履修において、補講、個別指導等の実施により当該学生が不利とならないよう配慮を行うものとする。

ただし、実習等については、公欠を許可されても、追実習、評価及び単位認定ができない場合がある。

(公欠時の定期試験等の取扱い)

第7条 公欠を許可された期間は、奈良県立医科大学医学部医学科授業科目履修要領第5条第3項及び奈良県立医科大学医学部看護学科授業科目履修要領第7条に規定する定期試験等の受験に係る授業時間数には含めないものとする。ただし、前条に規定する補講等が実施された場合は、当該時間数に含めるものとする。

2 公欠を許可された学生に対する定期試験等の取扱いにおいて、奈良県立医科大学医学部医学科授業科目履修要領第5条第4項及び奈良県立医科大学医学部看護学科授業科目履修要領第8条第2項に規定する疾病その他やむを得ない理由については、第3条各号を適用するものとする。

(雑則)

第8条 この規程に定めるもののほか必要な事項は、学長が別に定める。

附 則

この規程は、平成28年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成29年4月1日から施行する。

別表第1（第4条関係）

感染症について(第3条第1号関係)

	対象疾病	出席停止期間
第一種	エボラ出血熱、クリミア・コンゴ出血熱、痘そう、南米出血熱、ペスト、マールブルグ病、ラッサ熱、急性灰白髄炎(ポリオ)、ジフテリア、重症急性呼吸器症候群(病原体がコロナウイルス属SARSコロナウイルスであるものに限る)、MERS、鳥インフルエンザ(病原体がインフルエンザウイルスA属インフルエンザAウイルスであってその血清亜型がH5N1、H7N9であるものに限る)	治癒するまで
第二種	インフルエンザ(鳥インフルエンザH5N1を除く)	発症した後(発熱の翌日を1日目として)5日を経過し、かつ、解熱した後2日を経過するまで
	百日咳	特有の咳が消失するまで、又は5日間の適正な抗菌性物質製剤による治療が終了するまで
	麻疹	解熱した後3日を経過するまで
	流行性耳下腺炎	耳下腺、顎下腺又は舌下腺の腫脹が発現した後5日を経過し、かつ、全身状態が良好になるまで
	風疹	発しんが消失するまで
	水痘	すべての発しんが痂皮化するまで
	咽頭結膜熱	主要症状が消退した後2日を経過するまで
第三種	結核、髄膜炎菌性髄膜炎	病状により本学健康管理センター医師、その他の医師が感染のおそれがないと認めるまで
	感染性胃腸炎(ノロ・ロタ等)	症状のある間が主なウイルスの排出期間なので、下痢、嘔吐症状が消失してから48時間を経過するまで。手洗いを励行すること。
	コレラ、細菌性赤痢、腸管出血性大腸菌感染症、腸チフス、パラチフス、流行性角結膜炎、急性出血性結膜炎、その他感染症	病状により本学健康管理センター医師、その他の医師が感染のおそれがないと認めるまで

忌引について(第3条第3号関係)

親等	対象範囲	日数(土日・祝祭日を含む)
	配偶者	最長7日
1親等	父母、子	最長7日
2親等	祖父母、兄弟姉妹、孫	最長3日

別表第2（第5条関係）

手続方法について

以下の理由により欠席する場合は、公欠届及び以下の添付書類を提出すること。

欠席理由	添付書類	申出時期
感染症等(第3条第1号)	医師の診断書	診断書による療養期間終了後すみやかに
忌引(第3条第3号)	会葬の案内状、礼状等	事後1週間以内
裁判員制度(第3条第4号)	用務内容が記載された書類	招集日の1週間前まで
学会等参加(第3条第5号)	学会等の概要がわかる書類	学会等参加の1週間前まで
その他(第3条第6号)	理由が証明できる書類	事後1週間以内

※(第3条第2号関係)

気象警報の発令、交通機関の運休等社会的要因によるものについては、添付書類の提出は不要とする。

公 欠 届

年 月 日

奈良県立医科大学長 殿

医学部 (医学科・看護学科)

第 学年 (学籍番号)

氏 名 _____

下記の理由により講義、実習等を欠席したいので、公欠の取扱いをお願いします。

記

1 理 由 (該当理由にレを入れること)

- 感染症等
- 気象警報、交通機関運休等
- 忌引 (続柄)
- 裁判員制度
- 学会等参加
- その他 ()

2 公欠期間及び公欠扱いを希望する講義・実習等名

年 月 日 ~ 年 月 日

講義・実習等名 (詳しく記載すること)

※別表第2に定める書類を添付すること

奈良県立医科大学医学部医学科における成績評価異議申立てに関する要領

(目的)

第1条 この要領は、奈良県立医科大学医学部医学科に在籍する学生（以下、「学生」という。）が履修するすべての科目について、奈良県立医科大学医学部医学科授業科目履修要領第7条第6項に規定する成績評価に対する異議申立てに関し必要な事項を定める。

(成績に対する確認)

第2条 学生は、成績に対して確認すべき事項がある場合は、授業科目担当教員に、直接確認することができるものとする。

(確認依頼受付期間)

第3条 前条による確認依頼の受付期間は、成績開示後、一定期間を設けるものとする。

(確認に伴う措置)

第4条 第2条による確認依頼を受けた授業科目担当教員は、所定の期間内に確認結果を回答するものとする。

2 前項の回答に当たっては、授業科目担当教員が直接当該学生に確認結果を回答するものとする。

(異議申立て)

第5条 前条の規定による確認結果に異議がある学生で、次の各号に掲げる事項に該当する場合は、別に定める「成績に対する異議申立書」（以下「異議申立書」という。）を学長あてに提出することにより、異議申立てができるものとする。

(1) 成績の誤記入等、明らかに担当教員の誤りであると思われるもの

(2) シラバスや授業時間内での指示等により周知している成績評価の方法から、明らかに逸脱した評価であると思われるもの

2 前項の異議申立書は教育支援課を通じて提出するものとする。

(異議申立て受付期間)

第6条 前条による異議申立ての受付期間は、当該学生が第4条による回答を受理後、一定期間を設けるものとする。

(受 理)

第7条 学長は、第5条による異議申立書を受理した場合は、医学部教務委員会において当該異議申立ての審査を行うものとする。

2 学長は、異議申立てを受理する事由に該当せず、異議申立てを却下する場合は、速やかに当該学生に通知するものとする。

(審査結果の報告及び対応)

第8条 医学部教務委員会は、当該異議申立ての審査を行い、その結果を学長に報告し、学長が決定するものとする。

2 教育支援課は、学生及び授業科目担当教員に当該結果を成績に対する異議申立てに関する回答書により通知する。この場合において、異議申立てを容認する結果であった場合は、授業科目担当教員に成績について変更する措置を行わせるものとする。

3 異議申立てへの回答に対して再異議申立ては認めない。

(雑則)

第9条 この要領に定めるもののほか、必要な要領は別に定める。

附 則

この要領は令和5年4月1日から施行する。

暴風警報等発表時における授業の措置について

(平成26年1月8日 医学科・看護学科学務委員会等 決定)

台風等の接近に伴い奈良県北西部に「暴風警報」または「特別警報」(大雨、暴風、大雪、暴風雪)が発表されたときの授業の取扱いは原則として次のとおりとする。

【共通事項】

- (1) 午前7時現在「暴風警報」または「特別警報」(大雨、暴風、大雪、暴風雪)が発表されているときは、午前の授業は休講とする。
- (2) 午前11時まで「暴風警報」または「特別警報」(大雨、暴風、大雪、暴風雪)が解除されたときは、午後の授業のみ行う。
- (3) 午前11時以降も「暴風警報」または「特別警報」(大雨、暴風、大雪、暴風雪)が解除されないときは、当日の授業は休講とする。ただし、大学院は下記(7)によることとする。
- (4) 午前11時以降の授業時間中に「暴風警報」または「特別警報」(大雨、暴風、大雪、暴風雪)が発表された場合は、当該授業終了後はすべて休講とし、速やかに帰宅させることとする。
 - ① 「暴風警報」または「特別警報」(大雨、暴風、大雪、暴風雪)が発表された場合のクラブ活動等の課外活動は、禁止とする。
 - ② 「暴風警報」または「特別警報」(大雨、暴風、大雪、暴風雪)が発表された場合の図書館及び自習室等の学内における学生の自習については、禁止とする。

【医学科】

- (5) 医学科の学内及び学外実習については、上記(1)～(4)を原則とし、当該実習施設の指導者の判断に基づき決定することとする。

【看護学科】

- (6) 看護学科の臨地実習については、原則上記(1)～(4)のとおりとする。ただし、学外で実習を行っている場合の措置については、当該実習担当教員が実習先の指導者と協議し、原則として実習を中止し帰宅させる。ただし、台風等の接近に伴い帰宅に危険が伴うことが想定される場合は、実習先で待機させる等の柔軟な対応を行うこととする。

【大学院】

- (7) 大学院については、午後4時まで「暴風警報」または「特別警報」(大雨、暴風、大雪、暴風雪)が解除された場合は、午後6時以降の授業を行う。午後4時以降も解除されない場合は、終日休講とする。
- (8) 実習については、上記(6)に準ずるものとする。

*なお、状況によって警報発表の有無にかかわらず別段の決定を行うことがある。

地震発生等災害時における授業の措置について

地震発生等災害時における授業の取扱は原則として次のとおりとする。

1. 講義

- ①教育支援課が被害状況、交通機関の運行状況等の情報収集を行い医学部長に報告
- ②医学部長が①を確認し、授業の実施、今後の方針等を判断（必要に応じて看護学科長（看護学科長と連絡が取れない場合は、看護教育部長）と協議）
なお、医学部長と連絡が取れない場合は、事務局長が判断
- ③教育支援課は医学部長の判断を教務システム及び大学ホームページに掲載し、周知

休講とする判断の目安

○近鉄大阪線及び橿原線が同時に運休した場合

※ 交通機関の運休等により登校できない場合は、公欠扱いとする。

2. 実習

当該実習の担当教員、領域長及び指導者と協議し、必要に応じて実習を中止し帰宅させる。ただし、帰宅に危険が伴うことが想定される場合は、実習先で待機させる等の柔軟な対応を行うこととする。

※「暴風警報等発表時における授業の措置について」に準じる。

【災害等発生時 教育支援課 緊急連絡先】

- ① 0744-22-3051（大学代表番号）
- ② 0744-22-9844（教務係直通）
- ③ 0744-29-8805（入試・学生支援係直通）
- ④ 0744-29-8917（入試・学生支援係直通）

※係に関係なく、上記いずれかの番号にご連絡ください。

健康管理

(1) 学生相談

学生が学生生活を送るうえでの様々な相談に応じるため、臨床心理士による学生カウンセリングルームを週1回開設しています(予約制)。カウンセリングを希望する場合は、教育支援課又は教員(学生生活相談担当教員、アドバイザー教員、研究指導教員など)を通じて申込んでください。教育支援課に申し込みする場合、希望のカウンセリング日を伝えてください。教育支援課担当者がカウンセラーと日程調整を行います。なお、相談内容の秘密は固く守られます。

(2) 健康相談

学生が健康上の相談をしたい場合は、校医(内科)による健康相談を受けることができます。教育支援課又は健康管理センターに申込み、日程調整をしてください。

(3) 健康管理

健康状態について、常に自己管理を心がけてください。登校中、又は学内において体調が思わしくない場合は、教育支援課に欠席を届け出たうえで早めに帰宅して静養するなり、医療機関を受診するなどしてください。帰宅が難しいほど不調の場合は、教育支援課に連絡し(5)の健康管理センターの指示に従ってください。

(4) 定期健康診断

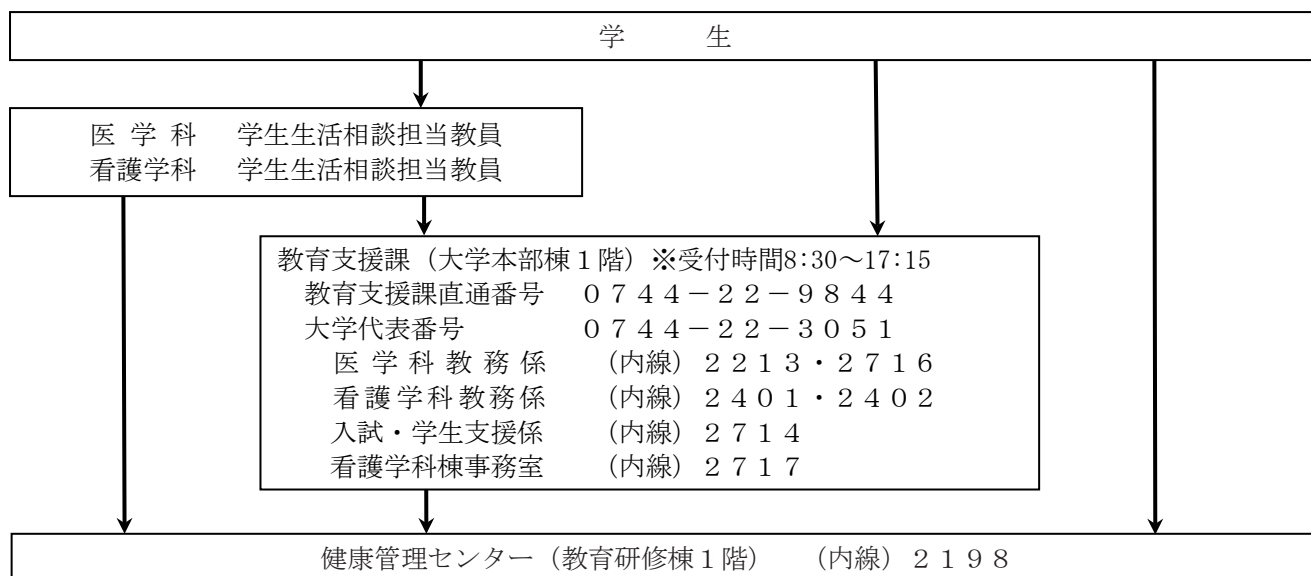
学校保健安全法により、定期健康診断の実施が義務付けられています。

各学年とも毎年1回、4月以降に実施する定期健康診断を受けなければなりません。定期健康診断を受診できなかった学生については、診断項目について自己責任で受診し(5)の健康管理センターに報告してください。

また、医学科1年生、編入2年生、看護学科1年生・看護学研究科1年を対象に結核感染防止のためのIGRAs検査、麻疹(はしか)・風疹(三日ばしか)・流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)・水痘(水ぼうそう)の4種感染症抗体価検査及びB型肝炎抗原抗体検査を実施します。さらに、B型肝炎抗原抗体検査の結果、ワクチン接種対象とされた方にはB型肝炎ワクチン接種を実施します。健康診断の記録は大切に保管しておいてください。

(5) 健康管理センター

学内において緊急を要する怪我・発病等の場合は、下記により健康管理センターに連絡してください。応急対応やベッドでの休憩などが可能です。必要に応じて医療機関を案内します。なお、健康保険証は常に携帯しておくことをお勧めします。



(6) 附属病院の受診を希望される方へ

本大学の附属病院を受診される場合、他院もしくは健康管理センターの発行する紹介状を持参されると選定療養費が免除されます。

健康管理センターにて紹介状の発行を希望される方は、平日午前 8 時 30 分～午後 4 時 30 分までに健康管理センターに行き、手続きをしてください。

なお、緊急の場合を除き、附属病院の受付時間（平日午前 8 時 30 分～午前 11 時）外は受診することはできません。また、診療科により外来診療を行っていない曜日があるため、事前に調べておいてください。

(7) 感染症対策

感染性の疾患にかかった場合、速やかに医療機関を受診し、教育支援課に連絡してください。診断が出るまでは登校を控え、診断が出た場合は医師の指示に従ってください。併せて、診断結果を教育支援課に連絡してください。欠席しても公欠が認められますので、登校後に診断書と公欠届を提出してください。

なお、新型コロナウイルス感染症については大学からの対応方針が状況に応じて更新されているので、最新の情報を把握してそれに従ってください。

主な感染症の出席停止期間

（その他の疾患でも教育支援課または健康管理センターの指示に従って下さい）

感染症の種類	出席停止期間（登校基準）
インフルエンザ （※）	発症した後（発熱の翌日を 1 日目として）5 日を経過し、かつ、解熱した後 2 日を経過するまで。
百日咳	特有の咳が消失するまで、または 5 日間の適切な抗菌薬療法が終了するまで。
流行性耳下腺炎 （おたふくかぜ）	耳下腺等の腫脹が発現した後 5 日を経過し、かつ、全身状態が良好になるまで。
麻疹（はしか）	発疹に伴う発熱が解熱した後 3 日を経過するまでは出席停止。ただし、病状により感染力が強いと認められたときは、さらに長期に及ぶ場合もある。
風疹（三日ばしか）	発疹が消失するまで。
水痘（水ぼうそう）	すべての発疹がかさぶたになるまで。
感染性胃腸炎 （ノロ・ロタ等）	下痢、嘔吐症状が消失してから 48 時間を経過するまで。手洗いを励行すること。
B 型肝炎	急性肝炎の急性期でない限り登校は可能。HBV キャリアの登校を制限する必要はない。ただし、血液に触れる場合は手袋を着用するなど、予防策を守ることが大切。
髄膜炎菌性髄膜炎	病状により校医等において感染の恐れがないと認めるまで。

（※）鳥インフルエンザ（H5N1、H7N9 など）及び新型インフルエンザ等感染症は別途対応。

附属病院での実習時には、B 型肝炎、麻疹・風疹・流行性耳下腺炎・水痘の抗体価およびワクチン接種記録の提出が求められます。また、学外の実習受け入れ施設でもワクチン接種を済ませていることを要件とする場合があります。海外留学時にも抗体検査結果やワクチン接種記録が求められます。実習に参加できない事態を避けるため、定期健康診断においてワクチン接種が必要とされた者は、必ずワクチン接種を済ませておいてください。またワクチン接種記録は速やかに健康管理センターに報告するとともに、医療機関に勤める際にも必要になりますので自己管理してください。

令和5年度 教養教育 学事計画表

4月		5月		6月		7月		8月		9月		10月		11月		12月		1月		2月		3月	
1 土	1 月	1 木	1 土	1 木	1 日	1 火	1 金	1 水	1 日	1 水	1 金	1 土	1 日	1 水	1 金	1 土	1 日	1 水	1 金	1 土	1 日	1 水	1 金
2 日	2 火	2 金	2 日	2 火	2 土	2 水	2 日	2 木	2 月	2 木	2 土	2 日	2 金	2 土	2 日	2 火	2 土	2 日	2 火	2 金	2 土	2 日	2 火
3 月	3 水	憲法記念日	3 月	3 土	3 日	3 木	3 日	3 火	3 火	3 水	3 日	3 日	3 火	3 水	3 日	3 木	3 日	3 火	3 水	3 土	3 日	3 日	3 火
4 火	4 木	みどりの日	4 火	4 日	4 金	4 土	4 日	4 木	4 木	4 水	4 日	4 木	4 土	4 日	4 金	4 土	4 日	4 木	4 土	4 日	4 日	4 木	4 日
5 水	5 金	こどもの日	5 水	5 月	5 土	5 日	5 土	5 日	5 木	5 火	5 日	5 木	5 日	5 水	5 日	5 火	5 日	5 木	5 日	5 土	5 日	5 木	5 日
6 木	6 土	オリエンテーション	6 木	6 火	6 日	6 水	6 日	6 木	6 金	6 土	6 日	6 木	6 日	6 水	6 日	6 火	6 日	6 木	6 日	6 土	6 日	6 木	6 日
7 金	7 日	前期授業開始	7 金	7 水	7 土	7 日	7 土	7 日	7 土	7 日	7 土	7 日	7 土	7 日	7 土	7 日	7 土	7 日	7 土	7 日	7 土	7 日	7 土
8 土	8 月	健康診断	8 土	8 木	8 日	8 火	8 日	8 木	8 日	8 水	8 日	8 木	8 日	8 水	8 日	8 木	8 日	8 水	8 日	8 木	8 日	8 水	8 日
9 日	9 火		9 日	9 金	9 日	9 水	9 日	9 木	9 日	9 土	9 日	9 土	9 日	9 木	9 日	9 土	9 日	9 木	9 日	9 土	9 日	9 木	9 日
10 月	10 水		10 月	10 土	10 日	10 火	10 日	10 木	10 日	10 土	10 日	10 土	10 日	10 金	10 日	10 土	10 日	10 木	10 日	10 土	10 日	10 木	10 日
11 火	11 木		11 火	11 日	11 土	11 日	11 土	11 日	11 木	11 日	11 土	11 日	11 土	11 日	11 木	11 日	11 土	11 日	11 木	11 日	11 土	11 日	11 木
12 水	12 金		12 水	12 月	12 日	12 火	12 日	12 木	12 日	12 土	12 日	12 土	12 日	12 金	12 日	12 土	12 日	12 木	12 日	12 土	12 日	12 木	12 日
13 木	13 土		13 木	13 火	13 日	13 水	13 日	13 木	13 日	13 土	13 日	13 土	13 日	13 金	13 日	13 土	13 日	13 木	13 日	13 土	13 日	13 木	13 日
14 金	14 日		14 金	14 水	14 日	14 木	14 日	14 土	14 日	14 木	14 日	14 土	14 日	14 金	14 日	14 土	14 日	14 木	14 日	14 土	14 日	14 木	14 日
15 土	15 月	開学記念日	15 土	15 日	15 土	15 日	15 土	15 日	15 日	15 土	15 日	15 土	15 日	15 金	15 日	15 土	15 日	15 木	15 日	15 土	15 日	15 木	15 日
16 日	16 火		16 日	16 金	16 日	16 水	16 日	16 木	16 日	16 土	16 日	16 土	16 日	16 金	16 日	16 土	16 日	16 木	16 日	16 土	16 日	16 木	16 日
17 月	17 水		17 月	17 土	17 日	17 火	17 日	17 木	17 日	17 土	17 日	17 土	17 日	17 金	17 日	17 土	17 日	17 木	17 日	17 土	17 日	17 木	17 日
18 火	18 木		18 火	18 日	18 土	18 日	18 土	18 日	18 木	18 日	18 土	18 日	18 土	18 日	18 金	18 日	18 土	18 日	18 木	18 日	18 土	18 日	18 木
19 水	19 金		19 水	19 月	19 日	19 火	19 日	19 木	19 日	19 土	19 日	19 土	19 日	19 金	19 日	19 土	19 日	19 木	19 日	19 土	19 日	19 木	19 日
20 木	20 土		20 木	20 火	20 日	20 水	20 日	20 木	20 日	20 土	20 日	20 土	20 日	20 金	20 日	20 土	20 日	20 木	20 日	20 土	20 日	20 木	20 日
21 金	21 日		21 金	21 水	21 日	21 木	21 日	21 土	21 日	21 木	21 日	21 土	21 日	21 金	21 日	21 土	21 日	21 木	21 日	21 土	21 日	21 木	21 日
22 土	22 月		22 土	22 日	22 土	22 日	22 土	22 日	22 日	22 土	22 日	22 土	22 日	22 金	22 日	22 土	22 日	22 木	22 日	22 土	22 日	22 木	22 日
23 日	23 火		23 日	23 金	23 日	23 水	23 日	23 木	23 日	23 土	23 日	23 土	23 日	23 金	23 日	23 土	23 日	23 木	23 日	23 土	23 日	23 木	23 日
24 月	24 水		24 月	24 土	24 日	24 火	24 日	24 木	24 日	24 土	24 日	24 土	24 日	24 金	24 日	24 土	24 日	24 木	24 日	24 土	24 日	24 木	24 日
25 火	25 木		25 火	25 日	25 土	25 日	25 土	25 日	25 木	25 日	25 土	25 日	25 土	25 日	25 金	25 日	25 土	25 日	25 木	25 日	25 土	25 日	25 木
26 水	26 金		26 水	26 月	26 日	26 火	26 日	26 木	26 日	26 土	26 日	26 土	26 日	26 金	26 日	26 土	26 日	26 木	26 日	26 土	26 日	26 木	26 日
27 木	27 土		27 木	27 日	27 土	27 日	27 土	27 日	27 日	27 土	27 日	27 土	27 日	27 金	27 日	27 土	27 日	27 木	27 日	27 土	27 日	27 木	27 日
28 金	28 日		28 金	28 水	28 日	28 木	28 日	28 土	28 日	28 土	28 日	28 土	28 日	28 金	28 日	28 土	28 日	28 木	28 日	28 土	28 日	28 木	28 日
29 土	29 月	昭和の日	29 土	29 日	29 土	29 日	29 土	29 日	29 日	29 土	29 日	29 土	29 日	29 金	29 日	29 土	29 日	29 木	29 日	29 土	29 日	29 木	29 日
30 日	30 火		30 日	30 金	30 日	30 水	30 日	30 木	30 日	30 土	30 日	30 土	30 日	30 金	30 日	30 土	30 日	30 木	30 日	30 土	30 日	30 木	30 日
31 月	31 水		31 月	31 土	31 日	31 火	31 日	31 木	31 日	31 土	31 日	31 土	31 日	31 金	31 日	31 土	31 日	31 木	31 日	31 土	31 日	31 木	31 日